

目 次

1 本冊子の見方	2
2 経済経営学部/経営学系専門教育科目の履修申請（Web申請） の注意	2
3 交通機関の運休の場合等における授業の取扱いについて	4
4 大学からの連絡事項	4
5 学期末・学年末試験等の受験上の注意事項	5
6 追試験について	6
7 再試験について	6
8 成績問い合わせについて	6
9 出席停止について	7
10 カリキュラムマップについて（2018年度以降入学生対象）	7
11 科目ナンバリングについて（2018年度以降入学生対象）	10
開講科目一覧表（目次）	14
■演習・卒業論文以外の専門教育科目	14
■演習・卒業論文（2013～2017年度入学生）	16
授業概要	18
■演習以外の専門教育科目	18
■演習	104

1 本冊子の見方

- (1) 授業概要の1~2行目は、入学年度ごとに左から「授業科目名」「授業番号」「ABC区分」「単位数」を示している。ただし、演習および卒業論文の授業番号は、「開講科目一覧表」で確認すること。
- (2) 「ABC区分」は、経済学コース、経営学コースそれぞれの、「A群科目」、「B群科目」、「C群科目」の区分を示している。詳しくは入学時に配付された「履修の手引」を必ず参照すること。
- (3) 「授業方針・テーマ」は、授業内容の概要と、授業の進め方について説明している。
- (4) 「習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標」は、講義を通じて身につけた知識・能力がどのような形で発揮されるのかを説明している。
- (5) 「授業計画・内容」は、15回の授業について簡潔に説明している。
- (6) 「授業外学習」は、授業内容の学習を深め、単位取得に必要な授業時間外の学習課題について説明している。
- (7) 「テキスト・参考書等」は、授業で利用する文献を紹介している。「テキスト」は常に授業中に利用するものであり、「参考書」は必要に応じて参照すべき文献である。
- (8) 「成績評価方法」は、期末試験、中間試験、レポートなどの実施予定と、評価ウエイトなどが示されている。
- (9) 「質問受付方法（オフィスアワー）」は、授業担当者の質問受付方法について説明している。
- (10) 「特記事項」は、当該授業を受講するに当たって、あらかじめ必要とされる能力や、前提として受講しておくことが望ましい科目、また発展的科目として続けて受講することが望ましい科目を紹介している。
- (11) ★印の科目（基礎数学）は、履修制限があるので、各科目の授業概要のページの備考欄を確認すること。
- (12) 授業日程（開講期・曜日・時限・担当教員等）は事情により変更することがあるので、インフォメーションギャラリーの経済経営学部／経営学系掲示板の掲示に注意すること。

2 経済経営学部／経営学系専門教育科目の履修申請（Web申請）の注意

- (1) 履修の申請をする際は、本冊子や「履修の手引」、「経済経営学部学修のガイド」に記載の履修モデル等をよく読み、授業内容や授業の前提となる科目等を確認し、卒業に向けて計画的・体系的に科目を選択すること。
- (2) 履修申請に際しては、本冊子や時間割冊子、インフォメーションギャラリーの経済経営学部／経営学系掲示板の掲示等で授業番号及び授業科目名をよく確認すること。
- (3) 同一内容の授業であっても、入学年度により授業番号、授業科目名が異なるので注意すること。自分の入学年度と異なる授業番号・科目名で履修申請した場合は、卒業に必要な単位として適切に算入されないことがある。（下記（注）を参照のこと。）
- (4) 同じ曜日の同一時限に複数の授業を履修することはできない。

- (5) 年度の途中で開講が決まる専門教育科目の授業概要、履修申請時期、履修方法は、その都度インフォメーションギャラリーの経済経営学部／経営学系掲示板に掲示する。
- (6) 夏期集中、冬期集中の授業日程は変更される場合があるので、経済経営学部／経営学系掲示板で確認すること。
- (7) 3年次から履修可能な演習を履修申請するためには、2年次後期（10月下旬頃）の演習参加者募集の際に、担当教員から参加の許可を受けている必要がある。履修申請をしなかった場合は、演習参加の許可を取り消す。前期と後期それぞれWeb履修申請が必要となるので注意すること。
- (8) 卒業論文は、4年次前期に必ずWeb履修申請すること。4年次の後期にWeb履修申請することはできない。なお、卒業論文の履修申請を忘れた場合は、卒業論文を提出することができない。演習を履修し、指導教員が許可した者のみ、4年次の最後に卒論を提出できる。提出期限、提出場所、その他の注意事項は、10月の初旬頃に経済経営学部／経営学系掲示板へ掲示する。
- (9) 卒業論文の履修申請時期は、下記(a)(b)の場合を除いて4年次の前期のみである。
- (a) 9月卒業を予定する4年次学生は、前期の履修申請期間中に3号館1階の経済経営学部教務係窓口に履修申請書類を提出することで、「卒業論文（9月）」の履修申請をすることができる。なお、9月卒業の申請は別途4月上～中旬に行う必要があるので、掲示で確認すること。
(授業番号：H832 4単位)
- (b) 3月卒業を予定する4年次学生のうち、留学・休学等のやむを得ない理由により前期に卒業論文のWeb履修申請を行い得なかった学生は、後期の履修申請期間中に3号館1階の経済経営学部教務係窓口に履修申請書類を提出することで、「卒業論文（3月）」の履修申請をすることができる。
(授業番号：H833 4単位)
- (10) インターンシップは、キャリア支援課で斡旋している官公庁でのインターンシップのみ、専門教育科目としての単位を付与する。
インターンシップ先が決定したら、経済経営学部教務係に申し出ること。
申し出とキャリア支援課からの情報にもとづき、履修登録と成績付与はインターンシップ終了後に行われる。
単位数は、インターンシップの期間により異なる。
- $$\left\{ \begin{array}{l} \cdot 8日を超えるもの \cdots 2単位 \left\{ \begin{array}{l} (2013\sim2017年度入学生用授業番号: H109) \\ (2018年度以降入学生用授業番号: H0109) \end{array} \right. \\ \cdot 8日以下のもの \cdots 1単位 \left\{ \begin{array}{l} (2013\sim2017年度入学生用授業番号: H108) \\ (2018年度以降入学生用授業番号: H0108) \end{array} \right. \end{array} \right.$$
- (11) 履修取消制度については、教務課掲示板および経済経営学部／経営学系掲示板で周知する。

(注) 専門教育科目の入学年度別の科目名と授業番号について

- 授業番号が5桁の科目は、2018年度以降の入学生用の授業科目である。
- 授業番号が4桁の科目は、2017年度以前の入学生用の授業科目である。

3 交通機関の運休の場合等における授業の取扱いについて

交通機関が、積雪、風水害、事故、ストライキ等により運休した場合等の授業の取扱いは、次のとおりとし、(4) の方法により確認することができる。

注：「運休」とは、テレビ及びラジオ等により当該路線の全線の運転休止が確認されているものをいう。

- (1) 午前 6 時現在、京王相模原線・京王線、JR横浜線、小田急小田原線のいずれかが運休している場合は、第 1 時限から第 2 時限まで（8：50～12：00）を休講とする。
- (2) 前項に掲げる各路線及び小田急多摩線、JR南武線・中央線・山手線、多摩モノレールのいずれかの全部又は一部の運休など、通学に著しい支障をもたらす状況が生じている場合、若しくは生じることが予想される場合には、その都度休講等を決定する。

休講を決定する時刻

第 1 時限、第 2 時限については、午前 6 時までに決定する。

第 3 時限、第 4 時限（13：00～16：10）については、午前 10 時までに決定する。

第 5 時限、第 6 時限（16：20～19：30）については、午後 1 時までに決定する。

- (3) 定期試験等についても、授業と同様の扱いとする。別途事後措置を行うことがある。
- (4) 確認の方法

東京都立大学公式Twitter(https://twitter.com/TMU_PR) により、確認することができる。

4 大学からの連絡事項

- (1) 教務課、経済経営学部教務係等からの連絡や、学生呼び出しは、インフォメーションギャラリーのそれぞれの掲示板で行うので、大学に来たら必ず各種の掲示板（教務課、経済経営学部／経営学系、休講掲示および学生呼出掲示）を確認すること。休講情報や学生呼出情報は、CAMPUSQUARE for WEBにログインして確認すること。
◆<https://jjh.tmu.ac.jp/campusweb/campusportal.do>
- (2) 学生や保証人が引越し等で住所を変更した場合は、1・2 年次生は 1 号館教務課窓口に、3 年次生以上は、3 号館経済経営学部教務係に住所変更届を提出すること。住所変更届を提出しなかったために、大学からの通知書類等が届かず各種手続きができなくても、一切対応できないので注意すること。
- (3) その他、大学からの連絡事項について、『東京都立大学 学生ポータルサイト』に掲載されることがある。

5 学期末・学年末試験等の受験上の注意事項

学期末・学年末試験等の受験にあたっては、下記の注意事項を熟読し、厳正な態度で臨むこと。

1. 試験場への入室は、試験開始時点から原則として30分まで認める。また、試験場からの退出は、試験開始後30分間は認めない。
ただし、講義により入室および退室許可時間が別途指定される場合があるので注意すること。
なお、実践英語の期末試験及びクラス編成試験は原則として、試験開始後の入室および試験時間内の退出は認めない。
2. 試験場では、原則として一人分の座席を空けて着席すること。座席について、監督者の指示がある場合には、その指示に従うこと。
3. 学生証を持参し、試験中、机上に提示しておくこと。
4. 受験に際し、あらかじめ許可されたもの以外を机の上や、安易に見たり触れたりすることができる場所に置かないこと。
5. 携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電源を切ること。時計、電卓としての使用も禁止する。
6. 答案用紙を試験場外に持ち出さないこと。
7. 受験に際し、以下の行為を行わないこと。
 - (1) 本人以外の代理受験、偽名記入
 - (2) カンニングペーパー等の所持、机上等への書き込み
 - (3) 問題用紙及び答案用紙の見せ合い、交換
 - (4) 話し合い、のぞき見、わき見、私語
 - (5) 持込みが許可されていない物件の持込み
 - (6) 持込み許可物件の貸し借り
8. 以上のか、試験場では、すべて試験監督者の指示に従うこと。

上記の各項に違反したときは、不正行為とみなされることがある。

万一不正行為とみなされる行為があった場合は、以下の処分の対象となる。

1. 学則による懲戒
 - (1) 退学
 - (2) 停学（修業年限の不足により、4年間では卒業できなくなる。）
 - (3) 訓告
2. 教務上の制裁措置（例）
 - (1) 当該科目の履修申請を無効とする。
 - (2) 当該学期に受講および受験した全科目的履修申請を無効とする。
 - (3) 当該学年に受講および受験した全科目的履修申請を無効とする。

6 追試験について

試験期間内において下記の理由により、試験を受けられなかった学生に対し追試験が認められる場合がある。追試験を希望する場合は、当該試験日の翌日から起算して**3日以内**（休日は除く）に、受験できなかった理由を証明する書類*を添えて、1・2年次生は1号館教務課に、3年次生以上は3号館経済経営学部教務係に申請すること。

ただし、感染症にかかった（疑いのある場合を含む）際は出席停止となるため、電話で追試を希望する旨を連絡すること。出席停止については、次頁の「9 出席停止について」を参照すること。

*受験できなかった理由を証明する書類の一例

申請事由	添付書類
1. 交通機関の運休・運転見合わせ	遅延証明書
2. 疾病	医師の診断書
3. 親族の死亡（三親等以内）	事実を証明できる書類（会葬礼状等）
4. その他	理由書（やむを得ない理由を詳しく説明したもの）

（就職活動等の自己都合を理由とする追試験申請は原則として認めない。）

7 再試験について

教員によっては、再試験を行なうこともある。各教員のシラバスやkibaco、授業内アンケートおよび経済経営学部／経営学系掲示板を確認すること。

8 成績問い合わせについて

経済経営学部／経営学系専門教育科目の成績に関して問い合わせる場合は、成績開示の日を含めて2週間以内に経済経営学部教務係窓口で問い合わせの申請をすること。

9 出席停止について

インフルエンザ、百日咳、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん（三日はしか）、水痘（水ぼうそう）、結核など、学校保健安全法に定められた感染症にかかった（疑いを含む）場合は、法律に基づき、授業への出席を停止しなければならない。

学校感染症にかかった（疑いを含む）場合は、直ちに大学に電話で連絡し、指示を受けること。

【連絡先】南大沢：042-677-1111（代表）

- ・ 1、2年次生（健康福祉学部2年次生を除く。） 1号館教務課
- ・ 3、4年次生以上（健康福祉学部は2年次生以上） 各学部／系の教務係

なお、治癒後は大学のホームページから、「感染症治癒証明書」をダウンロードし、医療機関で医師の証明を受けること。

出席停止期間中の授業については、出席停止が解除された後に、授業担当教員から別途指示を受けること。

学期末・学年末試験については、前頁の「6 追試験について」および入学時に配布された「履修の手引」の第Ⅰ部履修概要（全学共通編）「試験と成績評価 **追試験**」を参照の上、感染症にかかった（疑いを含む）ことを大学に電話で連絡する際に、あわせて追試を希望する旨を伝え、指示を受けること。

10 カリキュラム・マップについて（2018年度以降入学生対象）

「カリキュラム・マップ」とは、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」で定めた、獲得すべき学修成果と各授業科目の関係を表したものである。

「カリキュラム・マップ」を確認することにより、各授業科目を履修することで獲得できる学修成果を認識することができる。卒業するまでに多くの科目を履修して学修を積み重ね、本学の学位を取得するのに必要な学修成果（知識・理解及び技術、普遍的に有用性を持つ能力）を体系的に修得していく。

（なお、カリキュラム・マップの授業科目名は、2018年度以降入学生用の科目名である。「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」の全文は、大学ホームページに掲載している。【大学ホームページ】⇒〈教育情報の公表〉⇒〈法定事項〉）

(1) 経済経営学部 経済学コースのカリキュラム・マップ

授業科目名	単位数	群	分野固有の知識							普遍的に有用性を持つ能力				異なる文化・社会への理解 倫理観 社会的責任の自覚
			日本経済	国際経済	金融	企業行動	経済理論	経済データ分析	経済史	ファイナンス	数学・統計	情報活用能力	総合的問題思考力	論理的思考力
基礎数学1	2	A								○	○	○	○	○
基礎数学2	2	B								○	○	○	○	○
データ解析	2	B								○	○	○	○	○
ミクロ経済学1	2	A								○	○	○	○	○
ミクロ経済学2	2	A								○	○	○	○	○
マクロ経済学1	2	A								○	○	○	○	○
マクロ経済学2	2	A								○	○	○	○	○
計量経済学1	2	A								○	○	○	○	○
計量経済学2	2	A								○	○	○	○	○
応用統計学	2	B								○	○	○	○	○
ゲーム理論1	2	A								○	○	○	○	○
ゲーム理論2	2	B								○	○	○	○	○
公共経済学	2	B								○	○	○	○	○
産業組織論	2	B								○	○	○	○	○
労働経済学	2	B								○	○	○	○	○
金融論1	2	A								○	○	○	○	○
金融論2	2	B								○	○	○	○	○
金融経済学	2	B								○	○	○	○	○
企業経済学	2	B								○	○	○	○	○
国際経済学	2	B								○	○	○	○	○
国際金融論	2	B								○	○	○	○	○
日本経済論1	2	A								○	○	○	○	○
日本経済論2	2	B								○	○	○	○	○
財政学	2	B								○	○	○	○	○
経済史概論	2	A								○	○	○	○	○
日本経済史概論	2	A								○	○	○	○	○
経済学説史	2	A								○	○	○	○	○
経済思想概論	2	A								○	○	○	○	○
日本経済史	2	B								○	○	○	○	○
現代日本経済史	2	B								○	○	○	○	○
都市経済史	2	B								○	○	○	○	○
西洋経済史	2	B								○	○	○	○	○
アジア経済史	2	B								○	○	○	○	○
現代アジア経済史	2	B								○	○	○	○	○
経営行動論	2	B								○	○	○	○	○
経営史	2	B								○	○	○	○	○
経営戦略論	2	B								○	○	○	○	○
経営組織論	2	B								○	○	○	○	○
組織行動	2	B								○	○	○	○	○
意思決定論	2	B								○	○	○	○	○
ヒューマン・リソース・マネジメント	2	B								○	○	○	○	○
財務戦略論	2	B								○	○	○	○	○
競争戦略論	2	B								○	○	○	○	○
テクノロジー・マネジメント	2	B								○	○	○	○	○
ビジネスイノベーション	2	B								○	○	○	○	○
マーケティング・マネジメント	2	B								○	○	○	○	○
マーケティング・コミュニケーション	2	B								○	○	○	○	○
マーケティング・サイエンス	2	B								○	○	○	○	○
マーケティング・リサーチ	2	B								○	○	○	○	○
経営科学概論	2	B								○	○	○	○	○
経営科学1	2	B								○	○	○	○	○
経営科学2	2	B								○	○	○	○	○
経営数理	2	B								○	○	○	○	○
ファイナンス	2	A								○	○	○	○	○
金融工学	2	B								○	○	○	○	○
金融リスク論	2	B								○	○	○	○	○
コーポレートファイナンス	2	B								○	○	○	○	○
財務会計論	2	B								○	○	○	○	○
管理会計論	2	B								○	○	○	○	○
会計制度論	2	B								○	○	○	○	○
財務諸表論	2	B								○	○	○	○	○
財務情報分析論	2	B								○	○	○	○	○
原価計算論	2	B								○	○	○	○	○
2年次専門セミナー	2	B								○	○	○	○	○
経済経営特別講義	2	B								○	○	○	○	○
経済学コース特別講義	2	B								○	○	○	○	○
経営学コース特別講義	2	C								○	○	○	○	○
外国書講読	2	B								○	○	○	○	○
専門書講読	2	C								○	○	○	○	○
演習	2	B								○	○	○	○	○
卒業論文	4	B								○	○	○	○	○
インターンシップ	1または2	B								○	○	○	○	○

(※上記は2018年度以降入学生用の科目名・ABC区分である。)

(2) 経済経営学部 経営学コース のカリキュラム・マップ

授業科目名	単位数	群	分野固有の知識						普遍的に有用性を持つ能力				異なる文化・社会への理解	
			経営戦略	組織・管理	財務会計	管理会計	経営科学	ファイナンス	数学・統計	コミュニケーション能力	情報活用能力	総合的問題思考力	論理的思考力	
基礎数学1	2	A							○	○	○	○	○	
基礎数学2	2	B							○	○	○	○	○	
データ解析	2	A						○	○	○				
経営行動論	2	B			○	○	○			○	○	○	○	○
経営史	2	B			○	○	○			○	○	○	○	○
経営戦略論	2	A			○	○	○			○	○	○	○	○
経営組織論	2	A			○	○	○			○	○	○	○	○
組織行動	2	B			○	○	○			○	○	○	○	○
意思決定論	2	B			○	○	○			○	○	○	○	○
ヒューマン・リソース・マネジメント	2	A			○	○	○			○	○	○	○	○
財務戦略論	2	A			○	○	○			○	○	○	○	○
競争戦略論	2	B			○	○	○			○	○	○	○	○
テクノロジー・マネジメント	2	B			○	○	○			○	○	○	○	○
ビジネスイノベーション	2	B			○	○	○			○	○	○	○	○
マーケティング・マネジメント	2	A			○	○	○			○	○	○	○	○
マーケティング・コミュニケーション	2	B			○	○	○			○	○	○	○	○
マーケティング・サイエンス	2	A			○					○	○	○	○	○
マーケティング・リサーチ	2	B								○	○	○	○	○
経営科学概論	2	A								○	○	○	○	○
経営科学1	2	B								○	○	○	○	○
経営科学2	2	B								○	○	○	○	○
経営数理	2	B								○	○	○	○	○
ファイナンス	2	A								○	○	○	○	○
金融工学	2	B								○	○	○	○	○
金融リスク論	2	B								○	○	○	○	○
コーポレートファイナンス	2	B								○	○	○	○	○
財務会計論	2	A								○	○	○	○	○
管理会計論	2	A								○	○	○	○	○
会計制度論	2	B								○	○	○	○	○
財務諸表論	2	B								○	○	○	○	○
財務情報分析論	2	B								○	○	○	○	○
原価計算論	2	B								○	○	○	○	○
ミクロ経済学1	2	A								○				○
ミクロ経済学2	2	B									○	○	○	○
マクロ経済学1	2	B									○	○	○	○
マクロ経済学2	2	B									○	○	○	○
計量経済学1	2	B									○	○	○	○
計量経済学2	2	B									○	○	○	○
応用統計学	2	B									○	○	○	○
ゲーム理論1	2	B									○	○	○	○
ゲーム理論2	2	B									○	○	○	○
公共経済学	2	B										○	○	○
産業組織論	2	B										○	○	○
労働経済学	2	B										○	○	○
金融論1	2	B										○	○	○
金融論2	2	B										○	○	○
金融経済学	2	B										○	○	○
企業経済学	2	B										○	○	○
国際経済学	2	B										○	○	○
国際金融論	2	B										○	○	○
日本経済論1	2	B										○	○	○
日本経済論2	2	B										○	○	○
財政学	2	B											○	○
経済史概論	2	B										○	○	○
日本経済史概論	2	B										○	○	○
経済学説史	2	B										○	○	○
経済思想概論	2	B										○	○	○
日本経済史	2	B										○	○	○
現代日本経済史	2	B										○	○	○
都市経済史	2	B										○	○	○
西洋経済史	2	B										○	○	○
アジア経済史	2	B										○	○	○
現代アジア経済史	2	B										○	○	○
2年次専門セミナー	2	B										○	○	○
経済経営特別講義	2	B										○	○	○
経済学コース特別講義	2	C										○	○	○
経営学コース特別講義	2	B										○	○	○
外国書講読	2	B										○	○	○
専門書講読	2	C										○	○	○
演習	2	B										○	○	○
卒業論文	4	B										○	○	○
インターンシップ	1または2	B										○	○	○

(※上記は2018年度以降入学生用の科目名・ABC区分である。)

11 科目ナンバリングについて（2018年度以降入学生対象）

科目ナンバリングとは、授業科目に番号を付し分類することで、学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みである。（なお、科目ナンバリング一覧表の授業科目名は、2018年度以降入学生用の科目名である。）

（1）科目ナンバリングの構成

<u>A</u> <u>B</u> <u>C</u>	-	<u>1</u>	<u>23</u>	-	<u>1</u>
①プログラムコード アルファベット3桁	-	②水準コード 数字1桁	③識別コード 数字2桁	-	④教授言語コード 数字1桁

（2）経済経営学部専門教育科目 各コードの分類

①プログラムコード

コード	分類
KCC	共通（経済学・経営学）
KCT	共通（統計・数学）
KEC	共通（経済学）
KEF	ファイナンス（経済学）分野
KEH	経済史分野
KEP	ミクロ経済学分野
KET	統計・数学分野
KEY	マクロ経済学分野
KMA	会計学分野
KMC	共通（経営学）
KMF	ファイナンス（経営学）分野
KMM	経営学分野
KMS	経営科学分野

②水準コード

コード	水準	分類
1	入門的・導入的科目	1年次配当科目
2	中級レベルの科目	2年次配当科目
3	高度な内容を扱う科目	3年次配当科目
4	学士課程卒業レベルの科目	4年次配当科目

③識別コード

授業科目ごとに付番する。ただし、クラス分けの授業科目は、共通の識別コードを用いる。

④教授言語コード

コード	分類
1	主に日本語を用いて教授する授業科目
2	主に英語を用いて教授する授業科目
3	主に日本語を用いて教授するクラスと、主に英語を用いて教授するクラスを選択することができる授業科目
4	主に日本語又は英語以外を用いて教授する授業科目
5	1～4以外

(3) 経済経営学部専門教育科目 科目ナンバリング一覧表

次頁【別表】を参照のこと。

【別表】科目ナンバリング一覧表

経済経営学部

科目区分		授業科目名	配当年次	科目ナンバリング				
専門科目	共通	基礎数学1	1 前	KCT	-	1	0	1
		基礎数学2	1・2 後	KCT	-	1	0	2
		データ解析	1・2 後	KCT	-	1	0	3
経済	経済	ミクロ経済学1	1・2 後	KEP	-	1	0	1
		ミクロ経済学2	2・3 前	KEP	-	2	0	1
		マクロ経済学1	1・2 後	KEY	-	1	0	1
		マクロ経済学2	2・3 前	KEY	-	2	0	1
		計量経済学1	2・3 前	KET	-	2	0	1
		計量経済学2	2・3 後	KET	-	2	0	2
		応用統計学	3・4 前	KET	-	3	0	1
		ゲーム理論1	2・3 前	KEP	-	2	0	2
		ゲーム理論2	2・3 後	KEP	-	2	0	3
		公共経済学	2・3 前	KEP	-	2	0	4
		産業組織論	2・3 前	KEP	-	2	0	5
		労働経済学	2・3 後	KEP	-	2	0	6
		金融論1	1・2 後	KEF	-	1	0	1
		金融論2	2・3 前	KEF	-	2	0	1
		金融経済学	2・3 後	KEF	-	2	0	2
		企業経済学	2・3 前	KEP	-	2	0	7
		国際経済学	2・3 前	KEP	-	2	0	8
		国際金融論	2・3 後	KEF	-	2	0	3
		日本経済論1	2・3 前	KEY	-	2	0	2
		日本経済論2	2・3 後	KEY	-	2	0	3
		財政学	2・3 前	KEY	-	2	0	4
		経済史概論	1・2 前	KEH	-	1	0	2
		日本経済史概論	1・2 後	KEH	-	1	0	3
		経済学説史	2・3 前	KEH	-	2	0	1
		経済思想概論	1・2 後	KEH	-	1	0	1
		日本経済史	2・3 前	KEH	-	2	0	4
		現代日本経済史	2・3 後	KEH	-	2	0	5
		都市経済史	2・3 前	KEH	-	2	0	3
		西洋経済史	2・3 前	KEH	-	2	0	2
		アジア経済史	2・3 前	KEH	-	2	0	6
		現代アジア経済史	2・3 後	KEH	-	2	0	7

(※実際の開講期（前・後）は、配当年次に記載の前・後と異なることがあるので注意すること。)

科目区分		授業科目名	配当年次	科目ナンバリング					
専門科目	経営	経営行動論	2・3・4後	KMM	-	2	0	1	-1
		経営史	2・3・4前	KMM	-	2	0	2	-1
		経営戦略論	1・2後	KMM	-	1	0	1	-1
		経営組織論	1・2後	KMM	-	1	0	2	-1
		組織行動	2・3・4前	KMM	-	2	0	3	-1
		意思決定論	2・3・4前	KMM	-	2	0	4	-1
		ヒューマン・リソース・マネジメント	2・3後	KMM	-	2	0	5	-1
		財務戦略論	2・3前	KMM	-	2	0	6	-1
		競争戦略論	2・3後	KMM	-	2	0	7	-1
		テクノロジー・マネジメント	3・4後	KMM	-	3	0	1	-1
		ビジネスイノベーション	3・4後	KMM	-	3	0	2	-1
		マーケティング・マネジメント	2・3前	KMM	-	2	0	8	-1
		マーケティング・コミュニケーション	2・3後	KMM	-	2	0	9	-1
		マーケティング・サイエンス	2・3・4前	KMS	-	2	0	1	-1
		マーケティング・リサーチ	2・3・4後	KMS	-	2	0	2	-1
		経営科学概論	1・2前後	KMS	-	1	0	1	-1
		経営科学1	2・3・4後	KMS	-	2	0	3	-1
		経営科学2	2・3・4前	KMS	-	2	0	4	-1
		経営数理	2・3・4後	KMS	-	2	0	5	-1
		ファイナンス	1後	KMF	-	1	0	1	-1
		金融工学	2後	KMF	-	2	0	1	-1
		金融リスク論	3・4前	KMF	-	3	0	1	-1
		コーポレートファイナンス	2・3後	KMF	-	2	0	2	-1
		財務会計論	1・2後	KMA	-	1	0	1	-1
		管理会計論	2・3・4前	KMA	-	2	0	1	-1
	共通	会計制度論	3・4前	KMA	-	3	0	1	-1
		財務諸表論	2・3・4後	KMA	-	2	0	2	-1
		財務情報分析論	2・3・4後	KMA	-	2	0	3	-1
		原価計算論	1・2後	KMA	-	1	0	2	-1
		2年次専門セミナー	2後	KCC	-	2	0	1	-1
		経済経営特別講義	2・3・4後	KCC	-	2	0	2	-1
		経済学コース特別講義	3・4後	KEC	-	3	0	1	-1
		経営学コース特別講義	3・4前後	KMC	-	3	0	1	-1
		外国書講読	3・4後	KCC	-	3	0	1	-1
		専門書講読	3・4後	KCC	-	3	0	2	-1

(※上記は2018年度以降入学生用の科目名である。)

<※入学年度によって授業番号が異なるので、各自の入学年度の授業番号を必ず確認すること※>

【2020年度 専門教育科目 開講科目一覧表（演習・卒論以外）】

(★の科目は、経済経営学部、人文社会学部、法学部、都市環境学部都市政策科学科、都市教養学部経営学系、人文・社会系、法学系、都市政策コース所属の学生のみが履修できる。)

曜日	時限	開講期	2018年度以降入学生 (経済経営学部)		2017年度以前入学生 (都市教養学部経営学系)		担当教員 (*は非常勤講師)	頁
			授業番号	授業科目名	授業番号	授業科目名		
月	2	前期	H0421	計量経済学1	H421	計量経済学1	小方 浩明	18
月	3	前期	H0003	企業経済学	H003	企業経済学	芝田 隆志	19
★	月	3 前期	H0413	基礎数学1	H413	基礎数学1	飯村 卓也	20
★	月	3 前期	H0415	基礎数学1	H415	基礎数学1	森 治憲 宮本 弘暁	21
月	3 前期		H0441	財政学	H441	財政学	金子 憲	22
月	4 前期		H0243	経済学説史	H243	経済学説史	高見 典和	23
月	4 前期		H0438	応用統計学	H438	応用統計学	小方 浩明	24
月	5 前期		H0259	産業組織論	H259	産業組織論	大石 尊之 (*)	25
月	5 前期		H0435	経済史概論	H435	経済史概論	岩間 俊彦	26
火	2 前期		H0031	マーケティング・サイエンス	H031	マーケティング・サイエンス	中山 厚穂	27
火	2 前期		H0404	ゲーム理論1	H404	ゲーム理論1	渡辺 隆裕	28
火	3 前期		H0146	意思決定論	H146	意思決定論	長瀬 勝彦	29
火	3 前期		H0445	金融論2	H445	金融論2	松岡 多利思	30
火	4 前期		H0431	公共経済学	H431	公共経済学	森本 健平	31
水	1 前期		H0149	経済経営特別講義 (Financial Accounting in Japan)	H149	経営学コース特別講義 (Financial Accounting in Japan)	野口 昌良	32
水	2 前期		H0401	経営科学1	H401	経営科学1	山下 英明	33
水	2 前期		H0417	マーケティング・マネジメント	H417	マーケティング・マネジメント	水越 康介	34
水	2 前期		H0467	経済学コース特別講義 (現代日本経済)	H467	経済学コース特別講義 (現代日本経済)	宮本 弘暁	35
水	3 前期		H0446	経営科学2	H446	経営科学2	森口 聰子	36
水	4 前期		H0066	管理会計論	H066	管理会計論	細海 昌一郎	37
木	1 前期		H0101	金融リスク論	H101	金融リスク論	室町 幸雄	38
木	1 前期		H0207	日本経済史	H207	日本経済史	小林 延人	39
木	1 前期		H0212	組織行動	H212	組織行動	高尾 義明	40
木	2 前期		H0033	金融工学	H033	金融工学	西出 勝正 (*)	41
木	2 前期		H0086	原価計算論	H086	原価計算論	妹尾 剛好 (*)	42
木	2 前期		H0408	日本経済論1	H408	日本経済論1	村田 啓子	43
木	2 前期		H0418	経済学コース特別講義 (マクロ経済動学)	H418	マクロ経済動学	脇田 成	44
木	3 前期		H0434	財務戦略論	H434	財務戦略論	松田 千恵子	45
木	3 前期		H0443	マクロ経済学2	H443	マクロ経済学2	脇田 成	46
木	4 前期		H0267	専門書講読	H267	専門書講読	森 哲男 (*)	47
金	1 前期		H0453	アジア経済史	H453	アジア経済史	竹内 祐介	48
金	2 前期		H0407	ミクロ経済学2	H407	ミクロ経済学2	飯村 卓也	49
金	3 前期		H0252	西洋経済史	H252	西洋経済史	岩間 俊彦	50
金	4 前期		H0452	会計制度論	H452	会計制度論	野口 昌良	51
夏季集中			H0468	経済経営特別講義 (International Accounting)	H468	経営学コース特別講義 (International Accounting)	ゲスタボ タナカ (*)	52
夏季集中			H0462	経済経営特別講義 (Japanese Management)	H462	経営学コース特別講義 (Japanese Management)	遠藤 貴宏 (*)	53
夏季集中			H0461	経済経営特別講義 (Microeconomics)	H461	経済学コース特別講義 (Microeconomics)	磯貝 茂樹 (*)	54

曜日	時限	開講期	2018年度以降入学生 (経済経営学部)		2017年度以前入学生 (都市教養学部経営学系)		担当教員 (*は非常勤講師)	頁	
			授業番号	授業科目名	授業番号	授業科目名			
月	2	後期	H0400	経営史	H400	経営史	日向 祥子 (*)	55	
月	2	後期	H0422	計量経済学 2	H422	計量経済学 2	飯星 博邦	56	
月	2	後期	H0429	コーポレートファイナンス	H429	コーポレートファイナンス	芝田 隆志	57	
月	3	後期	H0255	データ解析	H255	データ解析	森 治憲	58	
月	3	後期	H0258	都市経済史	H258	都市経済史	岩間 俊彦	59	
月	3	後期	H0279	ビジネスイノベーション	H279	ビジネスイノベーション	高橋 勅徳	60	
月	4	後期	H0411	マクロ経済学 1	H411	マクロ経済学 1	荒戸 寛樹	61	
月	4	後期	H0437	経済思想概論	H437	経済思想概論	高見 典和	62	
火	2	後期	H0004	ヒューマン・リソース・マネジメント	H004	ヒューマン・リソース・マネジメント	西村 純 (*)	63	
火	2	後期	H0213	マーケティング・リサーチ	H213	マーケティング・リサーチ	中山 厚穂	64	
火	2	後期	H0430	ゲーム理論 2	H430	ゲーム理論 2	渡辺 隆裕	65	
火	3	後期	H0061	経営戦略論	H061	経営戦略論	竹田 陽子	66	
火	3	後期	H0425	金融論 1	H425	金融論 1	松岡 多利思	67	
火	3	後期	H0470	経済学コース特別講義(産業史)	H470	経済学コース特別講義(産業史)	井澤 龍	68	
火	4	後期	H0433	マクロ経済学 1	H433	マクロ経済学 1	森本 倭平	69	
火	4	後期	H0471	外国書講読 (英)	H471	外国書講読 (英)	井澤 龍	70	
火	4	後期	H0501	2年次専門セミナー(経営科学)	—	—	山下・森口・澄田 (*)	71	
水	1	後期	H0440	国際金融論	H440	国際金融論	荒戸 寛樹	72	
水	2	後期	H0245	労働経済学	H245	労働経済学	宮本 弘暉	73	
水	2	後期	H0423	経営科学概論	H423	経営科学概論	山下 英明	74	
水	2	後期	H0502	2年次専門セミナー (会計学)	—	—	野口・浅野・細海	75	
水	3	後期	H0227	財務諸表論	H227	財務諸表論	浅野 敬志	76	
水	3	後期	H0273	マーケティング・コミュニケーション	H273	マーケティング・コミュニケーション	水越 康介	77	
水	3	後期	H0424	経営科学概論	H424	経営科学概論	森口 聰子	78	
水	4	後期	H0201	金融経済学	H201	金融経済学	田中 敬一	79	
★	水	4	後期	H0414	基礎数学 2	H414	基礎数学 2	山下 英明 森口 聰子	80
水	4	後期	H0447	財務情報分析論	H447	財務情報分析論	細海 昌一郎	81	
木	1	後期	H0074	経営組織論	H074	経営組織論	高尾 義明	82	
木	1	後期	H0208	現代日本経済史	H208	現代日本経済史	小林 延人	83	
木	2	後期	H0211	ファイナンス	—	—	内山 朋規	84	
木	2	後期	H0265	外国書講読 (英)	H265	外国書講読 (英)	脇田 成	85	
木	2	後期	H0442	国際経済学	H442	国際経済学	小森谷 徳純 (*)	86	
木	2	後期	H0503	2年次専門セミナー (経済学)	—	—	芝田・森・荒戸	87	
木	2	後期	H0504	2年次専門セミナー (経営学)	—	—	松尾 隆	88	
木	3	後期	H0403	経営数理	H403	経営数理	室田 一雄	89	
木	3	後期	H0426	日本経済論 2	H426	日本経済論 2	村田 啓子	90	
木	3	後期	H0432	マクロ経済学 1	H432	マクロ経済学 1	脇田 成	91	
金	1	後期	H0263	経済経営特別講義 (Business Cycle Theory)	H263	経済学コース特別講義 (Business Cycle Theory)	高 準亨 (*)	92	
金	1	後期	H0454	現代アジア経済史	H454	現代アジア経済史	竹内 祐介	93	
金	2	後期	H0264	経済経営特別講義 (International Macroeconomics)	H264	経済学コース特別講義 (International Macroeconomics)	高 準亨 (*)	94	
金	2	後期	H0276	経営学コース特別講義 (ファッショントラベルの現在)	H276	経営学コース特別講義 (ファッショントラベルの現在)	松尾 隆	95	
金	2	後期	H0436	日本経済史概論	H436	日本経済史概論	竹内 祐介 小林 延人	96	
金	2	後期	H0460	経済経営特別講義 (Global Economic History)	H460	経済学コース特別講義 (Global Economic History)	岩間 俊彦	97	
金	3	後期	H0233	テクノロジー・マネジメント	H233	テクノロジー・マネジメント	松尾 隆	98	
金	3	後期	H0405	マクロ経済学 1	H405	マクロ経済学 1	飯村 卓也	99	
金	4	後期	H0015	競争戦略論	H015	競争戦略論	姜 理恵 (*)	100	
金	4	後期	H0047	財務会計論	H047	財務会計論	野口 昌良	101	
金	4	後期	H0505	2年次専門セミナー (経済史)	—	—	高見 典和	102	
冬季集中		H0469	経済経営特別講義 (Advanced Financial Accounting)		H469	経営学コース特別講義 (Advanced Financial Accounting)		グスタボ タナカ (*)	
—		インターンシップについて					—	3	

【演習（ゼミ）・卒業論文 開講科目一覧表】

- 「演習」は前期・後期それぞれで、「卒業論文」は4年の前期に必ずWeb履修申請すること。
- 演習は、2017年度以前入学者と2018年度以降入学者で授業番号が異なるので注意すること。
- 単位数は、「演習」は前期・後期各2単位、「卒業論文」は通年で4単位である。
- 演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月1日以降に必ず確認すること。

演 習					担当教員	卒業論文 (2017年度以前入学生のみ)			
前期授業番号		後期授業番号		授業科目名	曜日	時限	卒論科目名	授業番号	頁
2018-	-2017	2018-	-2017						
H0606	H606	H0706	H706	演習（田中）	月	3, 4	田中 敬一	卒業論文（田中）	H806 104
H0614	H614	H0714	H714	演習（山下）	月	4, 5	山下 英明	卒業論文（山下）	H813 105
H0620	H620	H0720	H720	演習（高橋）	月	4, 5	高橋 勅徳	卒業論文（高橋）	H819 106
H0630	H630	H0730	H730	演習（飯星）	月	4, 5	飯星 博邦	卒業論文（飯星）	H801 107
H0605	H605	H0705	H705	演習（芝田）	月	5, 6	芝田 隆志	卒業論文（芝田）	H804 108
H0635	H635	H0735	H735	演習（高見）	月	5, 6	高見 典和	卒業論文（高見）	H834 109
H0610	H610	H0710	H710	演習（松田）	火	4	松田 千恵子	卒業論文（松田）	H809 110
H0601	H601	H0701	H701	演習（飯村）	火	4, 5	飯村 卓也	卒業論文（飯村）	H802 111
H0607	H607	H0707	H707	演習（長瀬）	火	4, 5	長瀬 勝彦	卒業論文（長瀬）	H807 112
H0622	H622	H0722	H722	演習（中山）	火	4, 5	中山 厚穂	卒業論文（中山）	H821 113
H0625	H625	H0725	H725	演習（松岡）	火	4, 5	松岡 多利思	卒業論文（松岡）	H824 114
H0633	H633	H0733	H733	演習（竹田）	火	4, 5	竹田 陽子	卒業論文（竹田）	H830 115
H0612	H612	H0712	H712	演習（室町）	火	5	室町 幸雄	卒業論文（室町）	H835 116
H0618	H618	H0718	H718	演習（荒戸）	水	2, 3	荒戸 寛樹	卒業論文（荒戸）	H816 117
H0621	H621	H0721	H721	演習（竹内）	水	3, 4	竹内 祐介	卒業論文（竹内）	H820 118
H0616	H616	H0716	H716	演習（渡辺）	水	4, 5	渡辺 隆裕	卒業論文（渡辺）	H815 119
H0617	H617	H0717	H717	演習（浅野）	水	4, 5	浅野 敬志	卒業論文（浅野）	H817 120
H0626	H626	H0726	H726	演習（水越）	水	4, 5	水越 康介	卒業論文（水越）	H825 121
H0634	H634	H0734	H734	演習（森本）	水	4, 5	森本 倭平	卒業論文（森本）	H831 122
H0637	H637	H0737	H737	演習（宮本）	水	4, 5	宮本 弘暁	卒業論文（宮本）	H837 123
H0609	H609	H0709	H709	演習（細海）	水	5, 6	細海 昌一郎	卒業論文（細海）	H808 124
H0631	H631	H0731	H731	演習（室田）	木	2	室田 一雄	卒業論文（室田）	H811 125
H0628	H628	H0728	H728	演習（森口）	木	2, 3	森口 聰子	卒業論文（森口）	H827 126
H0629	H629	H0729	H729	演習（高尾）	木	2, 3	高尾 義明	卒業論文（高尾）	H805 127
H0604	H604	H0704	H704	演習（桑田）	木	5, 6	桑田 耕太郎	卒業論文（桑田）	H803 128
H0611	H611	H0711	H711	演習（村田）	木	5, 6	村田 啓子	卒業論文（村田）	H810 129
H0615	H615	H0715	H715	演習（脇田）	木	5, 6	脇田 成	卒業論文（脇田）	H814 130
H0608	H608	H0708	H708	演習（野口）	金	2, 3	野口 昌良	卒業論文（野口）	H828 131
H0619	H619	H0719	H719	演習（小方）	金	2, 3	小方 浩明	卒業論文（小方）	H818 132
H0627	H627	H0727	H727	演習（森）	金	3, 4	森 治憲	卒業論文（森）	H826 133
H0602	H602	H0702	H702	演習（岩間）	金	4, 5	岩間 俊彦	卒業論文（岩間）	H829 134
H0624	H624	H0724	H724	演習（松尾）	金	4, 5	松尾 隆	卒業論文（松尾）	H823 135
H0636	H636	H0736	H736	演習（小林）	金	4, 5	小林 延人	卒業論文（小林）	H836 136

9月卒業申請者および4年次前期休学者等の「卒業論文」履修申請手続きについて

2018年度以降入学生	計量経済学1	H0421	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	計量経済学1	H421	経営B 経済A	2 単位
担当教員	小方 浩明	前期	月曜日	2 時限
授業方針・テーマ 習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	計量経済学は、経済学で学ぶ理論・数理モデルの妥当性を、統計学で学ぶ手法（主に回帰分析）によって検証する学問である。本講義ではそのような計量経済学の基礎を解説する。 ・簡単な記述統計（データの整理に関する手法）を理解する ・回帰分析の手法を理解する ・仮説検定を理解する ・実際の経済データを用いてPCによる解析ができるようになる 普遍的に有用性を持つ能力として情報活用能力、総合的問題思考力、論理的思考力などが培われると期待される。			
授業計画・内容 授業方法	<p>シラバス執筆時における授業計画は以下である。ただしあくまで計画であるため、若干変更する場合もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データの整理：記述統計 2. 最小2乗法と回帰直線 3. 回帰直線の当てはまりの尺度：決定係数 4. 正規分布と回帰モデル 5. OLS推定量の分布 6. t検定 7. 多重回帰分析 8. FWL定理、説明変数の過不足 9. 多重回帰分析の応用 10. 多重共線性 11. F検定、構造変化の検定 12. 扰乱項の系列相関 13. 不均一分散 14. 予備 15. 期末試験と解説 <p>授業は原則スライドをベースに行われる。スライドは授業前にkibacoにアップロードするので、受講生は事前に確認し、おおよその内容を確認してから授業を受けること。また授業中に適宜演習問題を出す。</p>			
授業外学習	授業外学習として宿題も課す予定である。			
テキスト・参考書等	参考書:山本拓・竹内明香著『入門 計量経済学』新世社			
成績評価方法	学生ごとに次の2つの評価方法で計算し、高い方を採用する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験85%、宿題15% 2. 期末試験100% 			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>【オフィスアワー】月曜3限（メール等でアポイントメントを取ってください） 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・Excelの説明を行う可能性があるので、PC(学校貸与PC・自身のノートPCなど)を持参できれば望ましい。 ・授業に関する情報・資料はkibacoにアップするので頻繁に参照すること。 			

2018年度以降入学生	企業経済学	H0003	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	企業経済学	H003	経営B 経済B	2 単位
担当教員	芝田 隆志	前期	月曜日	3 時限
授業方針・テーマ	本講義では、企業の経済学の基礎的な事項について概説する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義の目的は、ミクロ経済学における企業の利潤最大化において、仮定されたいつかの強い前提条件を緩和し、その結果として生じる経済メカニズムについて概説することにある。本講義を通じて、企業間の戦略的相互依存関係を考慮に入れた企業の戦略や意思決定方法などの考え方を習得する。なお、本講義では、公務員、公認会計士、中小企業診断士などの試験で出題された企業経済学に関する問題を解けるようになることを到達目標とする。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 講義の具体的な内容は下記の通りである。</p> <p>1回 イントロダクション（企業経済学とは、経済学の均衡概念） 2、3回 完全競争下での生産者行動その1（供給関数、要素需要関数） 4、5、6回 完全競争下での生産者行動その2（企業の短期と長期） 7、8回 市場均衡と厚生経済学の基本定理（部分均衡分析） 9、10回 不完全競争市場その1（独占市場、厚生の死荷重、価格差別化、自然独占） 11、12、13回 不完全競争市場その2（ナッシュ均衡、複占市場、寡占市場、価格差別化） 13、14回 エージェンシー理論（情報の非対称性、逆選択、モラルハザード） 15回 試験と解説</p> <p>【授業方法】 講義形式。スライドをkibacoにてダウンロードすること。</p>			
授業外学習	講義において配布する練習問題を自宅学習すること。また、宿題を3回程度課す予定である。さらに、本講義では、練習問題や宿題において需要関数や供給関数などを、EXCELにて描写する演習を取り入れる。EXCELの基本操作については各自で自宅学習しておくこと。			
テキスト・参考書等	テキストは指定・使用しない。 参考書としては、 神取道宏 (2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社			
成績評価方法	試験と宿題（平常点含む）による総合評価。期末試験70%、宿題および平常点30%			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則月曜12:00 - 13:00 前日までにメールにて事前予約をとってください。			
特記事項（他の授業との関連性）	「基礎数学1」「入門ミクロ経済学」を履修済みか履修中であることが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	基礎数学1	H0413	経済A 経営A	2単位
2013~2017年度入学生	基礎数学1	H413	経営A 経済A	2単位
担当教員	飯村 卓也	前期	月曜日	3 時限
授業方針・テーマ	大学1年生が経済経営学部専門科目の講義を受けるときに必要となる数学手法を習得すること。講義の合間に適宜問題演習を行い、論理的思考や数学の概念の理解と実践的な計算能力の向上を図る。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済学・経営学関連の講義に必要な数学の概念を理解し、計算方法を習得する。論理的思考、ベクトルと行列、各種関数の微分、ラグランジュ法による最適化問題の解法の理解を目標とする。			
授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論理と集合（必要条件と十分条件、対偶証明法、集合の演算） 2. 写像・ベクトル・行列（写像の例、ベクトルの内積、2×2 行列） 3. 連立方程式（2×2 逆行列による解法、行列式） 4. 関数（指數関数、対数関数、逆関数、利息の複利計算） 5. 微分（1）（多項式・指數関数・対数関数、合成関数、積、商） 6. 微分（2）（テーラー展開） 7. 演習（1） 8. 偏微分・全微分 9. 最大化・最小化問題の1階条件と2階条件 10. 最大化・最小化問題の1階条件と2階条件（つづき）、応用問題：利潤最大化 11. 多変数関数の最大化・最小化問題、応用問題：最小2乗法 12. 制約付きの最大化・最小化問題、ラグランジュ法 13. 制約付きの最大化・最小化問題、ラグランジュ法（つづき）、応用問題：効用最大化 14. 演習（2） 15. 試験と解説 			
授業外学習	計算問題を含む宿題を5回程度課す。講義ノートには予習用の「練習問題」と復習用の「復習問題」があるので、これにそって自宅学習をすること。宿題はkibaco上に提示する。			
テキスト・参考書等	<p>テキスト なし 講義ノート 初回に配る他、必要に応じてkibacoから各自ダウンロードして入手する。 参考書 水野勝之「テキスト経済数学」中央経済社 他（講義ノートに記載）</p>			
成績評価方法	期末試験70点満点、宿題30点満点で行う。			
質問受付方法（オフィスアワー）	金曜4限。事前にメールでアポイントメントをとって頂ければ、他の時間にも対応できることもあります。			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>（他の授業科目との関連性） 1年次の履修を勧める。前提知識は高校数学ⅡB程度である。</p>			

備考：「基礎数学1」は月曜3限に2クラスで開講され、本授業は

2018年度以降入学 経済経営学部 (000-499)、都市環境学部都市政策科学科

2017年度以前入学 都市教養学部経営学系 (000-199)、都市政策コース

に所属の学生のみが履修できます。上記以外に所属する学生は履修できません。

2018年度以降入学生	基礎数学1	H0415	経済A 経営A	2単位
2013~2017年度入学生	基礎数学1	H415	経営A 経済A	2単位
担当教員	森 治憲、宮本 弘暁	前期	月曜日	3 時限
授業方針・テーマ	大学1年生が経済経営学部専門科目の講義を受けるときに必要となる数学手法を習得すること。講義の合間に適宜問題演習を行い、論理的思考や数学の概念の理解と実践的な計算能力の向上を図る。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済学・経営学関連の講義に必要な数学の概念を理解し、計算方法を習得する。論理的思考、ベクトルと行列、各種関数の微分、ラグランジュ法による最適化問題の解法の理解を目標とする。			
授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 論理と集合（必要条件と十分条件、対偶証明法、集合の演算） 2. 写像・ベクトル・行列（写像の例、ベクトルの内積、2×2 行列） 3. 連立方程式（2×2 逆行列による解法、行列式） 4. 関数（指數関数、対数関数、逆関数、利息の複利計算） 5. 微分（1）（多項式・指數関数・対数関数、合成関数、積、商） 6. 微分（2）（テーラー展開） 7. 演習（1） 8. 偏微分・全微分 9. 最大化・最小化問題の1階条件と2階条件 10. 最大化・最小化問題の1階条件と2階条件（つづき）、応用問題：利潤最大化 11. 多変数関数の最大化・最小化問題、応用問題：最小2乗法 12. 制約付きの最大化・最小化問題、ラグランジュ法 13. 制約付きの最大化・最小化問題、ラグランジュ法（つづき）、応用問題：効用最大化 14. 演習（2） 15. 試験と解説 			
授業外学習	計算問題を含む宿題を5回程度課す。講義ノートには予習用の「練習問題」と復習用の「復習問題」があるので、これにそって自宅学習をすること。宿題はkibaco上に提示する。			
テキスト・参考書等	<p>テキスト なし 講義ノート 初回に配る他、必要に応じてkibacoから各自ダウンロードして入手する。 参考書 水野勝之「テキスト経済数学」中央経済社 他（講義ノートに記載）</p>			
成績評価方法	期末試験70点満点、宿題30点満点で行う。			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>(オフィスアワー) (宮本) 初回の講義で案内する (森) 月曜日4限</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>(他の授業科目との関連性) 1年次の履修を勧める。前提知識は高校数学ⅡB程度である。</p>			

備考：「基礎数学1」は月曜3限に2クラスで開講され、本授業は

2018年度以降入学 経済経営学部(500-999)、人文社会学部、法学部

2017年度以前入学 都市教養学部経営学系(200-999)、人文・社会系、法学系
に所属の学生のみが履修できます。上記以外に所属する学生は履修できません。

2018年度以降入学生	財政学	H0441	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	財政学	H441	経営B 経済B	2 単位
担当教員	金子 憲	前期	月曜日	3 時限
授業方針・テーマ	この講義では、財政学の理論を概説した上で、現在の日本が直面している様々な政策課題に焦点をあてながら、国や地方公共団体などの公共部門が果たす役割を、理論面・制度面・政策面から分析を行う。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	財政の役割とその仕組みに関する理解を深めるとともに、政策論に必要な分析手法を重点的に修得することによって、今後の日本の政治・経済・財政全般に関する幅広い視野と政策形成に資する能力を身に付けることを目標とする。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【講義計画・内容】</p> <p>第1回 「財政の3機能」(1) 資源配分機能：公共財（サミュエルソンの公式）、外部性（ピグー的政策）</p> <p>第2回 「財政の3機能」(2) 所得再分配機能：格差社会の問題、負の所得税（Negative income tax）</p> <p>第3回 「財政の3機能」(3) 景気安定化機能：財政のマクロ経済分析</p> <p>第4回 「財政の現状」(1) 一般会計歳入・歳出構造、財政赤字の国際比較</p> <p>第5回 「財政の現状」(2) 財政の持続可能性分析、プライマリー・バランス、ドーマーの定理</p> <p>第6回 「財政の現状」(3) 財政政策の有効性をめぐる議論、ブキャナン＝ワグナーの「公共選択論」</p> <p>第7回 「予算・財政制度」(1) 予算編成・執行・決算など日本の予算・財政制度</p> <p>第8回 「予算・財政制度」(2) 予算編成過程における政策決定プロセスと政策評価</p> <p>第9回 「財政投融資」：「第2の予算」としての役割、政策コスト分析</p> <p>第10回 「租税理論」(1) 租税原則、国の税制、地方の税制</p> <p>第11回 「租税理論」(2) 課税のミクロ経済分析：従量税と従価税、租税の転嫁と帰着</p> <p>第12回 「地方財政」(1) 国と地方の財政関係、政府間財政における「ソフトな予算制約」</p> <p>第13回 「地方財政」(2) オーツ「分権化定理」、ティブルー仮説「足による投票」、ヤードスティック競争</p> <p>第14回 「国際マクロ経済学」：オープン・エコノミーのIS-LMモデル</p> <p>第15回 「マクロ経済成長理論」：ハロッド＝ドーマーの成長理論、新古典派成長モデル（ソロー・モデル）</p>			
授業外学習	講義の重要論点をまとめておくこと。			
テキスト・参考書等	講義の際、適宜紹介する。必要に応じてレジュメ等を配布する。			
成績評価方法	講義中に実施する課題と定期試験の結果を基に総合的に評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	特定のオフィスアワーは設けませんので、授業に関する質問等がある場合は、事前にメールでアポイントを取ってください。			
特記事項（他の授業との関連性）	ミクロ経済学、マクロ経済学の理論については、初学者も理解できるように解説する。			

備考：

2018年度以降入学生	経済学説史	H0243	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経済学説史	H243	経営B 経済B	2 単位
担当教員	高見 典和	前期	月曜日	4 時限
授業方針・テーマ	19世紀終わりから経済学は数理的学問として発展していき、さまざまな経済学者の努力により現在の姿をとるに至りました。本講義では、その歴史的プロセスを講義します。合わせて、学問の歴史を論じる視点を養うために、科学哲学についても簡潔に講義します。(専門分野の知識・理解、論理的思考力)			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済学の他の科目で学習する内容を歴史的に捉え直すことができるようになります。これを通じて、経済学の理解をより一層深めることができます。(専門分野の知識・理解、論理的思考力)			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 経済学方法論 第3回 科学哲学 第4回 科学論 第5回 プラグマティズム 第6回 限界革命 第7回 ヒックス 第8回 サムエルソン 第9回 計量経済学 第10回 ゲーム理論 第11回 一般競争均衡 第12回 行動経済学 第13回 ケインズ 第14回 経済成長理論 第15回 試験と解説</p>			
授業外学習	事前にkibacoをつうじてハンドアウトを配布します。目を通しておいてもらうと良いでしょう。また、1,000字程度の読解レポートを2回課します。			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】野原慎司・沖公祐・高見典和 著、『経済学史——経済理論誕生の経緯をたどる』(日本評論社) 【参考書】D・ウェイド・ハンズ 著、高見典和・原谷直樹・若田部昌澄 監訳、『ルールなき省察——経済学方法論と現代科学論』(慶應義塾大学出版会)</p>			
成績評価方法	期末試験60%、レポート40% (専門分野の知識・理解、論理的思考力)			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。			
特記事項（他の授業との関連性）				

備考 :

2018年度以降入学生	応用統計学	H0438	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	応用統計学	H438	経営B 経済B	2 単位
担当教員	小方 浩明	前期	月曜日	4 時限
授業方針・テーマ	例えは種類の違う複数の肥料で穀物を育てるとする。肥料の違いで収穫量に差があると言つてよいのか。またあるとすればどの肥料間で差があるのか。そのような問題を扱う、「分散分析」や「多重比較法」と呼ばれる手法を中心に学ぶ。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	分散分析、多重比較法についてのさまざまな手法・仕組みを理解し、実行することができる。またそれにより、普遍的に有用性を持つ能力として情報活用能力、総合的問題思考力、論理的思考力などが培われると期待される。			
授業計画・内容 授業方法	<p>シラバス執筆時における授業計画は以下である。ただしあくまで計画であるため、実際には若干変更する場合もある。</p> <p>第1回 母平均の差の検定 第2回 分散分析（一元配置完全無作為化法） 第3回 分散分析（一元配置乱塊法） 第4回 分散分析（二元配置完全無作為化法） 第5回 多重比較法の考え方とボンフェローニの方法 第6回 テューキーの方法・ダネットの方法 第7回 ウィルコクソンの順位和検定・符号付き順位和検定 第8回 符号検定・クラスカル－ウォリス検定・フリードマン検定 第9回 スティール－ドウワスの方法・スティールの方法 第10回 等分散性の検定 第11回 正規性の検定 第12回 実験計画法 第13回 予備 第14回 復習 第15回 試験と解説</p>			
授業外学習	授業は原則スライドをベースに行われる。スライドは授業前にkibacoにアップロードするので、受講生は事前に確認し、おおよその内容を確認してから授業を受けること。授業外学習として宿題も3回課す予定である。			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：指定しない 参考図書：永田靖・吉田道弘『統計的多重比較法の基礎』サイエンティスト社 三輪哲久『実験計画法と分散分析』朝倉書店 村上英俊『ノンパラメトリック法』朝倉書店</p>			
成績評価方法	<p>学生ごとに</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末試験85%、宿題15% 2. 期末試験100% <p>の二つの評価方法で計算し、高い方を採用する。期末試験並びに宿題は、授業内容の理解を確認するものである。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>【オフィスアワー】月曜3限（メール等で事前にアポイントメントを取ってください） 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	統計学Ⅰ・Ⅱで扱う内容を前提とするので、それらは履修済みであることが望ましい。授業中はルート機能付き電卓を持参のこと。Excelなどの計算ソフトが入ったノートPCでも可。また授業中に適宜演習問題を出す。			

備考：

2018年度以降入学生	産業組織論	H0259	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	産業組織論	H259	経営B 経済B	2 単位
担当教員	大石 尊之 (*)	前期	月曜日	5 時限
授業方針・テーマ				
現実の産業・企業レベルで観察される様々な経済現象のメカニズムを経済学的に把握できるようになったうえで、国の競争政策や公的規制の役割とその意義、あるいは課題点に関して基本的な知識を修得できるようになることを目標する。				
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標				
修得出来る知識・能力： 市場における競争政策と公的規制の役割を理解することは、経済社会の諸問題、特に産業界の市場に関する諸問題に対する解決策を提案するためには欠かせない。この解決策を経済学の観点から立案・実行するための知識・能力を修得出来る。				
授業の目的・到達目標：				
近年、日本ではイノベーションを促進し、経済を活性化させることの緊要性が広く認識されている。そのためには公正かつ自由な競争を市場で促進するための競争政策が必要である。本科目では、競争政策の基本的な役割や意義を理解し、いま必要とされる日本のイノベーション促進や経済活性化に対する解決策を提案することができるための基礎知識を修得することを、授業の目的・到達目標とする。				
授業計画・内容				
授業方法				
授業計画・内容：				
以下の15回の授業計画に基づいて授業を進める。ただし、授業の進捗状況によって若干の変更もありうる。				
1 : 産業組織論の目的と日米の競争政策 2 : 産業組織分析の基礎：費用の諸概念と企業行動 3 : 産業組織分析の基礎：不完全競争市場と経済厚生 4 : 産業のセットアップ費用と規模の経済 5 : 費用遞減産業と自然独占 6 : 費用遞減産業の価格規制 7 : 費用遞減産業における競争導入 8 : 製品差別化と独占的競争 9 : 短期・長期の独占的競争と社会厚生 10 : 市場分割による完全価格差別 11 : 二部料金と効率性 12 : 複占市場の価格競争：ベルトラン・モデル 13 : ベルトランのパラドックスと需要制約 14 : 振り返り 15 : 試験と解説				
授業方法：				
講義は図を多用し、モデル分析で使う数学は最低限必要なものに留めながらも、論理的で丁寧な議論を行う。また、日本や海外の産業界で起きている産業組織論的な話題も授業に織り交ぜながら、授業内容と現実の社会・経済問題との接続もわかりやすく伝えていきたい。授業中に質問の投げ掛けを積極的に行い、質問に対する受講生の反応を授業内容に取り込みながら、双方向の授業を展開していく。				
授業外学習				
毎回の授業で予習のため指定する参考書の該当箇所や日本の競争政策や産業界の進展等の情報に関する新聞等の記事を読んでおき、授業に臨むこと。				
テキスト・参考書等				
テキストは指定しないが、以下の書籍を参考書として挙げる。授業は主に（1）の書籍が参考になるが、ベルトラン市場などの一部のトピックは（2）の参考書が詳しい。 (1) 泉田成美・柳川隆『プラクティカル 産業組織論』有斐閣アルマ、2008年 (2) 矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店、2001年				
成績評価方法				
期末試験を100パーセントで評価する。 * 授業内における私語や緊急性のないスマートフォンの操作等を厳禁とする。同一授業内において、担当教員による注意を無視して、これらの行為を行った場合、最大5パーセントの減点を評価に加味する。				
質問受付方法（オフィスアワー）				
事前に担当教員にメール (taka-p@tmu.ac.jp) でアポイントメントをとること。原則として、授業後にオフィスアワーに応じる。				
特記事項（他の授業との関連性）				
ミクロ経済学はもとより、ゲーム理論とも産業組織論は関連が深い。例えば、ベルトラン・モデルを分析する上で、非協力ゲーム理論の均衡概念であるナッシュ均衡の理解が欠かせない。本科目では、授業の理解に必要最低限のゲーム理論の知見も説明するが、本科目に興味のある学生は、ゲーム理論の学習も推奨したい。				

備考：

2018年度以降入学生	経済史概論	H0435	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経済史概論	H435	経営B 経済A	2 単位
担当教員	岩間 俊彦	前期	月曜日	5 時限
授業方針・テーマ	今日の経済や経営は、「市場社会」で営まれています。この市場による経済社会はどのように生まれ、発展してきたのでしょうか。本講義では、市場社会における生産や消費、市場という制度、グローバリゼーションのようなテーマの奥にある歴史的な背景をとりあげ、現代の経済と経営を学ぶ上で必要な経済史の考え方と基礎知識を講義します。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「市場社会」を軸に、歴史的にあらわれた経済社会の仕組みとその展開に関する基礎知識を学びます。 ・経済社会の基礎概念（市場、分業、生産、消費、資本、投資）と視点（市場経済、資本主義、産業革命、恐慌、公共部門、社会主义、グローバリゼーション）を習得します。 			
授業計画・内容 授業方法	<p>講義形式ですが、計画の箇所のテキストや資料の内容について教員が質問したり、投影した資料等をその場で考察したりすることがありますので、積極的な姿勢でのぞんでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の案内（授業の計画や成績評価について説明）、経済問題とは何か 2 市場経済以前—現在とは大きく異なる古代や中世の経済社会 3 市場経済の登場—中世から近世西洋における資本主義経済の形成、そして経済学の誕生 4 産業革命—西洋における最初の工業化の原因・特徴・意義 5 工業技術のインパクト—アメリカ合衆国における資本主義経済の高度化と現代経済社会の源流 6 大恐慌—アメリカ合衆国における資本主義経済の挫折 7 公共部門の登場—公共部門の成長による経済社会の復興、そしてマクロ経済学の誕生 8 ヨーロッパにおける現代資本主義の誕生—多様な資本主義を示す20世紀ヨーロッパ 9 資本主義の黄金時代—第二次世界大戦後における経済社会=「こんなによかった時代はなかった」 10 黄金時代の終わり—1970年代以降に始まる資本主義経済の諸問題の端緒 11 社会主義の興亡—20世紀の経済社会における壮大な試み=社会主義 12 経済生活のグローバル化—資本主義経済の問題への回答の一つであり、新たな問題の起源=グローバル化 13 なぜ貧しいままの国があるのか—資本主義経済が引き起こした深刻な問題の一つ=南北問題 14 情報化経済の形成、そして、現在の経済社会の課題と可能性——資本主義経済と深く関わるITの展開、21世紀までの経済社会の回顧と「多様な資本主義」の展望 15 試験と解説 			
授業外学習	講義は、計画に該当するテキストの章や授業の資料を事前に参照してくることを前提にすすめるので、各自、テキスト・資料を参照しながら、各回の要点や疑問点を確認・整理してください。テキストや資料だけでなく、必要に応じて、資料等に掲載された参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。講義で紹介する文献・映像作品・電子情報誌を検証すると、講義内容の理解が深まり、より発展的な視野を育むことができます。			
テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト ハイルブロナー／ミルバーグ『経済社会の形成』丸善出版。講義中にテキストの内容や疑問点について質問することができます。 ・参考書一覧等は公開予定です。kibacoで公開する資料に参考文献等を掲載します。 			
成績評価方法	kibacoで提出する課題（4割）と学期末試験（6割）によります。任意提出の課題レポートを設定します（満点で2.5割の加点）。課題、学期末試験、任意提出レポート等の成績評価基準は、初回に説明します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは初回講義で知らせます。			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>2012年度以前の入学者は、同じ年度に経済史概論と日本経済史概論を履修して経済史となるので注意してください。</p> <p>この講義は、専門科目としての経済史の入り口の一つですので、履修後、日本経済史、アジア経済史、西洋経済史、都市経済史等の科目の履修を勧めます。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	マーケティング・サイエンス	H0031	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	マーケティング・サイエンス	H031	経営A 経済B	2 単位
担当教員	中山 厚穂	前期	火曜日	2 時限
授業方針・テーマ	本講義では、マーケティング上の意思決定や課題解決を行う際に必要となるマーケティングデータを分析するための手法の概念やその活用方法について学習する。そして、手計算やEXCEL、フリーの統計ソフトウェアRを用いて実際にデータを分析することにより、どのように各手法がSTP戦略やマーケティング・ミックスなどを立案するために活用されるのかについて体験する。本講義を通じてマーケティングデータを分析するための手法の概念や活用法について理解することを目指す。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マーケティングの課題解決に必要となるデータ分析手法について理解できるように演習の時間を設定する。これらを通じてマーケティングデータを分析するための方法を体験し、学生が主体的にデータ分析を行うための能力を身に付けることを目標とする。そして、マーケティング活動で生ずる課題を自ら解決できる能力を養うことを目標とする。また、マーケティングの実務では、数学的に客観性をもってデータを論証する能力も必要となるので、数学的な論証能力を身につけることもあわせて目標とする。			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 ガイダンス：マーケティングサイエンスとは</p> <p>第2回 市場セグメンテーション：入門</p> <p>第3回 市場セグメンテーション：クラスター分析（階層クラスター分析）</p> <p>第4回 市場セグメンテーション：クラスター分析（非階層クラスター分析）</p> <p>第5回 市場セグメンテーション：クラスター分析の実際</p> <p>第6回 市場の発見と知覚マップ：入門</p> <p>第7回 市場の発見と知覚マップ：ポジショニング分析</p> <p>第8回 市場の発見と知覚マップ：主成分分析とは</p> <p>第9回 市場の発見と知覚マップ：主成分分析の実際</p> <p>第10回 市場の発見と知覚マップ：選考回帰</p> <p>第11回 マーケティングミックス（4P）：入門</p> <p>第12回 マーケティングミックス（4P）：トライアル・リピート分析</p> <p>第13回 マーケティングミックス（4P）：市場反応分析</p> <p>第14回 マーケティングミックス（4P）：ABC分析とデシル分析</p> <p>第15回まとめ・試験</p>			
授業外学習	講義で扱ったデータ分析手法についての内容を復習するための課題として手計算、Excelやフリーの統計ソフトウェアRなどを使って実習するレポートをテーマごとに課す予定である。			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 特に指定しない。講義時に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ－市場を読み解くデータ分析」有斐閣 古川一郎・守口剛・阿部誠「マーケティング・サイエンス入門」有斐閣アルマ</p>			
成績評価方法	期末試験と授業中に行う小課題や授業外学習としての課題レポートの内容によって成績を評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	毎週、火曜日12:00~13:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も隨時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>【前提知識】 履修にあたってはデータ解析や統計学Ⅰ・Ⅱの内容の知識は必要となりますが履修していないなくても履修可能です。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	ゲーム理論1	H0404	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	ゲーム理論1	H404	経営B 経済A	2 単位
担当教員	渡辺 隆裕	前期	火曜日	2 時限
授業方針・テーマ	本講義はゲーム理論の基礎を身につけることを目的としています。ゲーム理論は、日常に応用できる論理的な戦略的思考として大変興味深い理論です。また、経済学・経営学を始めとする多くの分野で使われていて、経営学系の学生としてゲーム理論の習得は欠かせません。本講義は、ゲーム理論の基礎である完備情報ゲームの理論（戦略形ゲーム、完全情報展開形ゲーム）とその応用を講義します。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>(1) 完備情報（戦略形ゲーム・完全情報展開形ゲーム）を理解し、戦略の支配、混合戦略を含めたナッシュ均衡解、支配されないナッシュ均衡を求められるようになります。</p> <p>(2) 応用として、囚人のジレンマ、弱虫ゲーム、調整ゲーム、コミットメント戦略、信憑性のない脅し、オークション、戦略的投票、交渉理論の基礎などを習得します。これによって社会現象や経済現象をゲーム理論的に解釈する力を身につけます。</p> <p>(3) 複占競争の基礎として、クールノー競争・ベルトラン競争・シュタッケルベルグ競争を学びます。これにより産業組織論、公共経済学、国際経済学、経営の経済学や経済学を用いた競争戦略論などを理解する基礎力を身につけます。</p> <p>(4) 混合戦略を用いたゲーム理論の解を学びます。確率論的な戦略思考を身につけます。</p> <p>授業を通じ、社会現象や経済現象を「仮定」をもとに論理的に説明する力、モデルによって理論的に考える力、といった能力を身につけます。</p>			
授業計画・内容	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 ガイダンス、ゲームを作る 第2回 支配戦略、囚人のジレンマ、ゲーム的状況、最適反応戦略 第3回 ナッシュ均衡 第4回 展開形ゲームとバックワードインダクション、コミットメント 第5回 交渉と最後通牒 第6回 戰略の支配再考：弱支配、支配された戦略の繰り返し削除、非支配ナッシュ均衡 第7回 オークション 第8回 不完全競争市場（1）完全競争、独占、クールノー競争 第9回 不完全競争市場（2）ベルトラン競争、シュタッケルベルグ競争 第10回 戰略的投票（7章7.4） 第11回 ゲーム理論の本質「混合戦略」 混合戦略のナッシュ均衡を求める（1） 第12回 混合戦略のナッシュ均衡を求める（2） 第13回 混合戦略の発展問題（結果の確率分布）、2×2ゲームまとめ、複数均衡の問題 第14回 全体のまとめ 第15回 期末試験と解説</p>			
授業方法	<p>【授業方法】</p> <p>授業は講義形式で行い、主にスライドで行われます。スライドはkibacoか指定されたホームページで配布されています。</p> <p>受講者数は多いですが、適宜、教員が教室を回って学生に質問を投げかけ、それにマイクで学生が答えるという形を取り、各自が考えながら講義ができるスタイルをとっています。</p> <p>講義中には必ず演習問題が出され、それを解いてkibacoに入力、それが演習点となります。演習問題は、SAや周りの人と相談しながら解くことができますので、講義時間内に不明な点を理解できるようになります。</p>			
授業外学習	<p>毎回宿題が出ます。宿題の解答をkibacoに入力することで演習点となります。</p> <p>kibacoに入力する「提出課題」の他にも各自には「自習課題」が出されており、それを解くことで、より高い理解に到達します。</p> <p>講義は、理論の概略とイメージを伝えることが中心となります。理論の詳細や計算に関する部分は、自らがテキストと参考書を読み理解することが必要です。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：渡辺隆裕著「ゼミナール ゲーム理論入門」（日本経済新聞社）。</p> <p>演習問題・宿題などが、この中から出題されることがありますので購入してください。</p> <p>また資料（「ゲーム理論新テキスト」と名前がついている）と、講義スライドも配布されます。こちらもよく読む必要があります。</p> <p>私のホームページゲーム理論のナビゲータにも有用な情報があります。</p> <p>参考書：「図解雑学ゲーム理論」(2004) 渡辺隆裕(著) ナツメ社 「ゲーム理論ワークブック」(2015)岡田章(監修・著)加茂知幸ほか(著) 有斐閣</p>			
成績評価方法	<p>期末試験（前期末試験）を60%、授業内の演習と宿題を40%として評価します。</p> <p>演習は、授業内に<kibaco>を使って行います。</p> <p>宿題も<kibaco>のテスト／アンケートで入力します。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>オフィスアワーは火曜の3限です。</p> <p>事前にメールでアポイントメントをとって頂ければ、他の時間にも対応できることもあります。</p> <p>質問については、メールやkibacoでも受け付けます。</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>毎回の宿題、講義のスライド、宿題の解答、その他の講義資料、講義に関する連絡は<kibaco>、またはあらかじめ指示したホームページ上にアップロードします。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	意思決定論	H0146	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	意思決定論	H146	経営B 経済B	2 単位
担当教員	長瀬 勝彦	前期	火曜日	3 時限
授業方針・テーマ	人間の意思決定について、行動意思決定論に立脚して講ずる。意思決定とは自分の将来の行動について複数の選択肢からひとつを選び取る行為である。個人的な意思決定には、食堂で料理の注文を決めるような日常の意思決定もあれば、進学や就職、転職、結婚など人生の一大事の意思決定もある。企業などの組織の中では、経営者をはじめとするすべての構成員が職務上のさまざまな意思決定を下している。この講義では、人間の意思決定が何に影響を受けてどのようなプロセスでおこなわれているかを議論する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人間の意思決定のありかたは、一般人が思い描いているものとはだいぶ異なっている。人間の意思決定にはさまざまな癖があり、それぞれに「○○ヒューリスティック」や「△△バイアス」といった名称が付いている。この講義では数多くのバイアスとヒューリスティックを議論するので、それらの意味内容を習得することなどを通じて、人間の意思決定の特徴について深く理解することがこの講義の目標である。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容（主な項目）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 「成功要因」の神話と現実 3. 規範的アプローチ 4. ヒューリスティックとバイアス 5. データの収集と分析 6. 確率認知 7. 未来予測と投資の意思決定 8. 市場への参入の意思決定 9. M & Aの意思決定 10. 市場からの撤退の意思決定 11. 事業売却の意思決定 12. 利己心 13. 公正と感情 14. 経験とアナロジー 15. まとめと期末試験 <p>【授業方法】 授業は主として講義形式であるが、一方向の講義ではなく受講生と対話をしながら進行する。受講生は単に授業の内容をノートにとるだけでなく、自分の頭で考え積極的に発言することが期待される。</p>			
授業外学習	原則として毎回の授業に復習課題がある。教科書や配付資料、授業でとったノート等を参考しながらそれを解くことが要請される。			
テキスト・参考書等	<p>教科書として『意思決定のマネジメント』(長瀬勝彦[著]、東洋経済新報社、2008年) (2,808円) を使用する。</p> <p>参考書は『行動意思決定論』(ベイザーマン&ムーア[著]、長瀬勝彦[訳]、白桃書房、2011年) (4,104円)『あなたがお金で損をする本当の理由』(長瀬勝彦[著]、日本経済新聞社、2010年) (720円)、その他随時指示する。</p> <p>随時kibaco経由で資料を配布する。</p>			
成績評価方法	定期試験が主であるが、授業期間中に課題提出等を求めた場合はそれも加味する。なお定期試験の出題範囲は授業の内容すべてと教科書の全範囲である。			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として火曜 6 限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】nagase@tmu.ac.jp			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 本科目は心理学を基盤とした行動意思決定論に立脚しているが、意思決定へのアプローチには他に数理的な規範的アプローチがある。ゲーム理論などの経済学や経営科学の諸科目は基本的に規範的アプローチで意思決定を議論している。</p>			

備考 :

2018年度以降入学生	金融論 2	H0445	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	金融論 2	H445	経営B 経済B	2 単位
担当教員	松岡 多利思	前期	火曜日	3 時限
授業方針・テーマ	「金融論 1」では扱わなかった発展的なトピックや金融理論を解説します。本講義は「金融論 1」の応用編と位置付けられます。最近の金融理論を踏まえ、主に現実の銀行危機やソブリン・デフォルトの問題、金融政策の問題を考えていきます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融理論を学び、現実の金融システムへの理解、またその対策を学ぶことをこの講義の目的とします。			
授業計画・内容 授業方法	<p>テキストに沿った講義資料を基に進めます。</p> <p>第01回 金融の役割 第02回 貯蓄と危険回避的行動 第03回 最適な資産選択 第04回 資産価格と資産選択 第05回 人為的低金利政策と信用割当 第06回 資金調達：ペッキングオーダー理論と企業統治 第07回 金融危機と銀行行動 第08回 短期金融市場 第09回 貨幣の理論 第10回 日本銀行と金融政策 第11回 伝統的経済政策とその有効性 第12回 インフレとデフレ 第13回 インフレ下での経済政策 第14回 非伝統的な金融政策 第15回 期末試験とまとめ</p>			
授業外学習	講義内容の復習を行い、テキストをよく読み出された課題に取り組むこと。			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：『金融論 市場と経済政策の有効性』、福田慎一 [著]、有斐閣、2013年。</p> <p>参考書1：『金融』、内田浩史 [著]、有斐閣、2016年</p> <p>参考書2：『金融論』大野早苗ほか（著）、有斐閣ブックス、2007年</p>			
成績評価方法	複数回の課題30%、期末試験70%により成績評価を行います。			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>質問等は授業後もしくはメールでも受け付けます。</p> <p>オフィスアワーは木曜日 3 限。</p> <p>オフィスアワーとは、学生が質問、あるいは雑談、さらにはお茶を飲みに教官のオフィスを自由に訪れてよい時間のことです。オフィス・アワー中は学生の質問が最優先されます。予約はまったく不要。</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	基本的なミクロ経済学、マクロ経済学、数学および金融論 1 の知識を前提とします。			

備考：

2018年度以降入学生	公共経済学	H0431	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	公共経済学	H431	経営B 経済B	2 単位
担当教員	森本 優平	前期	火曜日	4 時限
授業方針・テーマ	公共経済学は、公共部門の活動を経済学的に分析する分野です。この授業では、まずミクロ経済学の復習を行い、市場の働きについて理解します。その後、公共財、外部性、自然独占、所得再分配、および租税について講義を行い、市場の失敗への対処や所得再分配政策について学びます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	公共部門の活動やその役割について理解を深め、公共財、外部性、自然独占、所得再分配、および租税について授業で学んだ手法（特に、図や数式）を用いて分析ができるようになることが目標です。			
授業計画・内容 授業方法	1回 イントロダクション、ミクロ経済学の復習：消費者行動、生産者行動 2回 ミクロ経済学の復習：市場のメカニズム 3回 公共財：公共財の最適供給 4回 公共財：公共財の自発的供給、リンダール・メカニズム 5回 公共財：クラーク・グローブス・メカニズム、投票 6回 外部性：外部効果と資源配分、ピグー税 7回 外部性：コースの定理、統合・合併 8回 自然独占：独占の弊害、自然独占 9回 自然独占：限界費用価格形成、平均費用価格形成、インセンティブ規制 10回 自然独占：インセンティブ規制、ピークロード・プライシング 11回 所得再分配：所得再分配の必要性 12回 所得再分配：所得格差を表す指標、所得再分配の方法 13回 租税：租税原則、課税の影響 14回 租税：課税の影響、2財モデル 15回 試験と解説			
授業外学習	【授業方法】講義を中心に授業を行います。			
テキスト・参考書等	講義内容の復習を行い、テキストの練習問題や宿題に取り組むこと。 テキスト：小川光・西森晃『公共経済学』中央経済社、2015年			
成績評価方法	期末試験（85%）と宿題（15%）により評価します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限			
特記事項（他の授業との関連性）	「入門ミクロ経済学」、「ミクロ経済学1」、および「基礎数学1」を履修済みであることが望ましいです。また、「ミクロ経済学2」も未履修者は同時に履修することを勧めます。			

備考：

2018年度以降入学生	経済経営特別講義 (Financial Accounting in Japan)	H0149	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経営学コース特別講義 (Financial Accounting in Japan)	H149	経営B 経済C	2 単位
担当教員	野口 昌良	前期	水曜日	1 時限
授業方針・テーマ	The course provides an introduction to financial accounting institutionalized and operationalized in Japan. Distinct differences recognizable between Japanese accounting standards (JP GAAP) and International Financial Reporting Standards (IFRS) are discussed in detail. In making a comparison between the two, the course also gives an overview of the current global convergence of accounting standards, tracing critical events, crises and reforms in Japan.			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. The student would be able to understand the underlying concepts of financial accounting. 2. The student would be able to understand the development of financial accounting in Japan in a broader historical perspective. 3. The student would also be able to form a substantial knowledge base to examine the issue of the global convergence of accounting standards. 4. The student would also be able to know how to use and analyze overall business information systematically. 			
授業計画・内容	<p>[Schedule]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Statements of income and comprehensive income 3. Statement of financial position 4. Inventories 5. Property, plant and equipment 6. Impairment 7. Leases 8. Mid-term examination 9. Intangibles 10. Financial instruments 11. Retirement benefits 12. Income recognition 13. Income taxes 14. Statement of cash flows 15. Final examination and comments 			
授業方法	<p>[In class] Enrolment of the students specializing in accounting is preferable. Each session will be structured with the explanation of a key concept by the instructor and the subsequent discussion with the students, though some forms of group discussions might be required. The students are also expected to submit their reports on specific subjects (for example, an exercise of financial statement analysis on a particular corporation) assigned in advance to examine the understanding of accounting standards.</p>			
授業外学習	<p>[Out of the class] Every student is required to make necessary preparations for each session (with the review of assignments specified in advance) and actively participate in the discussion. Details of the tasks will be announced each time.</p>			
テキスト・参考書等	<p>[Textbook] Not specified for the time being but related handouts will be distributed at each session. [Reference books] Donald E. Kieso, Jerry J. Weygandt, Terry D. Warfield, Intermediate Accounting: IFRS Edition, 3 rd Edition, Wiley.</p>			
成績評価方法	<p>Grades are assessed by (1) the quality of argument and discussion (30%) and the scores of the mid-term and the final examinations in English (70%). When a report is required, the score adds to those of the papers. The assessment criteria are whether the student has sufficient understanding and knowledge of the structure and mechanism of financial accounting.</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>[Office hours] Wednesday 4 th period but questions by email is acceptable.</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>[Relation to other subjects] It is desirable that students have already studied the subjects of 'Introduction to Accounting' and 'Financial Accounting'.</p>			

備考 :

2018年度以降入学生	経営科学Ⅰ	H0401	経済B 経営B	2単位
2013~2017年度入学生	経営科学Ⅰ	H401	経営B 経済B	2単位
担当教員	山下 英明	前期	水曜日	2 時限
授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、経営科学の手法のうち、不確実性を伴う確率モデルに対し、確率論を用いた理論解析や、乱数を用いて数値実験を行うモンテカルロ・シミュレーションについて紹介する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>確率モデルに対する理論的解析とモンテカルロ・シミュレーションの方法について本質的に理解する。</p> <p>経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を確率モデルにモデル化し、システムの分析を行う能力を身に着ける。</p> <p>論理的思考力、総合的問題思考力、コミュニケーション能力を育成する。</p>			
授業計画・内容	1回～第11回 講義中心の授業			
授業方法	<p>授業時間内では、教員が確率モデルの理論解析やシミュレーションの方法について説明し、講義内容に関する課題について、グループで検討し、解答を導く。授業時間外では、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、確率モデル 2. 亂数と簡単なシミュレーション 3. いろいろな確率分布に従う乱数 4. シミュレーションの信頼区間 5. 在庫管理問題と経済的発注量 6. 定期発注方式と発注点方式 7. 需要が変動する在庫管理問題のシミュレーション 8. 待ち行列モデルとリトルの公式 9. 電車の待ち時間 10. M/M/1 待ち行列の解析 11. 待ち行列モデルのシミュレーション 			
授業外学習	<p>第12回～第14回 グループワーク中心の授業</p> <p>グループで身近な問題をモデル化し、シミュレーションを行い、結果を発表する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 12. 実際の問題のモデル化（各自のモデルをグループで討論し、グループで1つのモデルを深掘り） 13. モデルのシミュレーション（グループのモデルのシミュレーションを開発、発表資料の準備） 14. プрезентーション（グループのシミュレーション結果の発表と質疑応答） <p>第15回 試験とその解説</p>			
テキスト・参考書等	<p>毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。</p> <p>グループワークにおいても、シミュレーションの実行、発表の準備等、授業外で行うことがある。</p> <p>テキストは使用しない。</p> <p>参考書：尾崎敏治『確率モデル入門』朝倉書店（1996） 森雅夫、宮沢政清他『オペレーションズ・リサーチⅡ』朝倉書店（1989） 森雅夫、松井知己『オペレーションズ・リサーチ』朝倉書店（2004）</p>			
成績評価方法	<p>提出する演習問題等（30%）、筆記試験（50%）によりオペレーション・リサーチの知識、グループワーク（20%）により総合的問題思考力、コミュニケーション能力を評価する。</p> <p>筆記試験は、期末に1回行う。筆記試験では、基本的に演習問題と類似の問題を出題するが、解法について本質的に理解しているかどうかを問う問題も出題し、論理的思考力を評価する。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は隨時受け付ける。質問がある場合は、前日までに必ずメールで予約した上で研究室（3-413）に来ること。メールで直接質問しても構わない。メールアドレスは、授業中に周知する。			
特記事項（他の授業との関連性）	基礎数学2、統計学Ⅰ、統計学Ⅱを履修済、あるいは履修中であることが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	マーケティング・マネジメント	H0417	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	マーケティング・マネジメント	H417	経営A 経済B	2 単位
担当教員	水越 康介	前期	水曜日	2 時限
授業方針・テーマ	本授業では、マーケティングの基礎的な領域としてマーケティング・マネジメントを学びます。個々のマーケティング活動そのものは、われわれにとってもなじみの深いものがほとんどです。顧客ニーズを元にした製品開発、メディアを通じた広告活動、百貨店やコンビニといった販路の確保、特売やポイント制を通じた価格戦略。授業では、こうした日常的な事例をふまえつつ、できるだけディスカッションを通じながら、その背後にあるマーケティングの論理を明らかにしていきます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本授業では、マーケティングの基礎を学ぶことができます。			
授業計画・内容 授業方法	1回 オリエンテーション、マーケティングの基本 2回 顧客の理解 3回 マーケティング戦略の立案 4回 製品政策 5回 価格政策 6回 プロモーション政策 7回 流通政策 8~9回 マーケティング・ミックスの統合 10回 戰略的マーケティング 11~12回 市場資源のマーケティング 13~14回 マーケティングの拡張 15回 試験と解説			
授業外学習	予習、復習、レポート作成			
テキスト・参考書等	黒岩健一郎・水越康介『マーケティングをつかむ 新版』有斐閣、2018。 ※本授業では、電子書籍（VarsityWeb eBooks：生協）を利用します。書籍購入に際しては、初回オリエンテーション後に行うこと。 水越康介・黒岩健一郎『考えて議論しながらつかむ、ある日の午後のマーケティング授業の風景』有斐閣、2015、キンドル版。			
成績評価方法	授業課題および試験			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは、水曜日、12:00~13:00です。事前に授業中に提示するメールアドレスまでご一報ください。			
特記事項（他の授業との関連性）				

備考：

2018年度以降入学生	経済学コース特別講義（現代日本経済）	H0467	経済B 経営C	2 単位
2013～2017年度入学生	経済学コース特別講義（現代日本経済）	H467	経営C 経済B	2 単位
担当教員	宮本 弘暁	前期	水曜日	2 時限
授業方針・テーマ	現在、日本経済は多くの課題に直面しています。少子高齢化に伴い社会保障が増加する中、財政再建の問題をどう解決すべきか。日本銀行の異次元金融緩和の出口戦略はどうするのか？人生100年時代に対応した働き方は何か、労働市場改革はどのように進めるべきか。そして、いかにして日本経済の再生を図るべきか。本講義では、日本経済に関する最新の経済統計と基礎的な経済理論を踏まえながら、日本経済が直面している課題とそれに対処するための経済政策を学びます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	日本経済の現状と課題についての基礎的な知識を習得することと、経済学の基礎的な概念を用いて、日本経済が抱える課題について、メディアで流される情報を鵜呑みにするのではなく、自分の頭で考えられるようになることを目的とします。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 「失われた20年」と日本経済の現状 第3回 検証アベノミクス 第4回 財政問題 第5回 金融政策の評価 第6回 日本的雇用慣行 第7回 労働市場改革 第8回 少子高齢化と経済政策 第9回 社会保障問題 第10回 住宅市場 第12回 農業、教育、医療 第13回 AI、オートメーション 第14回 まとめ 第15回 期末試験</p> <p>【授業方法】</p> <p>授業はスライドを用いた講義形式で行います。スライドは指定されたホームページで配布されています。</p>			
授業外学習	新聞、ニュース報道などを通じて国内外の経済状況を把握すると同時に、その課題について意識を高めておくことが望まれます。			
テキスト・参考書等	テキストの指定なし。参考書等は必要に応じて講義で紹介します。			
成績評価方法	期末試験（60%）とレポート（40%）によります。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーの時間は第1回の授業時に発表します。			
特記事項（他の授業との関連性）	講義のスライド、その他資料、講義に関する連絡は、指定のホームページ上にアップロードします。			

備考：

2018年度以降入学生	経営科学 2	H0446	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経営科学 2	H446	経営B 経済B	2 単位
担当教員	森口 聰子	前期	水曜日	3 時限
授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、経営科学の手法のうち、数理計画問題、組合せ最適化問題、ネットワーク計画問題を中心に学習する。数理計画問題は、ある制約のもとで目的関数を最大または最小にする問題である。離散値をとる変数を扱う組合せ最適化問題、ネットワーク上の最適化問題であるネットワーク計画問題について、関連するモデル化から求解のためのアルゴリズムを本講義で扱う。機械学習と最適化の関連についても扱う。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	組合せ最適化問題及びネットワーク計画問題とその解法について理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法、解法の手間を評価する方法を身に着けることができる。 数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グラフと組合せ最適化 2. 組合せ最適化問題による数理モデル化 3. 最適化問題の分類と設計、問題の難しさ 4. アルゴリズムの分類 5. 動的計画法（1）ナップサック問題 6. 動的計画法（2）設備更新 7. グラフ理論の基礎 8. 配属の数理（1）最大マッチング問題、割当問題 9. 配属の数理（2）グラフの構造 10. 配属の数理（3）配属問題、安定結婚問題 11. ネットワーク最適化と最適化ソルバー（ソフトウェア） 12. 最小木問題 13. 最小費用流問題 14. 機械学習と最適化 15. 試験・解説 <p>【授業方法】</p> <p>プロジェクトを用いた講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。講義の要点はWEBに資料の形で用意する。また、解答を付した演習問題をWEB上に用意し、自主的な学習の手助けとする。モデル化と最適化技法の適用に関して、学生が自主的にまとめた成果を発表する反転授業形式の演習も導入する。</p>			
授業外学習	WEB上に用意された資料を講義の前に目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に再度、資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。各自で自主的に、WEB上に用意された演習問題に取り組み、解答を参考にしながら理解を確実なものとする。授業の内容に関連して出題される課題に取り組み、レポートを提出する（5回程度）。			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは使用しない。WEB上に資料を用意する。</p> <p>【参考書】 松井泰子、根本俊男、宇野毅明 『入門オペレーションズ・リサーチ I』 東海大学出版 (2008) 繁野麻衣子 『ネットワーク最適化とアルゴリズム』 朝倉書店 (2010) 久保幹夫 『組合せ最適化とアルゴリズム』 共立出版 (2000) 中井悦司 『ITエンジニアのための機械学習理論入門』 技術評論社 (2015)</p>			
成績評価方法	提出する演習問題40%と筆記試験60%により評価する。 筆記試験は、期末に1回行う。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は隨時受け付ける。質問がある場合は、前日までに必ずメールで予約した上で研究室に来ること。 メールで直接質問しても構わない。メールアドレスは、授業中に周知する。			
特記事項（他の授業との関連性）	【前提知識】 基礎数学1、基礎数学2、経営科学概論（経営科学I）を履修済、あるいは履修中であることが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	管理会計論	H0066	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	管理会計論	H066	経営A 経済B	2 単位
担当教員	細海 昌一郎	前期	水曜日	4 時限
授業方針・テーマ	<p>管理会計は、企業内部の経営者に対して経営管理に必要な情報を提供することを目的とした会計といえますが、その主要な役割は大きく2つに分けられます。1つは、合理的な経営上の意思決定を行えるようにする役割であり、もう1つは、意思決定されたことが達成されるようにコントロールする役割です。</p> <p>本講義では、経営管理の重要なツールである管理会計について、基本的かつ重要なテーマを取り上げて講義を行い、演習課題について共に考えます。</p>			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>将来企業等で活躍しようとする受講生が、企業等の客観的な経営データに基づいて、合理的な経営意思決定や業績評価を行うための基礎的な知識・能力を身に付けること。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>本講義の概要（イントロダクション）(第1回) I 管理会計の基礎（第2回、第3回） (1) 管理会計の意義と体系 (2) 原価計算について II 業績管理会計（第4回～第11回） (1) CVP分析 CVP分析の基礎、固定費の意義と管理、感度分析、CVP分析その他の論点 (2) 予算管理 予算管理の基礎、製造間接費予算、売上高予算、予算実績差異分析、予算管理の行動科学的課題、予算管理の弊害と新たな潮流 (3) 資金管理 資金管理の基礎、運転資金の管理、現金資金の管理、キャッシュフローの管理 (4) 分権組織の業績評価 業績評価の基礎、事業部の業績評価指標（BSC等を含む）、EPと業績評価、内部振替価格、ミニプロフィットセンター（MPC） III 意思決定会計（第12回～第14回） (1) 業務的意思決定 業務的意思決定の基礎、最適セールス・ミックス 在庫管理の基礎、経済的発注量（EOQ）とJIT、スループット会計 (2) 戦略的意思決定 戦略的意思決定の基礎、DCF法による投資プロジェクトの評価方法 期末試験（まとめを含む）(第15回)</p> <p>※講義の内容・順序を一部変更することがあります。 ※kibacoを利用した演習課題を取り入れます。</p>			
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の講義内容と演習課題について、よく復習しておいてください。 			
テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に、レジュメを配布して行う予定です。 開講時に改めて指示しますが、参考書については以下の文献を紹介しておきます。 『原価会計の基礎』（編著）、創成社、2020年。 			
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験（50%）、提出物（50%）、出席等（+α）により総合的に評価します。 			
質問受付方法（オフィスアワー）	<ul style="list-style-type: none"> オフィスアワー：原則として木曜日5時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に下記の連絡先に連絡をもらわなければ幸いです）。 連絡先：hosomi@tmu.ac.jp 			
特記事項（他の授業との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> 管理会計は経営管理の重要なツールといえるので、学ぶ意欲があれば、会計学の基礎的知識に自信がない学生の受講も歓迎します。 管理会計の実践的な理解を深めるため、講義内容について、PCを用いた演習課題を取り入れます（演習課題の内容については丁寧に説明します）。 			

備考：

2018年度以降入学生	金融リスク論	H0101	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	金融リスク論	H101	経営B 経済B	2 単位
担当教員	室町 幸雄	前期	木曜日	1 時限
授業方針・テーマ	現代の金融機関はさまざまなりスクに晒されている。しかし、ただ単にリスクと言われても、通常、リスクに対する考え方（例えば、そもそも何をリスクと考えるのか、何を測ることによってリスクを捉えたとみなすのか）は人によってさまざまであり、共通の認識のもとで議論することは難しい。本講義では、現代の金融機関で使われている金融リスクに対する基本的な考え方と、金融リスクの管理手法の基礎を学ぶ。また、潜在的なリスクの大きさを計測し、制御していくための実務的な工学的手法についても学習する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>金融機関をとりまくリスクの概要（種類や特性）に関する知識を習得することが第一のテーマである。それらについて、具体的にリスクが顕在化した過去の事件を取り上げる。第二のテーマは、金融リスクの管理手法として、ポートフォリオによる分散投資効果に関する知識を習得することである。第三のテーマは、現在の金融機関で実際に使用されているリスク計測手法、具体的にはVaR(Value at Risk)という確率論的な考え方についても習熟し、その計測に使われていた数理モデル（分散共分散法）に関する知識を習得することである。簡単なケースであれば自分でも計算できることを知り、得体のしれないリスク計測・リスク管理に対して親近感を持ってもらえれば望ましい。リスクの計測と管理に関する考え方は、将来の自分自身にも適用できる有益な概念である。これらの力を身につけることは論理的思考力、総合的問題思考力、情報活用能力の向上につながると考えている。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 講義の概要、金融リスクとその分類 第2回 必要な数学と統計の知識（復習） 第3回 分散投資効果 第4～6回 ポートフォリオ選択理論（平均分散法、効率的フロンティア、最適ポートフォリオ） 第7回 中間試験／金融データの特性 第8、9回 リスク尺度（Value at RiskとExpected Shortfall） 第10～12回 リスク計測手法（分散共分散法、ヒストリカル法）の数理 第13、14回 バックテスト、ストレステスト、リスクアペタイトフレームワーク 第15回 試験と解説</p> <p>毎回、講義資料をウェブサイトに掲載するので、出力し、精読後に講義に持参してもらう。講義ではその資料をもとに、より詳細な説明を加えていく。</p>			
授業外学習	講義資料を大学のシステム上に掲載するので、各自で出力し、精読してから講義に臨むこと。また、講義後には資料をもとに復習し、資料中の問題には解答を作成すること。			
テキスト・参考書等	木島正明編著『金融リスクの計量化（上）：バリュー・アット・リスク』金融財政事情研究会、1998年。 山下智志『市場リスクの計量化とVaR』、朝倉書店、2000年。			
成績評価方法	中間試験 25%、期末試験 50%、平常点 25%。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワー：特に設定しない。必要なときはメール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）で連絡し、アポイントメントをとること。			
特記事項（他の授業との関連性）	履修しておくべき科目：ファイナンス、金融工学、統計学Ⅰ・Ⅱ、基礎数学Ⅰ・Ⅱ			

備考：

2018年度以降入学生	日本経済史	H0207	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	日本経済史	H207	経営B 経済B	2 単位
担当教員	小林 延人	前期	木曜日	1 時限
授業方針・テーマ	幕末開港期から第一次世界大戦期に至るまでの日本経済の歴史について講義形式で授業を行う。①開港によって日本の経済構造はどのように変容したのか、②明治期に諸産業はどのように「近代化」したのか、上記に留意して、日本が独立を維持しながら資本主義化を成し遂げることができた条件を考察する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の歴史について、基礎的な知識を習得する。 ・政府財政、産業、流通、金融、貿易など各分野の分析を通じて、経済現象が相互に関連していることを正しく理解する。 ・図表を見て、一つ一つの数字や波形が持つ意味を、歴史的背景と関連付けて論理的に説明する能力を身につけることができる。 			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 幕府の経済政策 第2回 脅威商と大名貸 第3回 ペリー来航と日本の開国 第4回 明治維新と維新政府の経済政策 第5回 國際環境と外国貿易 第6回 貨幣制度の歴史、小テスト 第7回 明治初期の財政 第8回 官営事業と殖産興業政策 第9回 在来産業の展開 第10回 産業革命 第11回 明治後期の国際関係、小テスト 第12回 明治憲法体制と明治後期の経済 第13回 日清戦後経営、日露戦後経営 第14回 第一次世界大戦と日本経済 第15回まとめ、期末試験 (※期末試験の日程は第14回目の授業内に変更する可能性がある)</p> <p>【授業方法】：レジュメ、パワーポイントを併用し、各回でリアクションペーパーを配布する。</p>			
授業外学習	各回の配布レジュメをよく復習すること。 また、各回で提示する参考文献を読むこと。			
テキスト・参考書等	テキストは使用しない。授業でレジュメを配布して講義を行う。			
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト2回〔30%〕、期末試験〔70%〕の割合で評価する。 ・授業への参加度（リアクションペーパー）に応じて、加点を行う。 ・正当な理由がなく4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 ・試験は論述問題を含み、主に講義内容の基本的理解ができているかを確認する。年代の暗記を求める問題は出題しないが、物事を論理立てて説明する能力を要求する。 			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーを原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。			
特記事項（他の授業との関連性）	「日本経済史概論」（後期）は日本経済史の入門的な位置付けであり、あわせて履修することが望ましい。本授業はより発展的な内容を扱う。本授業に続く時代は、「現代日本経済史」（後期）において対象とする。			

備考：

2018年度以降入学生	組織行動	H0212	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	組織行動	H212	経営B 経済B	2 単位
担当教員	高尾 義明	前期	木曜日	1 時限
授業方針・テーマ	組織行動論はミクロ組織論と呼ばれることがあるように、微視（ミクロ）的な視座から組織を捉える。組織を構成しているのは組織メンバー一人一人の行動であるが、その行動の背景はきわめて複雑であり、その説明・予測・方向付けを行おうとすれば、さまざまな観点からのアプローチが不可欠となる。本講義では、組織行動論の代表的な概念を理論的に解説するとともに、それらの応用の可能性について検討を行う。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義で修得できる理論枠組みを、組織における人間行動・集団行動の説明・予測・方向付けに役立てることができる。また、組織のメンバーとしてどのように組織とかかわり、ふるまうべきかを内省する手がかりとなる知識を獲得できる。また、授業中に実施するグループワークを通じて、他者とのコミュニケーション能力を高めることもできる。			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回：イントロダクション：組織行動論の対象と沿革、ガイダンス</p> <p>第2回：モチベーション</p> <p>第3回：組織的公正</p> <p>第4回：組織市民行動</p> <p>第5回：組織コミットメント</p> <p>第6回：リーダーシップとフォロワーシップ</p> <p>第7回：コミュニケーション</p> <p>第8回：グループ・ダイナミクス</p> <p>第9回：組織社会化</p> <p>第10回：経験学習</p> <p>第11回：職場学習とコーチング</p> <p>第12回：組織とキャリア</p> <p>第13回：ケースを用いた総合ディスカッション①</p> <p>第14回：ケースを用いた総合ディスカッション②</p> <p>第15回：試験及び解説</p> <p>【授業方法】 受講生がリーディング・アサインメントを事前に精読することを前提に、講義を行う。講義中に、リーディング・アサインメントについての説明を受講生に求める。また、半数以上の授業において授業中にグループワークを実施する。</p>			
授業外学習	毎回指定するリーディング・アサインメントを事前に精読し、授業に臨むこと。			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：第1回で文献（リーディング・アサインメント）を指定し、kibacoを通じて配布する。</p> <p>参考書：二村敏子（編著）『現代ミクロ組織論』（有斐閣、2004年）定価2,592円</p>			
成績評価方法	期末試験の点数を基礎（約80%）にしながら、グループワークなどを通じた講義への積極的貢献（約20%）を加味して成績評価を行う。			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、授業期間中の毎週水曜日14：00 – 15：00をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前々日までに必ずメール（ytakao@tmu.ac.jp）で予約をした上で研究室（3号館224号室）まで来てください。			
特記事項（他の授業との関連性）	【他の科目との関連性】 経営組織論を履修済みであることを前提として授業を進める。			

備考：

2018年度以降入学生	金融工学	H0033	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	金融工学	H033	経営A 経済B	2 単位
担当教員	西出 勝正（*）	前期	木曜日	2 時限
授業方針・テーマ	金融商品の価格理論や最適投資理論など、ファイナンスにおける諸問題を数量的（定量的）に分析する手法を学ぶ。特に、資本資産価格理論（CAPM）やリスク中立確率を用いた価格付け公式などの基本項目を理解する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融商品やポートフォリオ（分散投資）のリスク・リターンの概念とその仕組みを理解することが講義の目的である。			
授業計画・内容 授業方法	<p>各回の講義内容は以下の通りである。但し、受講者の理解度などによって進行が多少前後する可能性がある。</p> <p>第1回：金融工学とは 　　講義の導入</p> <p>第2~3回：数学の準備 　　確率論など前提知識の復習、教科書補論</p> <p>第4~8回：ポートフォリオ選択理論 　　リスク・リターンの概念や評価方法など。教科書第5章</p> <p>第9回：中間試験とその解説</p> <p>第10~12回：金融派生証券 　　オプションなど。教科書第6章</p> <p>第12~14回： 　　無裁定価格理論、ブラック・ショールズ公式など。教科書第7章</p> <p>第15回：期末試験とその解説</p>			
授業外学習	本講義は数学を用いた技術的な議論が多いので、授業外学習による予習・復習が不可欠である。			
テキスト・参考書等	教科書：木島正明・鈴木輝好・後藤允『ファイナンス理論入門』朝倉書店、2012年 他の参考文献は講義中に指示する。			
成績評価方法	<p>おおよそ以下の基準とする。</p> <p>中間試験 3割、期末試験 5割、平常点 2割</p> <p>必要に応じて小テストや宿題を課し、平常点として評価する</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	講義担当者は非常勤のため、質問等は講義終了後またはメール（アドレスは第1回講義で指示する）にて受け付ける（オフィスアワーは講義終了後とする）。			
特記事項（他の授業との関連性）	「ファイナンス入門」程度の予備知識を前提とする。			

備考：

2018年度以降入学生	原価計算論	H0086	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	原価計算論	H086	経営B 経済B	2 単位
担当教員	妹尾 剛好 (*)	前期	木曜日	2 時限
授業方針・テーマ	原価計算は、企業が株主や銀行などの外部の関係者に向けて財務諸表を作成するために役立つものです。しかし、原価計算の役割はそれだけではありません。原価計算は社長から現場の従業員まで、企業内部の関係者のためにも役立ちます。具体的には、製品の価格決定などの「意思決定」や原価低減に向けた人や組織の「コントロール」のために用いることができます。この授業では、企業の生産システムとの関連を意識したうえで、製造業の原価計算の基礎を学習します。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	この授業は、企業の意思決定とコントロールに役立つ原価計算の基礎知識の習得を目的とします。そして、みなさんが原価計算の基礎知識をマスターし、実際のビジネスで活用できるようになることを到達目標とします。			
授業計画・内容 授業方法	<p>《授業計画・内容》</p> <p>第1回 シラバス確認、ガイドance</p> <p>第2回 費目別計算（1）：材料費の計算</p> <p>第3回 費目別計算（2）：労務費の計算</p> <p>第4回 費目別計算（3）：経費の計算</p> <p>第5回 個別原価計算（1）：個別原価計算の概要</p> <p>第6回 個別原価計算（2）：製造間接費の計算</p> <p>第7回 部門別原価計算（1）：部門別原価計算の概要</p> <p>第8回 部門別原価計算（2）：製造部門費の配賦</p> <p>第9回 部門別原価計算（3）：補助部門費の配賦</p> <p>第10回 総合原価計算（1）：総合原価計算の概要</p> <p>第11回 総合原価計算（2）：度外視法による正常仕損・減損の処理</p> <p>第12回 総合原価計算（3）：非度外視法による正常仕損・減損の処理</p> <p>第13回 総合原価計算（4）：異常仕損・減損の処理</p> <p>第14回 第1回から第13回までのまとめ</p> <p>第15回 期末試験・問題解説</p> <p>《授業方法》</p> <p>講義を中心とした授業を実施しますが、授業中に適宜質問を投げかけるとともに、毎回授業のはじめに小テストを行います。</p>			
授業外学習	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておいてください。			
テキスト・参考書等	<p>テキストは特に使用しません。授業でプリントを配布して講義を行います。</p> <p>参考書：吉田栄介・花王株式会社会計財務部門編著『花王の経理パーソンになる』（中央経済社 2020年）</p> <p>林總著『「原価計算」しているのに、なぜ「儲け」が出ないのか？コストを見る化する「ABC」入門』（日本実業出版社 2018年）</p>			
成績評価方法	期末試験70%、平常点（授業態度・提出物の有無等）30%			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問はメールで受け付けます。メールアドレスについては初回授業時にお伝えします。			
特記事項（他の授業との関連性）	特別な予備知識を必要としませんが、他の会計科目とあわせて受講することで、理解がより深まります。			

備考：

2018年度以降入学生	日本経済論 1	H0408	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	日本経済論 1	H408	経営B 経済A	2 単位
担当教員	村田 啓子	前期	木曜日	2 時限
授業方針・テーマ	本講義では、基礎的なマクロ経済学の概念や分析手法を用いて、現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても解説することにより、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養うことを目指します。経済を見る上で不可欠の経済指標についても適宜解説していきます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現代日本経済の現状や問題点及びそれに関する基本データを理解し批判的に検討・分析するために有用な基礎力を身につける。			
授業計画・内容 授業方法	<p>(下記の内容は現時点で予定しているもので、これらのうち幾つかに重点を置いたり、新たな論点を取り上げることも考えています。)</p> <p>第1回 概論 第2－3回 国民経済計算からみた日本経済 第4－5回 戦後日本の経済成長とその要因 第6－7回 日本の景気循環の特徴 第8－10回 変化する労働市場 第11－13回 家計の消費と貯蓄行動 第14回 格差問題を考える 第15回 試験</p>			
授業外学習	レジュメ、講義内容、参考書をもとに予習・復習を行いましょう。 学習が進んだら、レジュメに掲載されている練習問題を解き、講義内容を理解できているか確認しましょう。			
テキスト・参考書等	レジュメを配布するほか、参考文献は必要に応じ紹介する。また、労働と格差の章は特に以下の参考書と関連が強いので、適宜自習に役立ててください。 【参考書】小峰隆夫・村田啓子「最新 日本経済入門（第6版）」2020年、日本評論社			
成績評価方法	期末試験による。			
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】木18：00－19：00(事前にメールで連絡すること)			
特記事項（他の授業との関連性）	ミクロ経済学及びマクロ経済学を既に修得していることが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	経済学コース特別講義（マクロ経済動学）	H0418	経済B 経営C	2 単位
2013～2017年度入学生	マクロ経済動学	H418	経営B 経済B	2 単位
担当教員	脇田 成	前期	木曜日	2 時限
授業方針・テーマ	本講義は大学院レベルのマクロ経済学を概説する。ミクロ経済学・計量経済学と共に近代経済学専攻の修士課程1年生の基礎科目として必ず履修することが望ましい。なお受講者は学部レベルのマクロ経済学を理解し、初步の線形代数・静学的最適化問題の理解が必須である。これらの準備の不十分なものは学部レベルの教科書として、例えば * 西村和雄「経済数学早わかり」日本評論社.(第1-4章) などで講義に先立って補充しておくこと。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	講義では教科書に沿って、能率良く現在のマクロ経済学を展望するが、単位取得のためには計算問題の宿題ならびに課題を課す。			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 ケインズ経済学と新古典派的マクロ経済学：マクロ経済学の課題と歴史 学部レベルのマクロ経済学の復習と近年のマクロ経済学の発展を概観した後、数学ならびにエコノメトリックスの最低限に解説を加える。ただしこれらの準備の不充分なものは必ず先立って補充しておくこと。</p> <p>第2回 基本的動学モデル1：新古典派最適成長理論・RBCモデルと時間を通じた選択</p> <p>第3回 基本的動学モデル2：世代重複モデルと高齢化・少子化</p> <p>以上が一般均衡動学モデルの基礎であり、また変分法・DP・MPなどの動学的最適化理論の解説は動学モデルに即して適宜行う。このあと部分均衡的な動学モデルを検討する。以下の諸モデルは実証分析が盛んな分野でもあることに注意。</p> <p>第4回 主体均衡分析1：家計の通時的最適化と消費関数の理論：高すぎる株式収益率のパズル</p> <p>第5回 主体均衡分析2：企業の通時的最適化と投資関数の理論：タイミングを決める理論</p> <p>以上を基礎編とする。さらに応用編として、時間の許す限り</p> <p>第6回 新ケインジアン経済学と協調の失敗：財市場における不完全競争と名目価格硬直性</p> <p>第7回 契約とサーチの理論：労働市場と実質賃金硬直性の理論</p> <p>第8回 貨幣と信用の諸モデル・金融仲介ならびに国際金融：日本のバブルの物語</p> <p>第9回 内生的成長理論：ますます富める国と貧しいままの国</p> <p>第10回 カオスと複数均衡</p> <p>第11回 マクロ経済政策分析：ゲーム理論の応用</p> <p>第12回 マクロ経済学と実証分析：非定常時系列分析</p> <p>第13回 マクロ経済学と日本の労働慣行</p> <p>第14回 マクロ経済学と日本の経済システム</p> <p>第15回 期末試験と解説</p> <p>の講義も行う予定。なお詳細な講義予定・文献リストは講義の初回に配布する。</p>			
授業外学習	授業外学習 テキストをよく読むこと			
テキスト・参考書等	<p>教科書：脇田成（1998）『マクロ経済学のパースペクティブ』日本経済新聞社。</p> <p>参考書：Blanchard, O. J., and S. Fischer, Lectures on Macroeconomics, (MIT Press, 1989)。</p> <p>Lucas R. E., Jr., Models of Business Cycles, Oxford: Basil Blackwell, 1987(邦訳「マクロ経済学のフロンティア」清水訳東洋経済新報社)。</p> <p>岩井克人・伊藤元重編（1994）『現代の経済理論』東京大学出版会。</p>			
成績評価方法	期末試験70% 宿題30%			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限（メールでアポイントを取ること）			
特記事項（他の授業との関連性）	受講希望者はテキストを調整するのでwakita@tmu.ac.jpに第1回の授業前に前もってメールすること ミクロ経済学1、2とマクロ経済学1、2を履修済のこと			

備考：

2018年度以降入学生	財務戦略論	H0434	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	財務戦略論	H434	経営A 経済B	2 単位
担当教員	松田 千恵子	前期	木曜日	3 時限
授業方針・テーマ	<p>昨今のグローバルな環境変化は、企業が経営戦略を考える上での財務の重要性を浮き彫りにしています。資本市場に相対していくための考え方や、経営に必要なコーポレートファイナンスの知識、経営資源を有効に獲得するためのM&Aのスキルやノウハウなど、これから企業経営に携わるうえで必須となる財務戦略の知識、世界で通用するコーポレートファイナンスの基礎と実践を学びます。また、経営戦略や組織運営など、隣接する諸領域との関連についても触れます。</p> <p>企業経営において必要な「数字」面の知識を網羅的に取扱い、経営分析や企業価値評価などコーポレートファイナンスの諸知識を実践的に取り扱えるようになることを目標とします。</p>			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>企業の過去・現在・未来を数字を通して把握するスキルを身に付けたうえで、企業経営の本質である企業価値についての理解を深め、企業が直面する様々な問題の解決を考えられるようになることを目指します。また、世の中で起きている企業の行動や戦略に関する理解とインサイトを深められるようになります。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション企業を巡る環境変化と財務戦略の重要性 2. 企業を見る眼を養う—財務分析とキャッシュフロープロジェクション 3. コーポレートファイナンスの要諦（1）—企業に対する期待収益率とその実現 4. コーポレートファイナンスの要諦（2）—最適資本構成と信用リスク 5. コーポレートファイナンスの要諦（3）—現在価値の考え方 6. 企業価値の評価と向上（1）—企業価値評価手法の実践 7. 企業価値の評価と向上（2）—戦略策定とキャッシュフロー生成能力の向上 8. 全社戦略と事業ポートフォリオマネジメント 9. 投資と財務の意思決定 10. 新規事業戦略とM&Aの活用 11. 企業経営と資本市場（1）—資本政策・株主対策 12. 企業経営と資本市場（2）—金融機関・社債と格付 13. 企業経営と資本市場（3）—新しい投融資形態・事業再生マネジメント 14. 財務戦略と企業統治・情報開示・企業の社会的責任とESGの流れ 15. 期末試験 			
授業外学習	<p>授業参加者は普段から内外のメディアを通じて、経済、金融市場、主要な企業に関する動きやニュースに関心を持ってフォローしておいて下さい。財務戦略は企業経営の重要な柱の一つであり、極めて実践的なものです。教室で学んだことは、すぐに現実の世界で使えることを実感することができます。そのための時間を取りてください。授業内容だけでなく、こうした学びを通じてえた疑問等についても、授業中に質問票を提出頂くことによりお応えします。次の授業にどのような質問票を出そうか、常に考えながら出席してください。</p>			
テキスト・参考書等	<p>教科書として以下を指定します。 松田千恵子『コーポレートファイナンス実務の教科書』日本実業出版社、2017年 各回の授業は、毎回パワーポイントの資料に沿って進めます。資料は前もってkibacoにアップしますので、各自ご用意ください。</p>			
成績評価方法	<p>試験結果により評価します。試験は記述式で、授業の目的・到達目標をクリアできているかを確認します。</p> <p>ミニケースとして課題を何回か出す予定です。各回では質問票の提出を受け付けます。課題の提出や積極的な質問については加点する場合があります。</p> <p>講義への積極的な貢献を歓迎するとともに、出席状況等を確認する可能性があります。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>授業の前後に質問を受け付けます。また、別途面談も受け付けます。その際は、事前にメールにてアポイントメントを取ってください。</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>簿記・会計の基本的な知識、財務諸表がおよそ読める程度の知識を持っていることが望ましいです。</p> <p>この科目は、金融機関等における金融業務経験、及び戦略コンサルティングファームにおける財務戦略立案・実行等の実務経験のある教員による授業科目です。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	マクロ経済学2	H0443	経済A 経営B	2単位
2013~2017年度入学生	マクロ経済学2	H443	経営B 経済A	2単位
担当教員	脇田 成	前期	木曜日	3 時限
授業方針・テーマ	マクロ経済学の理解修得			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学の基礎			
授業計画・内容 授業方法	<p>この授業では前年度後期のマクロ経済学1に引き続き、マクロ経済学の標準的知識について、講義を行う。新古典派マクロ経済学、ケインズ的IS-LM分析をバランスよく講義する。また現実の実体経済との関連を重視し、幾つかのトピックスを取上げて紹介する。なおミクロ経済学との連関を重視するので、必ずミクロ経済学を履修あるいは並行履修すること。</p> <p>1 新古典派とケインズ的なマクロ経済体系 2~3 家計の行動と消費関数 4~5 企業と投資関数 6~7 政府の役割と財政政策 8~10 中央銀行と金融政策 11~14 國際マクロ経済学の基礎 15 期末試験と解説</p>			
授業外学習	授業外学習 テキストをよく読むこと			
テキスト・参考書等	脇田成『マクロ経済学のナビゲーター第3版』日本評論社			
成績評価方法	期末試験			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限 メールでアポイントを取ること			
特記事項（他の授業との関連性）	ミクロ経済学1&2とマクロ経済学1を履修済あるいは併行履修のこと			

備考：

2018年度以降入学生	専門書講読	H0267	経済C 経営C	2 単位
2013~2017年度入学生	専門書講読	H267	経営B 経済B	2 単位
担当教員	森 哲男（*）	前期	木曜日	4 時限
授業方針・テーマ	本授業では、経営資源アプローチ(Resource Based View)についての専門書講読を進めながら、基本的な概念や経営資源アプローチの課題の把握、さらには2000年代以降における理論的展開に焦点を当てながら戦略の考え方について学んでいきます。授業は、教員からの一方的な講義ではなく、履修生の皆さんのが積極的に参加できるような形式とします。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本授業では、①具体的な事例を通して「良い戦略」とは何かが理解できるようになる②変化の激しい今日における戦略の在り方について自分なりの考え方を持つ。以上2点を目標とします。			
授業計画・内容 授業方法	文献の予め指定した箇所を全員が読み込んだ上で授業に臨み、報告者の発表を踏まえたうえで主に理論、実践、両面に焦点を当てながら議論を行います。積極的な議論の展開や疑問点を明確にする過程で著者の理論の真髄を学習することを目指します。			
【授業外学習】				
	各授業で講読する部分を全員事前にしっかりと読み込んだ上で授業に参加してください。また、持ち回りの発表の担当となった履修生には文献のレジュメの準備を行ってもらう予定です。			
【授業計画】				
	第1回 シラバス確認、履修生の関心事項のヒアリング、担当箇所の分担決め、戦略論の概略 第2回 良い戦略、悪い戦略（1）／第3回 良い戦略、悪い戦略（2） 第4回 良い戦略に活かされる強みの源泉（1） 第5回 良い戦略に活かされる強みの源泉（2） 第6回 良い戦略に活かされる強みの源泉（3） 第7回 良い戦略に活かされる強みの源泉（4） 第8回 ストラテジストの思考法（1）／第9回 ストラテジストの思考法（2） 第10回 企業のパフォーマンスとミクロ的基礎、経営者の機能 第11回 ダイナミック・ケイバビリティの基礎 第12回 資源、ケイバビリティ、ペンローズ効果、多国籍企業の本質 第13回 経営者・企業・技術の役割、経営者・企業家・文系人材の役割 第14回 急速な技術変化の体制下における競争の性質 第15回 ダイナミック・ケイバビリティと競争優位についてのまとめ			
授業外学習				
テキスト・参考書等	リチャード・ルメルト（2012）『良い戦略、悪い戦略』、日本経済新聞出版社 デビッド・ティース（2013）『ダイナミック・ケイバビリティ戦略』、ダイヤモンド社 ※初回については、必要範囲のコピーを配布します。また、その他の参考文献等も必要に応じてコピーを配布します。			
成績評価方法	レジュメ・発表等の貢献（50%）、課題の提出（50%）			
質問受付方法（オフィスアワー）				
特記事項（他の授業との関連性）	【他の授業科目との関連性】 特別な予備知識を必要としません。 【オフィスアワー】 授業終了後としますが、できるだけ事前の授業時にアポイントメントを取って下さい。			

備考：

2018年度以降入学生	アジア経済史	H0453	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	アジア経済史	H453	経営B 経済B	2 単位
担当教員	竹内 祐介	前期	金曜日	1 時限
授業方針・テーマ	本講義は、後期の「現代アジア経済史」とあわせ、現代アジア経済を理解するための一つのアプローチとして、アジア経済の「成長」の軌跡を約400年間の長いスパンの中で捉えることを狙いとする。前半部に当たる本講義は、大まかに、①～19世紀前半／②19世紀前半～第一次大戦期／③両大戦間期までの3つの時期に区分し、①ではヨーロッパ経済との関係、②ではアジア内部の経済関係、③では日本帝国経済および中国経済との関連に着目しつつ、各国史ではない、地域横断的な「アジア」経済史像を講義する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代アジア経済の理解、あるいはアジアの人々との交流に資する歴史知識の習得 ・1980年代以降に登場したアジア間貿易論・帝国論・グローバルヒストリーといった新しい歴史研究の潮流の把握 ・上記研究と日本経済史・中国経済史など伝統的な各国経済史研究を総合し「アジア経済史」の意義を自ら考えること 			
授業計画・内容	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 アジア伝統社会の形成 第3回 ヨーロッパのアジア進出 第4回 交通革命とアジア経済の変容 第5回 近代ヨーロッパ国際秩序と伝統的アジア国際秩序 第6回 アジア間貿易の形成と構造 第7回 「長期の19世紀」のアジア経済 第8回 両大戦間期のアジア間貿易の展開 第9回 日本の工業化と対外関係の変容 第10回 日本帝国経済の構造と展開 第11回 植民地経済と帝国内分業の変容 第12回 日本帝国経済与中国経済の相克 第13回 両大戦間期の中国経済 第14回 両大戦間期のアジア経済 第15回 期末試験と解説</p>			
授業方法	<p>【授業方法】 配布資料にもとづいて講義する。</p>			
授業外学習	事前に配布資料をkibacoにアップロードするので、目を通すこと。			
テキスト・参考書等	教科書は指定しない。参考書：杉原薰（1996）『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、堀和生（2009）『東アジア資本主義史論Ⅰ』ミネルヴァ書房、など。その他、授業中に適宜紹介する。			
成績評価方法	期末試験 70% 別途課題への取り組み（＊授業中に指示する） 30%			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で研究室（3-316）まで。			
特記事項（他の授業との関連性）	後期の「現代アジア経済史」とあわせて受講することが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	ミクロ経済学2	H0407	経済A 経営B	2単位
2013~2017年度入学生	ミクロ経済学2	H407	経営B 経済A	2単位
担当教員	飯村 卓也	前期	金曜日	2 時限
授業方針・テーマ 習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	初級から中級レベルのミクロ経済学について講義を行います。ミクロ経済学2では、ミクロ経済学1で学んだことを基礎にして、経済厚生、独占市場、寡占市場、市場の失敗、および不確実性と情報のトピックについて講義を行います。 経済厚生の捉え方を学び、さまざまな市場構造や競争のもと、それがどのように規定されるのか、また改善されうるのかについて、基礎的な知識と応用力を持つようになることが目標です。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>1回 イントロダクション 2回 経済厚生：社会的余剰の最大化 3回 経済厚生：バレート最適性 4回 経済厚生：厚生経済学の基本定理 5回 経済厚生：効率性と公平性 6回 独占市場 7回 寡占市場：同質財寡占 8回 寡占市場：異質財寡占 9回 寡占市場：その他の寡占モデル 10回 独占的競争市場 11回 市場の失敗：外部性 12回 市場の失敗：公共財 13回 不確実性と情報：不確実性下の意思決定 14回 不確実性と情報：情報の非対称性 15回 試験と解説</p> <p>【授業方法】 講義を中心に授業を行います。</p> <p>【授業外学習】 講義内容の復習を行い、テキストの練習問題や宿題に取り組むこと。</p> <p>毎回プリントを配ります。kibacoからもダウンロードできますので、予習と復習に活用してください。</p> <p>テキスト：塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』新世社、2010年</p> <p>期末試験（90%）と宿題（10%）により評価します。</p> <p>オフィスアワーを毎週金曜 4限の時間帯に設定しています。質問のある方はご自由にどうぞ。</p> <p>「ミクロ経済学1」を履修済みであることが望ましいです。</p>			
授業外学習 テキスト・参考書等 成績評価方法 質問受付方法（オフィスアワー） 特記事項（他の授業との関連性）				

備考：

2018年度以降入学生	西洋経済史	H0252	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	西洋経済史	H252	経営B 経済B	2 単位
担当教員	岩間 俊彦	前期	金曜日	3 時限
授業方針・テーマ	現在、私たちの経済や社会は、西洋の経済社会に深く関連する制度（市場、株式会社等）・思考・言語に依拠しています。この講義では、古代から近代にわたる西洋の経済社会に関する事象について学びながら、現在の西洋や私たちを取り巻く経済社会にも通じる問題とその背景について考えます。そして、近年、アジアとの比較で批判的にとらえられることの多くなった西洋経済社会について再考を試みます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋の経済、社会、政治、文化の歴史や特徴を学ぶことにより、現在の経済社会を再考する視点を習得します。 ・留学、旅行、仕事で西洋の遺産を訪問する際に、当該地の歴史・制度・社会を理解すること、また、現地の人びとのコミュニケーションを円滑に進めることへの一助となることを目指します。 			
授業計画・内容 授業方法	<p>講義形式ですが、教員が質問したり、投影した資料等をその場で考察することがありますので、積極的な姿勢でのぞんでください。授業計画は変更される場合がありますので、初回にて確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の案内 授業の計画や成績評価の説明 2 西洋経済史の対象・方法・モデル 歴史的分析の視点と方法を学ぶ 3 古代の帝国 ワインが結ぶ古代ギリシアとローマ、古代都市国家から帝国への過程を理解する 4 ローマ帝国は何故滅んだか 「偉大な」帝国の崩壊を理解し中世経済社会への過程を展望する 5 中世の所領、農村 ヨーロッパ中世の経済社会の基礎を考える 6 中世の市場と農村 ヨーロッパ中世の経済社会にあらわれた「市場」の意味を考える 7 中世から近世へ 中世から近世へと移行する経済社会の過程について理解する 8 近世における人口増加の衝撃 都市化とその背景（人口や他の要因） 9 プロト工業化 グローバル経済の源流がそこにある 10 消費社会の形成、消費の影響を考える 11 経済発展・工業化・国家という相互関係 財政軍事国家論からみた社会経済 12 産業革命はあったのか、産業革命はどこで起きたのか？ 13 産業革命はヒトを幸せにしたのか 14 ヨーロッパの奇跡 工業化と経済成長を実現したヨーロッパの「奇跡」を考える、ヨーロッパ以外のユーラシアは何故「奇跡」を起こせなかつたのか考える 15 試験と解説 			
授業外学習	授業の記録や授業の資料を参照しながら、講義の要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。授業の資料の参考文献や講義中に紹介した文献・映像作品・電子情報を検証したりすると、講義内容の理解が深まり、発展的な視野を育むことができます。			
テキスト・参考書等	テキストは設定しません。参考書の一覧は初回授業以降に公開予定です。kibacoで公開する資料にも参考文献等を掲載します。			
成績評価方法	kibacoで提出する課題（4割）と学期末試験（6割）によります。任意提出の課題レポートを設定します（満点で2.5割の加点）。課題、学期末試験、任意提出レポート等の成績評価基準は、初回に説明します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは初回講義で知らせます。			
特記事項（他の授業との関連性）	履修時に、未履修の場合、経済史概論・日本経済史概論の履修を勧めます。			

備考：

2018年度以降入学生	会計制度論	H0452	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	会計制度論	H452	経営B 経済B	2 単位
担当教員	野口 昌良	前期	金曜日	4 時限
授業方針・テーマ	今日の財務諸表制度は連結財務諸表を中心に構成されており、その理解と運用能力は、あらゆるビジネスシーンにおいて、必須スキルとして認知されている。連結財務諸表には、個別財務諸表とは異なる、それ固有の言語規約、つまり会計基準が存在している。この講義では、財務会計論で学修した会計基準に関する知識を拡張すると同時に、連結財務諸表に係る会計基準に関する基礎的な知識の修得を通じて、連結固有の会計言語の記号化過程を理解することを目標とする。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 連結財務諸表の機能と構造に関する総合的知識を修得することができる（専門知識の修得を通じた総合的問題思考力の養成）。 連結財務諸表に係る会計基準を通じた会計メッセージの記号化過程と論理構造に関する基礎的知識を修得することができる（専門知識の修得を通じた論理的思考力の養成）。 			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 退職給付（退職給付債務） 収益認識（工事進行基準） 税効果会計（繰延税金資産） 企業結合（パーチェス法） 連結の範囲（支配力基準） 連結貸借対照表（資本連結） 中間試験 段階取得と追加取得 連結損益計算書（のれんの償却と利益按分） 連結会社間取引の相殺 未実現利益の消去 キャッシュフロー計算書 外貨建取引（財務諸表の換算） 試験と解説 <p>【授業方法】 講義を中心とした授業を実施するが、下記【授業外学習】に記載のとおり、適宜（5～6回程度）ミニテストあるいはホームワーク（一部グループワークの形式を取り入れる予定）を実施する予定である。これによって、学生の理解度を確認しながら、目標到達に必要な知識の修得に努める。授業内での講義は、学修項目に対応した事例分析を行った後、関連する概念について説明し、その定着をはかるために演習問題を解く、というかたちで展開する。期央に中間試験を実施する。</p>			
授業外学習	【授業外学習】 e-learningシステムkibacoを通じてミニテストあるいはホームワークを実施する。説明した概念や計算方法に関する出題が中心となる。ミニテストあるいはホームワークは、授業計画で示された各項目に関する個別的な（総合問題とは異なる）計算・記述問題とする予定である。			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 教科書は指定しないが、e-learningシステムkibacoを通じて講義資料を配布するので、事前に学習しておくこと。</p> <p>【参考書等】 桜井久勝『財務会計講義』（中央経済社）</p>			
成績評価方法	<p>基本的に定期試験のスコアに準拠して評価するが、適宜実施するミニテストあるいはホームワークのスコアも加算する。</p> <p>評価のウェイトは定期試験のスコアを70%、ミニテストおよびホームワークのスコアを30%とする予定である。</p> <p>定期試験は、到達目標に照らして、連結財務諸表と会計基準に関する知識を通じて、連結財務諸表の機能と構造に関する知識を修得できているか否かを確認するために実施する。具体的には、連結財務諸表の作成に必要な諸概念について説明を求める記述問題と、連結財務諸表の作成に必要な情報を収集・分析・加工することを求める総合計算問題が中心となる。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。			
特記事項（他の授業との関連性）	【他の授業科目との関連性】 「会計学入門」と「財務会計論」で学習した内容を前提に講義を実施するため、「会計学入門」と「財務会計論」を履修済であること。			

備考：

2018年度以降入学生	経済経営特別講義 (International Accounting)		H0468	経済B 経営B	2 単位		
2013~2017年度入学生	経営学コース特別講義 (International Accounting)		H468	経営B 経済C	2 単位		
担当教員	グスタボ タナカ (*)	夏季集中	※	※			
授業方針・テーマ	<p>This course has two main parts: Analysis of Financial Accounting from the International perspective and a revision of the most important concepts, methods and tools of Management Accounting. The first part provides a review of the most relevant topics of international financial accounting and the second includes some innovative techniques of management accounting.</p> <p>As a course methodology, lectures as well as interactive discussions using exercises, problems and cases will be delivered.</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. The student would also be able to understand the underlying concepts of international accounting. 2. The student would also be able to form a substantial knowledge base to apply management accounting concepts, methods and tools. 						
授業計画・内容 授業方法	<p>Session 1: International Accounting: Introduction – Frameworks and Concepts Session 2: International differences and harmonization Session 3: Reporting Issues in International Accounting Session 4: Cost Management and Strategy - Implementing Strategy: The Value Chain, the Balanced Scorecard, and the Strategy Map Session 5: Cost Estimation; Short-Term Profit Planning: Cost-Volume-Profit (CVP) Analysis Session 6: Strategy and the Master Budget Session 7: Decision Making with a Strategic Emphasis Session 8: Strategy and the Analysis of Capital Investments Session 9: Cost Planning for the Product Life Cycle: Target Costing, Theory of Constraints, and Strategic Pricing Session 10: Operational Performance Measurement: Sales, Direct-Cost Variances, and the Role of Nonfinancial Performance Measures; Operational Performance Measurement: Indirect-Cost Variances and Resource-Capacity Management Session 11: The Management and Control of Quality; Strategic Performance Measurement: Cost Centers, Profit Centers, and the Balanced Scorecard Session 12: Strategic Performance Measurement: Investment Centers Session 13 - 14: Case presentation Session 15: Final Exam</p>						
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. Read all the materials before class 						
テキスト・参考書等	<p>Blocher, Stout, Juras and Smith, Cost Management: A Strategic Emphasis, McGraw-Hill, 8 th edition. Warren, Reeve and Duchac, Managerial Accounting, 14th Edition</p>						
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Contributions to the class including class discussions, participation 15% 2. Case submission and presentation 40% 3. Final Examination 45% 						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>By appointment only</p>						
特記事項（他の授業との関連性）	<ol style="list-style-type: none"> 1. Inform me in advance by email if you fail to attend the class. Only valid reasons will be taken into consideration. 2. Turn off your mobile phones and any other audio or video devices that may detract class attention. 3. Do not send or read text messages during class. In case of emergency, go outside to make calls taking permission from the instructor. 4. All the students are expected to uphold a high standard of professional work ethic. Cases of plagiarism will result in a failing grade for that course 						

備考：※夏季集中授業の日程・教室は掲示で周知する。

※夏季集中授業は前期履修申請期間中にWeb履修申請すること。

2018年度以降入学生	経済経営特別講義 (Japanese Management)		H0462	経済B 経営B	2 単位		
2013~2017年度入学生	経営学コース特別講義 (Japanese Management)		H462	経営B 経済C	2 単位		
担当教員	遠藤 貴宏 (*)	夏季集中	※	※			
授業方針・テーマ	<p>The course supplies an introduction to the analysis of management practice in Japan.</p> <p>It embraces ebb and flow of management ideas as well as associated practices in different industrial sectors.</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. The student would be able to understand the underlying concepts of Japanese management practice. 2. The student would be able to understand the development of management practice in Japan in a broader historical perspective. 3. The student would also be able to obtain a substantial knowledge base to examine the issue of management practice in Japan. 						
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Academic discourse 3. Traditional model (1) 4. Traditional model (2) 5. Change and continuity (1) 6. Change and continuity (2) 7. Business custom: Reliance on consulting 8. Entrepreneurship 9. HRM in Japan 10. Traditional sector 11. Energy sector 12. Manufacturing sector 13. Public sector 14. CSR and sustainability 15. Review and Q&A 						
授業方法							
授業外学習	<p>【Out of the class】</p> <p>Every student is required to make necessary preparations for each session (with the review of reading assignments specified in advance) and actively participate in the discussion. Details of the assignments will be announced at each time.</p>						
テキスト・参考書等	<p>【Reference】</p> <p>Japanese Management in Evolution. (Routledge)</p>						
成績評価方法	<p>Grades are assessed by (1) the quality of 2,000 words essay (70 %) and (2) participation in class (30 %).</p>						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>Email: endo.takahiro@r.hit-u.ac.jp</p>						
特記事項（他の授業との関連性）							

備考 : The classroom will be notified separately on the bulletin.

The course will intensively be held on the following schedule during April 2020.

April 4 (Saturday): 1 - 4 periods (from the 1 st session to the 4 th session)

April 11 (Sat): 1 - 4 periods (from the 5 th session to the 8 th session)

April 18 (Sat): 1 - 4 periods (from the 9 th session to 12th session)

April 25 (Sat): 1 - 3 periods (from 13th session to the 15th session)

As usual, students are required to register the course through the Web application during the registration period of the First Academic Term.

2018年度以降入学生	経済経営特別講義 (Microeconomics)		H0461	経済B 経営B	2 単位		
2013~2017年度入学生	経済学コース特別講義 (Microeconomics)		H461	経営C 経済B	2 単位		
担当教員	磯貝 茂樹 (*)	夏季集中	※	※			
授業方針・テーマ	<p>This course aims to study interrelations between market structure and market outcomes—a field so called industrial organization (IO). For example, it studies how firms compete with each other, what kind of business strategy they are engaged in, how market environment affects consumers, and so on. While this topic is classical in the sense that it studies markets, it is also new since it gives us a framework to understand modern business strategies.</p> <p>To give a comprehensive and readily-applicable knowledge on the field and to make the course self-contained, the lecture starts from the basic microeconomics and game theory, after which we study several important topics in IO. While the course's primary purpose is in providing theoretical treatment, the instructor will provide real-world examples to illustrate the applicability of the theory.</p> <p>Time permitting, I will also cover a relatively new field of "Behavioral IO," which incorporates Behavioral economics into otherwise traditional IO models.</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>By completing this course, students can obtain</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) analytical skills to understand microeconomic phenomena 2) knowledge of several topics of firm behavior, both theoretical and empirical 3) familiarity with how to apply theoretical knowledge to real-world phenomena 						
授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> · Tentative Plan <p>During the 15 classes, I will cover the following topics:</p> <p>Classes 1 - 2 : Introduction to the course and preliminaries on microeconomics</p> <p>Class 3 : Monopoly and Perfect-Competition Benchmarks</p> <p>Class 4 : Basic Oligopoly Models</p> <p>Class 5 : Dynamic Oligopoly and Collusion</p> <p>Class 6 : Note on Market Structure and Market Outcomes</p> <p>Classes 7 - 8 : Price Discrimination</p> <p>Class 9 : Vertical Relations</p> <p>Class 10: Product Differentiation</p> <p>Class 11: Entry and Exit</p> <p>Class 12: Research and Development</p> <p>Class 13: Network</p> <p>Class 14: Behavioral IO</p> <p>Class 15: Final Exam and Review</p> <ul style="list-style-type: none"> · Course Format <p>The course is taught by lecture. To check and deepen students' understanding of the material, several in-class quizzes will be given.</p>						
授業外学習	<p>Given the format of Intensive Course, I make the course self-contained.</p>						
テキスト・参考書等	<p>Textbook: Luis Cabral, "Introduction to Industrial Organization," The MIT Press.</p> <p>This is an excellent textbook that I recommend you to purchase if you are interested in the field (though you are not required to do so).</p> <p>Other excellent textbooks:</p> <p>Paul Belleflamme and Martin Peitz, "Industrial Organization: Market and Strategies," Cambridge University Press</p> <p>Jean Tirole, "The Theory of Industrial Organization," The MIT Press.</p> <p>Ran Spiegler, "Bounded Rationality and Industrial Organization," Oxford University Press.</p> <p>Other related papers or books will be referred to during the class.</p>						
成績評価方法	<p>In-class quizzes, held 5 - 6 times, (30%) and the final exam in the last class (70%)</p>						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>Since I will be around only during the class days, I encourage you to ask questions during or between classes. Contacting the instructor by e-mail is also welcomed.</p>						
特記事項（他の授業との関連性）	<p>While the course will be self-contained, previous exposure to basic and intermediate microeconomics will be helpful. Also basic knowledge of calculus (being able to differentiate simple functions) is assumed though the instructor will briefly explain the intuition of those operations.</p>						

備考 :

2018年度以降入学生	経営史	H0400	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経営史	H400	経営B 経済B	2 単位
担当教員	日向 祥子（*）	後期	月曜日	2 時限
授業方針・テーマ 習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>戦前日本における企業（主に製造業）の在り方について、①制度（企業を取り巻く外的環境）、②技術、③マネジメント（管理手法、ガバナンス）という三つの視角から、その変容過程を学ぶ。</p> <p>現実の人間の行動は、常に迷いの中にあり、「未来を十分に予見できないまま、それでも何らかの選択をせずにいられない」というようなものだと思います。様々な科目を通じて経済学・経営学の理論を学ぶ皆さんが「経営史」を学ぶことにより、理論で想定される事柄は「人々のいかなる営みのうえに構築されてきたのか」、理解されることを期待します。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回～第7回： 幕末～第一次大戦期（制度、技術、マネジメント） 第8回： 模擬試験① 第9回～第13回： 両大戦間期（制度、技術、マネジメント） 第14回： 模擬試験② 第15回： 期末試験、問題解説</p> <p>[授業方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式に拠り実施する。 ・時期区分ごとに、復習を兼ねて「模擬試験」を行う。なお、この「模擬試験」は、受講者にとっての学習効果のみ期待するものであり、成績評価には一切反映しない。 ・原則として、授業は講義80分、「理解の確認」10分（授業ごとに配布）の時間配分で行う。 			
授業外学習	<p>①講義資料の付録として「理解の確認」シートを配布（いずれもkibacoを介して配信）しますので、最低限、受講前に同シートに目を通しておくと「その授業で何を理解すべきか」予め心得ておくことができます。</p> <p>②「正解」か否かを一切問わず、自由な（しかし論理的な）思考を問う課題を、何度も設定し、提出を求めます（予め空想を展開しておくことで、授業で得る情報の吸収力が高まる効果を期待しています）。</p> <p>なお、課題の設定はkibacoを介して通知しますので、受講生自身が責任をもって通知を確認可能な状態にしておいてください（自分が常用しているメールアドレスの確実な登録をお願いします）。</p> <p>③授業期間内に2回の「模擬試験」を実施予定ですので、授業ごとに配布する「理解の確認」問題も活用しながら、自主学習の計画的な取組みに役立ててください。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012年） なお、テキストに記載のある語句については、必ずしも講義中の板書などで漢字表記を示さない。</p>			
成績評価方法	<p>提出課題（30%：提出回数÷設定回数×30点）と学期末試験（70%）によって評価します。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>各授業回の最後に設ける「理解の確認」時間（10分）において、質問を受け付けることができます。</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>「日本経済史」の知識があると理解の助けになりますが、「日本経済論」や経営学関連のほとんど全ての科目と親和性が高い科目です。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	計量経済学2	H0422	経済A 経営B	2単位
2013~2017年度入学生	計量経済学2	H422	経営B 経済A	2単位
担当教員	飯星 博邦	後期	月曜日	2 時限
授業方針・テーマ	本講義では、計量経済学1で習得した「回帰分析」をツールとして、どのように経済分析に応用していくのか、具体的な分析事例を題材として実証的手法を学習していく。具体的なテーマは、非線形モデルへの応用法、ダミー変数、構造変化の仮説検定法、パネルデータ、因果推定、操作変数法等である。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・計量経済学1で習得した「回帰分析」の復習 ・計量経済学手法は、どのように経済分析に応用するのか、実習を通して理解・体感する。 ・線形回帰モデルから、非線形回帰モデルの拡張ができる。 ・構造変化の検定などの応用を通して、経済モデルに対して仮説検定が利用・応用できる。 ・時系列・クロスセクションデータのほかに、パネルデータを利用した推定ができる。 ・相関関係と因果関係の相違が理解できる。 			
授業計画・内容 授業方法	<p>授業構成は以下の通りです。なお、授業の進み具合により、講義の内容の変更と講義の順番の差し替えを行うことがあります。</p> <p>第1回 講義の概要とスケジュール 第2回 計量経済学1の復習（推定） 第3回 計量経済学1の復習（区間推定・検定） 第4回 マクロ経済学（金融政策）への応用 第5回 回帰モデルの関数形 第6回 ダミー変数 第7回 構造変化の推定と検定（ダミー変数の応用1） 第8回 パネルデータ分析（ダミー変数の応用2） 第9回 因果推論1－差の差の推定（ダミー変数の応用3） 第10回 因果推論2－操作変数法 第11回 因果推論3－2段階推定法 第12回 因果推論4－マッチング法 第13回 因果推論5－回帰不連続デザイン 第14回 復習 第15回 期末試験と解説</p> <p>【授業方法】 毎回の講義で、講義とエクセルデータを用いたパソコン実習の2つの形式を並行して行う。 講義では、各単元についての概念や数学的表現を扱い、 またパソコン実習では、実際の経済データを用いて応用法や応用例を学習する。</p>			
授業外学習	<p>【授業外学習】 每回の授業後に、kibaco上に、次回授業の講義ノートおよび実習用エクセルデータを提示します。また、宿題については、kibacoから3回程度を出題します。この宿題は、授業中に学習した計量の手法を用いて、実習問題としてエクセルを使って推定や検定を行ってもらう形式です。</p>			
テキスト・参考書等	<p>参考書 田中隆一著「計量経済学の第一歩」有斐閣</p>			
成績評価方法	<p>宿題(20%)と期末試験(80%)による</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>【質問受付方法】 オフィスアワーについて、週に1回を予定している。詳しい日時と場所については講義開始時に「kibaco」などで公開します。また、オフィスアワーの時間があわない人はその都度、質問を講師宛にメールしてもらえば、オフィスアワー以外でも質問に答えます。</p>			
特記事項（他の授業との関連性）				

備考：

2018年度以降入学生	コーポレートファイナンス		H0429	経済B 経営B	2 単位		
2013~2017年度入学生	コーポレートファイナンス		H429	経営B 経済B	2 単位		
担当教員	芝田 隆志	後期	月曜日	2 時限			
授業方針・テーマ	本講義では、コーポレートファイナンスの基礎的な事項について概説する。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファイナンス理論は、投資家からの観点から考察する「証券投資論」、企業家からの観点から考察する「コーポレートファイナンス」に大別される。本講義の目的は、後者の立場からファイナンス理論について概説することにある。本講義を通じて、企業の投資決定問題、資金調達問題などのコーポレートファイナンスの基本的な事項について習得する。						
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 講義の具体的な内容は下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回 イントロダクション（コーポレートファイナンスとその最近の動向） 2回 金融市場の機能とコーポレートファイナンス（金融市場の機能、資本市場の存在意義、不確実性とリスク、金融システムの特徴、資本コスト） 3、4回 確実性下での現在価値と将来価値（時間価値） 5、6、7回 不確実性下での現在価値と将来価値（リスクプレミアム、伝統的経済学の考え方、数理ファイナンスの考え方） 8回 リスクとリターン（ハイリスクハイリターン、リスク分散化） 9、10回 企業の資本コスト（WACC、レバレッジ、CAPM、ベータ） 11、12回 企業の資金調達、最適資本構成（モジリアーニ・ミラーの定理、無裁定取引、節税効果と倒産費用） 13、14回 配当利益還元政策（MMの無関連命題、配当政策、自社株買い） 15回 試験と解説 <p>【授業方法】 講義形式。スライドをkibacoにてダウンロードすること。</p>						
授業外学習	講義において配布する練習問題を自宅学習すること。また、宿題を3回程度課す。さらに、本講義では、練習問題や宿題において企業の財務指標の推定などのEXCEL演習を取り入れる。EXCELの基本操作については各自で自宅学習しておくこと。						
テキスト・参考書等	<p>テキストは指定・使用しない。 参考書として、</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 相田洋他、マネー革命1、2、3、NHK出版 (2) NHK取材版、マネー資本主義、NHK出版 <p>他の文献は講義の中で適宜紹介する。</p>						
成績評価方法	試験と宿題による総合評価。期末試験70%、宿題演習30%						
質問受付方法（オフィスアワー）	原則月曜12:00 - 13:00 前日までにメールにて事前予約をとってください。						
特記事項（他の授業との関連性）	「ファイナンス入門」を履修済みか履修中であることが望ましい。						

備考 :

2018年度以降入学生	データ解析	H0255	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	データ解析	H255	経営A 経済B	2 単位
担当教員	森 治憲	後期	月曜日	3 時限
授業方針・テーマ	<p>経営学やマーケティングでは多次元データを扱う分析が圧倒的に多い。例えば様々な経営指標から企業の実力を少數個の総合指標で表現することや（主成分分析）、複数の選択肢からなるアンケート調査で回答者と選択結果の間にどのような対応関係があるのかを明らかにすることは（対応分析）、すべて多次元データの分析です。こうした一連の手法を多変量解析といいます。この授業では、多変量解析の入門として、経営学やマーケティングでの適用事例が多い比較的易しい手法を学習します。</p> <p>授業の最後は関連する話題としてテキストマイニングを取り上げます。テキストマイニングとは様々な分野で活用されている、文書データを分析する手法のことです。</p>			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	多変量解析の考え方と分析結果を理解する能力。			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 ガイダンス 第2回 クラスター分析（1） 第3回 クラスター分析（2） 第4回 クラスター分析（3） 第5回 主成分分析（1） 第6回 主成分分析（2） 第7回 対応分析（1） 第8回 対応分析（2） 第9回 多次元尺度構成法（1） 第10回 多次元尺度構成法（2） 第11回 テキストマイニング（1） 第12回 テキストマイニング（2） 第13回 テキストマイニング（3） 第14回まとめ 第15回 試験と解説</p> <p>受講生がノートパソコンを持っていないことを前提に講義するが、エクセルを用いた分析結果を紹介するので、ノートパソコンは持参した方が望ましい。</p>			
授業外学習	多次元データの場合、数式による表現はかなり面倒なものとなります。こうした内容を理解するには、授業で学習した計算式を検算するなど毎回の復習が不可欠です。 e-ラーニングシステムkibacoを用いた宿題を4回実施します。			
テキスト・参考書等	授業で用いる資料（スライドや練習問題など）はkibacoを用いて配布します。			
成績評価方法	成績は4回の宿題3割、学期末試験7割で評価します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は授業終了後に受け付けます。月曜日4時限をオフィスアワーとします。			
特記事項（他の授業との関連性）	統計学Ⅰと基礎数学で学習した内容を理解している学生を対象とします。			

備考：

2018年度以降入学生	都市経済史	H0258	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	都市経済史	H258	経営B 経済B	2 単位
担当教員	岩間 俊彦	後期	月曜日	3 時限
授業方針・テーマ	現在、私たちの経済や社会は都市を基礎とした制度や活動に大きく依拠しています。この講義では、都市の経済や社会の歴史を学びながら、「現代都市」あるいは現在の「都市化された」経済社会にも通じる問題とその背景について考えます。講義では、まず、都市や経済の歴史を学ぶ意義・方法と、都市における問題を考察した後、ヒトや都市の起源とその歴史展開から近代都市の経済社会の特徴について学び、現代都市の行方を展望します。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>・経済、社会、そして都市の起源や歴史的展開だけでなく、近代都市とそれを取り巻く経済社会の特質を学ぶことによって、現代都市を再考察する歴史的視点を習得します。</p> <p>・留学、旅行、仕事で世界の都市や過去の遺産を訪問する際に、当該地の歴史・制度・社会を理解すること、また、現地の人びとのコミュニケーションを円滑に進めることへの一助となることを目指しています。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>講義形式ですが、教員が質問したり、投影した資料等をその場で考察することがありますので、積極的な姿勢でのぞんでください。講義計画が変更される場合がありますので、初回講義に必ず出席してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業の案内 授業の計画や成績評価の説明 2 経済史・都市史の対象・方法・モデル 都市・経済の歴史の意味や都市化／都市問題について考える 3 歴史分析の起点を考える ヒトの誕生と伝播、そして、これらの帰結を考える 4 都市の起源と領域帝国 インターネットとビールの起源にも通じる都市の誕生とその拡大について考える 5 中世の都市とギルド ヨーロッパ中世に形成された都市の意味を考える 6 都市 対 農村 プロト工業の盛衰と都市 7 消費社会の形成 民衆文化と公共圏、都市ルネサンス 8 「伝統都市」の形成 古代や中世の都市、現代の都市とも異なる都市の把握方法を考える 9 産業革命と都市化 10 都市化と近代1 都市の統治の原理を考える 11 都市化と近代2 都市の暮らし、モビリティと食、から考える 12 都市化と近代3 都市の制度の核=NGO 13 國際都市、世界都市、グローバル・シティへの変遷を考える 14 都市の統治とまちづくり 15 試験と解説 			
授業外学習	授業の記録や授業の資料を参照しながら、講義の要点を確認・整理し、必要に応じて、関連する参考文献を参照しつつ、課題を準備してください。授業の資料の参考文献や講義中に紹介した文献・映像作品・電子情報を検証したりすると、講義内容の理解が深まり、発展的な視野を育むことができます。			
テキスト・参考書等	テキストは設定しません。参考書の一覧は初回授業以降に公開予定です。kibacoで公開する資料にも参考文献等を掲載します。			
成績評価方法	kibacoで提出する課題（4割）と学期末試験（6割）によります。任意提出の課題レポートを設定します（満点で2.5割の加点）。課題、学期末試験、任意提出レポート等の成績評価基準は、初回に説明します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは初回講義で知らせます。			
特記事項（他の授業との関連性）	履修時に、未履修の場合、経済史概論・日本経済史概論の履修を勧めます。資料は、事前にkibacoで公開するので、初回を除き各自が印刷するか、端末にて準備してください。			

備考：

2018年度以降入学生	ビジネスイノベーション		H0279	経済B 経営B	2 単位		
2013~2017年度入学生	ビジネスイノベーション		H279	経営B 経済B	2 単位		
担当教員	高橋 勅徳	後期	月曜日	3 時限			
授業方針・テーマ	<p>通常、企業家とは、まったく新しいテクノロジーやアイデアのもとで社会変革を主導する、特殊なパーソナリティの持ち主として語られてきました。確かに、企業家のなかには、もともと特殊な技術やアイデアを有していたり、格別なバイタリティに溢れる人々がいるかもしれません。しかしながら、そのように企業家を捉えてしまうと、ベンチャー・ビジネスとは、通常のビジネス実践からはまるで乖離した特殊な存在になってしまいます。実際のベンチャー・ビジネスには、既存のテクノロジーを再利用することもよくありますし、あるいは逆にベンチャー・ビジネスをつうじて新たなテクノロジーを見出すこともあります。また、起業の動機も、しっかり聞いてみると意外なほど日常的で素朴な関心に基づいたものがそのほとんどなのです。この科目では、ベンチャー・ビジネスに関する基本的な考え方を、具体的なケーススタディを検討することを通じて学びます。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>この講義の到達目標は、企業家研究の基本的な理論的系譜について、先端的な企業の事例を通じて学び、ベンチャー・ビジネスに関するロジカルな分析能力を身につけることにある。特に講義を通じて得られる知識・能力を上げれば、以下の通りとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ベンチャー・ビジネスを理解するに当たって必要な、企業家研究の理論的系譜。 ②ベンチャー・ビジネスに求められる、事業機会の認知や資源動員先の探索に関するロジカルな考え方。 ③ケースディスカッションを通じて得られる、プレゼンテーションおよび対話能力。 						
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 具体的な講義については、合計15コマを、学説史と事例に分けて以下の通り進める。</p> <p>①企業家研究の理論的系譜については、シュムペーターによる企業家論、企業家の心理学的研究、企業家の社会学的研究（ネットワーク論、文化論）といった古典的研究に加え、制度派組織論や社会運動論を踏まえた近年の先端的研究までカヴァーした講義を行う（全8回）。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) シュムペーターの経済発展モデルと企業家精神 (3) 企業家の心性 (4) 企業家と文化 (5) 企業家とネットワーク (6) 企業家と正統性 (7) ベンチャー企業の生き残り (8) 企業家概念の拡がり <p>②のケースディスカッションについては、ケースをもとにディスカッションを実施し、質疑応答を行う（全7回）。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ITベンチャーのビジネスモデル (2) ネット証券会社のビジネスモデル (3) ベンチャー企業と資源動員 (4) 医療系ベンチャー企業と正統性 (5) 社会企業家による社会的企業の構築 (6) まちづくりとソーシャルイノベーション (7) ベンチャー企業の管理 <p>合計15回</p> <p>【授業方法】 講義形式で実施する。ただし、各回で指定したリーディングに基づいたディスカッションおよび、複数回の小テストを実施する。</p>						
授業外学習	<p>各講義に先立ってkibacoを通じて指定もしくは配布されたリーディングを、講義開始までに熟読すること。 また、講義終了後に数回、小テストを実施する。</p>						
テキスト・参考書等	<p>テキスト 高橋勅徳・木村隆之・石黒督朗『ソーシャル・イノベーションを理論化する：切り拓かれる社会企業家の新たな実践』文眞堂 参考書 桑田耕太郎・松嶋登・高橋勅徳（編）『制度的企業家』ナカニシヤ出版</p>						
成績評価方法	<p>授業中の小テスト（30%）および期末試験（70%）に基づく総合評価を行う。</p>						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>メール（misanori@tmu.ac.jp）にて受付を行い、日程調整を行う形で適宜、面会・相談を受け付ける。</p>						
特記事項（他の授業との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 経営学入門を受講済みであることが望ましい。 【講義資料について】 講義資料はkibacoを通じて配布する。</p>						

備考：

2018年度以降入学生	マクロ経済学1	H0411	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	マクロ経済学1	H411	経営B 経済A	2 単位
担当教員	荒戸 寛樹	後期	月曜日	4 時限
授業方針・テーマ				
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標				
授業計画・内容 授業方法				
<p>学部中級レベルのマクロ経済学を講義する。長期理論、短期理論をバランスよく扱うことでマクロ経済学についての包括的な知識を身につける。また現実の実体経済との関連を重視し、幾つかのトピックスを取り上げて紹介する。</p> <p>所得の上昇、景気変動、物価変動、失業、社会保障、所得分配などマクロ的な経済状況や制度は私たちの生活と密接に関係する。一国の経済状況が決定されるメカニズムや、景気変動の調整・所得再分配・物価の安定といった政府や中央銀行の機能と役割を理解する上で重要なマクロ経済学についての基礎知識・基礎理論の習得を目的とする。</p> <p>以下の計画にもとづいて授業を行う予定。 カッコ内は取り上げる内容についてのキーワードを表す。</p> <p>1 : イントロダクションとマクロ経済データ 第1回 : マクロ経済学の問題意識 (家計・企業・政府間の経済取引、経済活動の在り方と福祉の向上) 第2回 : 経済データと国民経済計算 (1) (GDP、経済成長、景気変動) 第3回 : 経済データと国民経済計算 (2) (消費者物価指数、企業物価指数、失業率)</p> <p>2 : 長期のマクロ経済理論 第4回 : 国民所得決定理論 (1) (財・サービスの生産) 第5回 : 国民所得決定理論 (2) (財市場・要素市場・金融市場の一般均衡) 第6回 : 貨幣と物価変動 (1) (証券と貨幣の市場、貨幣需要、金融政策、インフレとデフレ) 第7回 : 貨幣と物価変動 (2) (財政の財源調達と配分、租税と通貨発行益、物価変動の社会的コスト、中央銀行の役割) 第8回 : 失業 (労働市場、雇用・労働問題) 第9回 : 開放経済 (為替レート・経常収支)</p> <p>3 : 短期のマクロ経済理論 第10回 : 景気変動とは 第11回 : 総需要・IS - LMモデルとその応用 (1) (有効需要政策) 第12回 : 総需要・IS - LMモデルとその応用 (2) (財政政策・金融政策の効果) 第13回 : AS - ADモデル (1) (総需要曲線・総供給曲線の導出) 第14回 : AS - ADモデル (2) (インフレと失業のトレードオフ) 第15回 :まとめと期末試験</p> <p>【授業方法】 講義が中心となるが、必要に応じて適宜練習問題を課して授業中に解いてもらうこともある。予習で生じた疑問について事前に質問を集め、授業中に回答することもある。</p> <p>テキストの内容について、章ごとにeラーニングシステムkibacoに予習テストを用意する。自分でテキストの指示された章を勉強した上で予習テストを解くこと。 予習テストは締切までであれば何度でも再提出可能なので、満点に近づくまでやり直すこと。 授業は、この予習を行っていることを前提に展開する。 詳しいやり方は第1回の授業で説明するので、必ず出席すること。</p> <p>【テキスト】 N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー マクロ経済学 I 入門篇』第4版、東洋経済新報社、2017年。</p> <p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の成績 (約60%) ・授業外学習として課される予習テストの提出状況 (約40%) <p>の2つを総合して評価する。 詳細は第1回の授業で説明するので必ず出席すること。</p> <p>質問受付方法（オフィスアワー）</p> <p>2020年度後期のオフィスアワーは水曜4限です。 気軽に荒戸研究室（3号館403）に来て下さい。</p> <p>特記事項（他の授業との関連性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎数学1」、「入門ミクロ経済学」、「入門マクロ経済学」の内容を前提として講義を行う。 ・「ミクロ経済学1」を履修済みであるか、本授業と同時並行で履修することを強く推奨する。 				

備考 :

2018年度以降入学生	経済思想概論	H0437	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経済思想概論	H437	経営B 経済A	2 単位
担当教員	高見 典和	後期	月曜日	4 時限
授業方針・テーマ	経済や社会がこれまでどのように論じられてきたかについて概説します。アダム・スミスやケインズといった経済学者の名前は、ほかの経済学の講義でも言及されますが、より詳細に、過去の著名な思想家の人物像や学説を紹介します。(専門分野の知識・理解、論理的思考力)			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	過去の著名な哲学者・思想家・経済学者の議論を理解することで、教養としての経済思想を身につけることができます。また、現在では、経済学の範疇に含まれないような経済や社会に対する捉え方を学ぶことができます。(専門分野の知識・理解、論理的思考力)			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 古代ギリシア 第3回 ヘレニズム時代と中世 第4回 重商主義 第5回 重農主義 第6回 ヒュームとステュアート 第7回 アダム・スミス1 第8回 アダム・スミス2 第9回 イギリス古典派経済学 第10回 マルクス 第12回 初期の社会学 第13回 ケインズ 第14回 フリードマン 第15回 試験と解説</p>			
授業外学習	事前にkibacoをつうじてハンドアウトを配布します。目を通しておいてもらうと良いでしょう。また、1,000字程度の読解レポートを2回課します。(専門分野の知識・理解、論理的思考力)			
テキスト・参考書等	【参考書】野原慎司・沖公祐・高見典和 著、『経済学史——経済理論誕生の経緯をたどる』(日本評論社)			
成績評価方法	期末試験60%、レポート40% (専門分野の知識・理解、論理的思考力)			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。			
特記事項（他の授業との関連性）				

備考 :

2018年度以降入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント	H0004	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	ヒューマン・リソース・マネジメント	H004	経営A 経済B	2 単位
担当教員	西村 純 (*)	後期	火曜日	2 時限
授業方針・テーマ	企業はモノやヒトなどの資源を活用し、経済活動を行っています。ヒューマン・リソース・マネジメントは、経営資源の中でも「ヒト」に注目する学問分野です。業種に関わらずサービス業化が進む現代において、企業が活用できる資源における「ヒト」の重要性はますます高まっています。しかしながら、モノとは違い「ヒト」は心を持つゆえに、そのときどきによって彼(女)のパフォーマンスは変化します。また、電源を入れれば動き続ける機械とは異なり、動き続けることはできません。「ヒト」という特殊な資源を活用する上で、企業はどのような仕組みを用いているのか、その原理は何かを学びます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	人を動かす仕掛けとして企業がどのような人事施策を用いているのか、なぜそれらの人事施策が機能する（しない）のかを考えることで、表層的な知識だけでなく、背後のメカニズムに関する知識を得ます。また、会社が実施する教育訓練制度や従業員との意見交換制度について学ぶことで、皆さんが出る前に、キャリア形成や労働条件決定に関する基本的な考え方を習得することを目的とします。			
授業計画・内容 授業方法	皆さんの学習状況に応じて変更する可能性があります。 【教室では授業資料の紙媒体での配布は行わないで注意すること】 1回 イントロダクション（講義の目的・履修上の留意点） 2回 ヒューマン・リソース・マネジメントが扱う範囲 3回 人事制度の基礎：人事の基盤システム（1）格付け制度 4回 人事制度の基礎：人事の基盤システム（2）社員区分制度 5回 従業員のタイプ（1）正社員 6回 従業員のタイプ（2）非正社員 7回 採用管理 8回 賃金管理 9回 評価と処遇 10回 ゲストスピーカー（ゲストの予定により前後に変更する可能性あり） 11回 労働時間管理 12回 異動・移動 13回 キャリア・教育訓練 14回 従業員の声を反映する仕組み（労使関係） 15回 まとめ			
授業外学習	1. kibacoにアップされる授業のレジュメ、新聞や雑誌記事などに事前に目を通しておくこと 2. 授業の中で皆さんの意見を聞くことがあります。テーマについて自分なりの考えを持った上で授業に参加してください。 3. 配布した資料がその週で完結するとは限りません。 4. アルバイト経験、組織（部活・サークル）での経験、あるいは身近な大人との行動で経験したことと授業で習った内容を自分なりに結びつけることを意識すること。			
テキスト・参考書等	指定の教科書は特になし。kibacoで配布される資料の予習・復習を行うこと。ただし、以下の文献を自主的に勉強することで授業内容がより理解できる。 1. 平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理』有斐閣。 2. 今野浩一郎・佐藤博樹（2009）『人事管理入門 第2版』日本経済新聞出版社。 3. 佐藤博樹・藤村博之・八代充史（2015）『新しい人事労務管理 第5版』有斐閣アルマ。 4. 守屋貴司・中村艶子・橋場俊展（2018）『価値創発（EVP）時代の人的資源管理：Industry4.0の新しい働き方・働くかせ方』ミネルヴァ書房。			
成績評価方法	授業態度20%(毎回ではなく、ランダムに配布するコメントシート) 期末試験80% ※いかなる理由であっても、コメントシート配布時に教室にいなかった学生に後からコメントシートを再配布することはないので注意すること。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問受付方法 質問があるものは事前にメールにて教員にアポイントをとること。教員のメールアドレスは、資料の表紙に記載されている。			
特記事項（他の授業との関連性）	【注意】 1. 授業資料の配布は原則としてkibacoを通じて行うので、各自ダウンロードして出力のうえ授業に臨むこと。教室での紙での配布は行わない。 2. この科目は、経営学の応用分野のため、経営学に関する基礎的な知識を有していることが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	マーケティング・リサーチ	H0213	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	マーケティング・リサーチ	H213	経営B 経済B	2 単位
担当教員	中山 厚穂	後期	火曜日	2 時限
授業方針・テーマ	企業が顧客ニーズを発見し、マーケティング計画を策定するためにはマーケティング・リサーチが必要不可欠となる。そこで、本講義では、マーケティング・リサーチの前提となる「基礎知識」「調査方法」「データの分析方法」「分析結果の解釈の仕方」の4点を中心に学ぶ。そして、リサーチの事例を取り挙げながら解説を行うとともに、グループワークなどによる実習を取り入れながら授業を進めていく。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	顧客ニーズを発見し、データにもとづいてマーケティング計画を策定することが出来るよう、講義だけではなくグループワークなどによる実習を取り入れながら授業を進めていく。実習を通じて企画から報告までの一連の過程を、学生が主体的に学び、マーケティング・リサーチの過程で生ずる問題や課題を自ら解決することのできる力を養うことを目指とする。			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 マーケティング・リサーチの企画1：調査目的の明確化</p> <p>第3回 マーケティング・リサーチの企画2：調査仮説の設計</p> <p>第4回 調査の方法（全数調査と標本調査）</p> <p>第5回 標本抽出1：標本の抽出法</p> <p>第6回 標本抽出2：標本誤差</p> <p>第7回 調査法の種類</p> <p>第8回 調査票の作成1：調査票作成</p> <p>第9回 調査票の作成2：調査票作成の際の注意点</p> <p>第10回 調査票の作成3：調査票作成の実際</p> <p>第11回 調査の実施の留意点</p> <p>第12回 調査結果の入力（エディティング・コーディング・データチェック）</p> <p>第13回 調査データの集計1：基礎集計</p> <p>第14回 調査データの集計2：クロス集計</p> <p>第15回 調査結果の報告とレポート作成（まとめ）</p>			
授業外学習	マーケティング・リサーチの企画・実施していくうえで必要となる作業を授業外学習の課題として課す予定である。			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 特に指定しない。講義時に適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】 竹内光悦・元治恵子・山口和範（著）「アンケート調査とデータ解析の仕組みがよくわかる本 社会調査のためのデータの集め方と統計解析入門」秀和システム 照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ－市場を読み解くデータ分析」有斐閣</p>			
成績評価方法	期末試験と授業中に行う小課題や授業外学習としての課題レポートの内容によって成績を評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	毎週火曜日12:00~13:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も隨時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp			
特記事項（他の授業との関連性）	履修にあたっては統計学Ⅰ・Ⅱ、マーケティング・サイエンスの講義内容の知識は必要となりますが履修していなくても履修可能です。			

備考：

2018年度以降入学生	ゲーム理論2	H0430	経済B 経営B	2単位
2013~2017年度入学生	ゲーム理論2	H430	経営B 経済B	2単位
担当教員	渡辺 隆裕	後期	火曜日	2 時限
授業方針・テーマ	本講義では、ゲーム理論1の講義を履修したものを対象として、一般的な展開形ゲーム（不完全情報、不確実性があるゲーム）、他段階交渉と繰り返しゲーム、不完備情報ゲームなどを講義します。ゲーム理論1と同様に、その目標は2つあり、1つはビジネスや政策決定に応用できる「戦略的思考の技法」として、ゲーム理論を身につけること、もう1つは、経済学・経営学の多くの分野に用いられているゲーム理論を理解することで、それらの理解を一層深められるようになること、です。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>(1) 不完全情報の展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡マッチングを学び、その考え方を身に着けます。</p> <p>(2) 多段階の交渉ゲームや繰り返しゲームの基礎を学び、オウム返し戦略やトリガー戦略を理解します。</p> <p>(3) 期待効用やリスク回避などの概念を理解し、ベイズの定理と情報、事前確率、事後確率などの概念を学びます。</p> <p>(4) 不完備情報ゲームとベイズ完全均衡の基礎を学習し、最後に進化ゲームについて学びます。</p> <p>授業を通して、社会現象や経済現象を「仮定」をもとに論理的に説明する力、モデルによって理論的に考える力、といった能力を身につけることができます。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 不完全情報の展開形ゲームと情報集合、展開形ゲームの標準形ゲームへの変換</p> <p>第3回 部分ゲーム完全均衡を求める</p> <p>第4回 展開形ゲームの混合戦略と行動戦略、不確実性のある展開形ゲーム</p> <p>第5回 時間割引と多段階交渉ゲーム</p> <p>第6回 繰り返しゲームと囚人のジレンマ</p> <p>第7回 繰り返しゲームの基礎</p> <p>第8回 割り当ての設計</p> <p>第9回 不完備情報戦略形ゲームの基礎</p> <p>第10回 不完備情報戦略形ゲームの応用</p> <p>第11回 ベイズの定理</p> <p>第12回 不完備情報展開形ゲーム</p> <p>第13回 不完備情報展開形ゲームとシグナリング</p> <p>第14回 展開形ゲームの混合戦略と行動戦略、不確実性のある展開形ゲーム</p> <p>第15回 試験と解説</p> <p>【授業方法】 授業は講義形式で行い、主にスライドで行われます。スライドはkibacoが指定されたホームページで配布されています。 受講者数は多いですが、適宜、教員が教室を回って学生に質問を投げかけ、それにマイクで学生が答えるという形を取り、各自が考えながら講義ができるスタイルをとっています。 講義中には必ず演習問題が出され、それを解いてkibacoに入力し、それが演習点となります。演習問題は、SAや周りの人と相談しながら解くことができますので、講義時間内に不明な点を理解できるようになります。</p>			
授業外学習	毎回宿題が出ます。宿題の解答をkibacoに入力することで演習点となります。kibacoに入力する「提出課題」の他にも各自には「自習課題」が出されており、それを解くことで、より高い理解に到達します。 講義は、理論の概略とイメージを伝えることが中心となります。理論の詳細や計算に関する部分は、自らがテキストと参考書を読み理解することが必要です。			
テキスト・参考書等	<p>テキスト：渡辺隆裕著「ゼミナール ゲーム理論入門」(日本経済新聞社)。</p> <p>演習問題・宿題などが、この中から出題されることがありますので購入してください。</p> <p>講義スライドも配布されます。こちらもよく読む必要があります。</p> <p>講義資料も配布されます。一部の講義の内容はテキスト「ゼミナール ゲーム理論入門」には書かれていおらず、スライドと配布された講義資料で学ぶ必要があります。</p> <p>私のホームページゲーム理論のナビゲータにも有用な情報があります。</p> <p>参考書：「図解雑学ゲーム理論」(2004) 渡辺隆裕(著) ナツメ社 「ゲーム理論ワークブック」(2015) 岡田章(監修・著) 加茂知幸ほか(著) 有斐閣</p>			
成績評価方法	期末試験（前期末試験）を60%、宿題と演習を40%として評価します。 演習は、授業中に<kibaco>を使って行います。宿題も<kibaco>に入力します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは火曜の3限です。 事前にメールでアポイントメントをとって頂ければ、他の時間にも対応できることもあります。 質問については、メールやkibacoでも受け付けます。			
特記事項（他の授業との関連性）	受講はゲーム理論1を履修していることが前提条件です。 毎回の宿題、講義のスライド、宿題の解答、その他の講義資料、講義に関する連絡は<kibaco>、またはあらかじめ指示したホームページ上にアップロードします。			

備考：

2018年度以降入学生	経営戦略論	H0061	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	経営戦略論	H061	経営A 経済B	2 単位
担当教員	竹田 陽子	後期	火曜日	3 時限
授業方針・テーマ	<p>経営戦略は、企業が「われわれはどのような存在であるのか」「どこへ向かいたいのか」「そこに至るまでの道筋」を考え、行動することである。講義では企業が直面する次のような問題を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> - どのような付加価値をどのように生み出すのか - 競争相手に付加価値を奪われないようにするにはどうしたらよいのか - 他者と共に付加価値を生み出すためにどのような関係を形成していくのか - 自ら保有する資源をどのように使うのか - 企業内部にどのような資源を蓄積していくのか 			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>経営戦略に関する主要な理論を理解し、学んだ概念を企業や社会で起こっている諸問題に適用して分析できるようになること（論理的思考力）、さらには、将来社会で実践に携わるときに参照できるフレームワークを体得すること（総合的問題思考力・情報活用能力）を目標とする。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営戦略とは何か 戦略に関する見方の変遷とアプローチ 2. 企業の境界、垂直統合 3. 多角化、事業ドメイン 4. ポジショニング・アプローチ： 外部環境分析 5. ポジショニングの型 6. 価格戦略 製品戦略 7. ネットワークの外部性 市場参入のタイミング 代替品の戦略 8. ゲーム・アプローチ： 競争と協調 9. 資源アプローチ：コアコンピタンス、模倣困難性、見えざる資産 10. 企業間の対立と協力 11. プラットフォーム戦略とエコシステム 12. 動的能力アプローチ： ダイナミック・ケイパビリティ、組織変革 13. 組織学習、技術革新 14. 創発、創造の場 15. 期末試験 <p>【授業方法】 講義中心であるが、授業中および授業外時間に課す小レポートとクイズのレビューを随時実施する。</p>			
授業外学習	<p>小レポートや期末テストの論述問題のために、自ら問題意識を持って情報を探索し、文献を読み込む能動的な学習が求められる。また、毎回の授業内容の復習は必須。</p>			
テキスト・参考書等	<p>コース全体の推薦テキストは、 Besanko, D. et al. (2000)『戦略の経済学』ダイヤモンド社 Barney, J.B. (2002)『企業戦略論 上中下』ダイヤモンド社 テーマごとの参考文献は授業中に紹介する。</p>			
成績評価方法	<p>期末テスト70%（論理的思考力・総合的問題思考力）、小レポートとクイズ30%（論理的思考力・総合的問題思考力・情報活用能力）。特に優秀な回答には加点する。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとれば対応する。メールアドレスは初回授業で告知する。</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>ミクロ経済学と経営組織論を履修することが望ましい。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	金融論 1	H0425	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	金融論 1	H425	経営B 経済A	2 単位
担当教員	松岡 多利思	後期	火曜日	3 時限
授業方針・テーマ	本講義では、金融の仕組みや金融機関・金融市場の役割から金融の基礎理論までを体系的に学びます。現実の金融動向と関連付けた議論・トピックも紹介していきます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	金融システムの全体像や金融市場・金融機関の役割を学びます。そして、金融理論の基礎を体系的に学びます。これらの学習を通じて、金融を実践的に見る目を養うことを目的とします。			
授業計画・内容 授業方法	<p>こちらで作成した講義資料を基に、講義を行います。</p> <p>第01回 金融取引の本質は何か？ 第02回 資本と投資（投資の収益率と利子率） 第03回 貨幣と金融 第04回 日本の金融システム 第05回 金融機関の機能と証券化 第06回 金融市场 第07回 株式の仕組みと制度 第08回 債券市場と債券価格 第09回 利子率と資産価格 第10回 金融派生商品：先物市場・オプション取引 第11回 家計の金融行動：資産選択とリスクの関係 第12回 企業の金融行動：MM定理とペッキング・オーダー理論 第13回 金融政策 第14回 決済システムと信用秩序の維持 第15回 期末試験と解説</p>			
授業外学習	講義内容の復習を行い、テキストの練習問題及び出された課題に取り組むこと。			
テキスト・参考書等	テキスト：『基礎コース 金融論 第4版』、畫間文彦 [著]、新世社、2018年。 参考書：『金融』、内田浩史 [著]、有斐閣、2016年			
成績評価方法	複数回の課題20%、期末試験80%により成績評価を行います。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は授業後、メールもしくはオフィスアワーで受け付けます。 オフィスアワーは木曜日3限。 オフィスアワーとは、学生が質問、あるいは雑談、さらにはお茶を飲みに教官のオフィスを自由に訪れてよい時間のことです。オフィス・アワー中は学生の質問が最優先されます。予約はまったく不要です。			
特記事項（他の授業との関連性）				

備考：

2018年度以降入学生	経済学コース特別講義（産業史）		H0470	経済B 経営C	2 単位		
2013～2017年度入学生	経済学コース特別講義（産業史）		H470	経営C 経済B	2 単位		
担当教員	井澤 龍	後期	火曜日	3 時限			
授業方針・テーマ	本講義では、我々の生活を支える主要産業について、その生成・展開史を学んでいきます。また、各国比較・関係を考慮し、イギリス、アメリカ、ドイツ、日本の例を中心にして産業の構造・歴史を眺めます。授業の流れとしては、第1、2回で産業一般の見方について説明した後、第3回目以降の産業各論パートでは、各産業がもつ固有の動態、一方でその枠を越境したり再定義したりする企業の創意工夫をみます。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	産業史を、個性記述に留意しながらも、基礎的な経済学・経営理論に基づいた見方を通して眺める力をつけてもらいます。また、就職活動における業界研究、あるいは自身が属している業界理解の一助になることも願っています。						
授業計画・内容 授業方法	第1回：授業方針と本科目の狙い 第2回：産業史の見方について 第3、4回：自動車産業史 [2回] 第5、6回：電気機械産業 [2回] 第7回：繊維産業史 第8、9回：化学・医薬品産業史 [2回] 第10回：鉄鋼業史 第11回：情報システム産業史 第12回：生活用品・トイレタリー産業史 第13回：銀行業史 第14回：生命保険業史と授業の振り返り 第15回：期末試験と解説						
授業外学習	配布資料に示す重要語句、プロセス記述などについて説明できるようにしてください。						
テキスト・参考書等	テキスト・参考書等は設定しません。毎授業、レジュメを配布します。						
成績評価方法	中間試験 20点。期末試験 80点。 初回の授業にて、成績評価基準を説明します。						
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは、初回の授業でお知らせします。火曜5限を予定しています。						
特記事項（他の授業との関連性）	事前知識を必要とはしませんが、経済史関連科目、企業経済学、産業組織論、経営学関連科目に関心があると望ましいです。						

備考：

2018年度以降入学生	ミクロ経済学1	H0433	経済A 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	ミクロ経済学1	H433	経営A 経済A	2 単位
担当教員	森本 優平	後期	火曜日	4 時限
授業方針・テーマ	初級から中級レベルのミクロ経済学について講義を行い、家計や企業がどのように消費や生産活動を行い、市場ではどのように価格や資源配分が決まるのかを学びます。また、さらに進んだトピックとして市場の効率性や市場の失敗について概観し、市場の働きや政府の役割についても理解を深めます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	消費者や生産者の行動、市場均衡について理解を深め、授業で学んだ手法（特に、図や数式）を用いてそれらを分析できるようになることが目標です。			
授業計画・内容 授業方法	1回 イントロダクション 2回 消費者行動：選好と効用 3回 消費者行動：予算制約、最適消費の決定 4回 消費者行動：所得の変化と需要 5回 消費者行動：価格の変化と需要 6回 消費者行動：代替効果と所得効果 7回 生産者行動：生産技術 8回 生産者行動：利潤最大化、費用最小化 9回 生産者行動：費用関数 10回 生産者行動：供給関数の導出 11回 市場均衡：市場需要と市場供給、与件の変化 12回 市場均衡：均衡への調整過程、一般均衡分析 13回 市場均衡：一般均衡分析 14回 さらに進んだトピック：市場の効率性、市場の失敗（独占・寡占、外部性、公共財、情報の非対称性） 15回 試験と解説			
授業外学習	【授業方法】講義を中心に授業を行います。			
テキスト・参考書等	講義内容の復習を行い、テキストの練習問題や宿題に取り組むこと。 テキスト：塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』新世社、2010年			
成績評価方法	期末試験（90%）と宿題（10%）により評価します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限			
特記事項（他の授業との関連性）	「入門ミクロ経済学」と「基礎数学1」（微分や最適化問題に関する数学）の知識があることが望ましいです。			

備考：

2018年度以降入学生	外国書講読（英）	H0471	経済B 経営B	2 単位
2013～2017年度入学生	外国書講読（英）	H471	経営B 経済B	2 単位
担当教員	井澤 龍	後期	火曜日	4 時限
授業方針・テーマ 習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本講義では、ヨーロッパ経済史の標準的なテキストの一つであるBroadberry & O'Rourke, <i>The Cambridge Economic History of Modern Europe</i> を輪読します。ヨーロッパ全体の近現代経済史を通観したテキストに触れることで、一国レベルを乗り越えた歴史理解力を養います。 学術用語を含む英書を読むことによって、専門書の読み方、文脈を踏まえた英語理解の仕方を身に着けます。また、訳出範囲となったトピック・時代に関する専門知識を身に着けます。			
授業計画・内容 授業方法	受講者の人数、英語学習の状況を踏まえて、進度・読書量を調整します。具体的には、テキストの通読を目指すよりは、受講者の関心に沿ったトピックを選び、その範囲の要約あるいは全訳作業をします。 第1回 授業ガイダンス 第2～15回 下記のトピックスの内、受講者の関心のあるものを訳出・発表 Vol.1 (1700 - 1870) 1 - Understanding growth in Europe, 1700-1870: theory and evidence 2 - The demographic transition and human capital 3 - State and private institutions 4 - Trade and empire 5 - Business cycles 6 - Agriculture 7 - Industry 8 - The services sector 9 - Standards of living 10 - Urbanization 11 - Europe in an Asian mirror: the Great Divergence Vol.2 (1870 - present) 1 - Globalization, 1870-1914 2 - Aggregate growth, 1870-1914: growing at the production frontier 3 - Sectoral developments, 1870-1914 4 - Business cycles, 1870-1914 5 - Population and living standards, 1870-1914 6 - War and disintegration, 1914-1950 7 - Business cycles and economic policy, 1914-1945 8 - Aggregate growth, 1913-1950 9 - Sectoral developments, 1914-1945 10 - Population and living standards, 1914-1945 11 - The economic impact of European integration 12 - Aggregate growth, 1950-2005 13 - Sectoral developments, 1945-2000 14 - Business cycles and economic policy, 1945-2007 15 - Population and living standards, 1945-2005			
授業外学習	事前にテキストを読み、不明点を把握しておいてください。また、発表者は、担当範囲について訳出し、授業日の朝までにチームコミュニケーションツール(Slack)にアップロードしてください。初回授業にて、進捗管理について説明します。			
テキスト・参考書等	Broadberry, S., & O'Rourke, K. H. (2010). <i>The Cambridge economic history of modern Europe: Volume 1, 1700-1870</i> . Cambridge University Press. Broadberry, S., & O'Rourke, K. H. (2010). <i>The Cambridge economic history of modern Europe: Volume 2, 1870 to the present</i> . Cambridge University Press. テキストの入手法については、初回の授業に説明します。初回にテキストを携行する必要はありません。			
成績評価方法	平常点（報告点、コメント点、出席点）により評価します。 初回の授業にて、成績評価基準を説明します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは、初回の授業でお知らせします。火曜5限を予定しています。			
特記事項（他の授業との関連性）	履修する場合には、必ず初回授業に参加してください。			

備考：

2018年度以降入学生	2年次専門セミナー（経営科学）	H0501	経済B 経営B	2単位
2013～2017年度入学生	—	—	—	—
担当教員	山下 英明、森口 聰子、 澄田 範奈（＊）	後期	火曜日	4時間
授業方針・テーマ	3つのテーマについて、各テーマ5回ずつ授業を行う。 テーマ1：組合せ最適化における基本的な問題である安定結婚問題とそのアルゴリズムについて、輪読形式で学ぶ。（担当：澄田） テーマ2：Pythonを用いてプログラミングの基礎を学ぶ。プログラミングの基本的な考え方、基礎的な知識を学び、数理的な問題のプログラミングを実践する。（担当：山下） テーマ3：数理最適化の基本的な手法をPythonで実践しながら学ぶ。（担当：森口）			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	テーマ1：アルゴリズムの性質を数学的に証明する基礎を身につける。また、輪読を通じて、テキストを細かく読めるようになること、分かりやすく発表できるようになることを目指す。 テーマ2：プログラミング初学者が、アルゴリズムを考え、それに沿ってプログラムを作成できるようになることを目指す。これにより、論理的思考力を向上することができる。言語はPythonを用いる。 テーマ3：数理最適化問題の基本的な理論とアルゴリズムを理解し、数学的な論証能力を身につけることを目標とする。Python言語を用いて、数理モデルを実現し、簡単な最適化問題を解くことができる。			
授業計画・内容	テーマ1 1. イントロダクション、グループ決め 2～5. 担当グループによる発表 テーマ2 1. 四則演算、条件分岐 2. 繰り返し処理 3. 1次元のリスト、2次元のリスト 4. 関数、ファイル入出力 5. Pythonを用いた数値計算 テーマ3 1. 線形最適化問題入門 2. Pythonによる線形最適化 3. 整数計画問題入門 4. Pythonによる整数計画 5. Pythonによる最適化実践			
授業方法				
授業外学習	テーマ1：授業外でテキストの担当箇所を読み、発表の準備を行う。 テーマ2：毎回簡単なプログラムの演習問題を通して復習を行う。5回の授業が終了後には、やや複雑なプログラミングの課題に挑戦する。 テーマ3：授業外でプログラム例、簡単な演習問題を通して、復習を行う。5回の授業が終了後には、やや複雑なプログラミングの課題に挑戦する。			
テキスト・参考書等	テーマ1：D. Gale and L. S. Shapley. 'College Admissions and the Stability of Marriage'. The American Mathematical Monthly, Vol. 69, No. 1 (1962), pp. 9-15. (コピーを講義初回に配布する) テーマ2：テキストは特に指定しない。講義時に適宜資料を配布する。 テーマ3：テキストは特に指定しない。講義時に適宜資料を配布する。			
成績評価方法	各テーマの評価を総合して、成績評価を行う。 テーマ1：内容の理解度（特に担当箇所）、発表によって評価する。 テーマ2：授業中の理解度、演習問題と課題の完成度によって評価する。 テーマ3：授業中の理解度、演習問題と課題の完成度によって評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	澄田：質問はメールにて受け付ける。メールアドレスは初回授業で連絡する。 山下：質問は随時受け付ける。質問がある場合は、前日までに必ずメールで予約した上で研究室（3-413）に来ること。メールで直接質問しても構わない。hideak@tmu.ac.jp 森口：質問は随時受け付ける。質問がある場合は、前日までに必ずメールで予約した上で研究室（3-312）に来ること。メールで直接質問しても構わない。satoko5@tmu.ac.jp			
特記事項（他の授業との関連性）				

備考：「2年次専門セミナー」は、経済経営学部2年次生のみが履修できる科目です。様々な分野にわたって「2年次専門セミナー」が複数開講されますが、履修できるのは1つの科目のみです。Webによる先着順登録で、各科目毎に定員30名になります。次第、登録ができなくなります。

Web登録の際、先着順メニューから登録を行ってください。定員（30名）を超えるとエラーが出て登録できなくなりますが、期間中は一度登録した学生が履修を取りやめると、その分定員に対する空きが復活し、また定員になるまで登録できます。履修登録の時期は、2020年9月18日（金）～9月30日（水）を予定しています。通常の履修登録期間と異なり、後期開始前（9月末）になります。詳細は必ず掲示を確認して下さい。

2018年度以降入学生	国際金融論	H0440	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	国際金融論	H440	経営B 経済B	2 単位
担当教員	荒戸 寛樹	後期	水曜日	1 時限
授業方針・テーマ	国際金融論とは、国をまたがって行われる貨幣や金融資産の取引（国際間金融取引）に注目し、それらの価格（特に為替レート）の決定メカニズムを解明すること、および国際間金融取引が実物取引（貿易など）の変化を通じて経済に与える影響を理解することを目的とした学問分野である。 本講義では国際金融論における基本的な考え方を理解することを目的とする。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・為替レートや貿易に関する報道や論説等を、その背後にある理論を通じてより深く理解できるようになる。 ・日本および外国の経済政策がどのようなメカニズムを通じて私たちに影響をあたえるのか理解し、モデルを通じた政策評価の基礎が身につく。 			
授業計画・内容 授業方法	<p>毎回の授業は主に講義を通じて進む。 主な内容は以下のとおり。 (受講者の興味・理解度等により進度・内容を変更する可能性もある。)</p> <p>(1) 基礎知識 第1回：オリエンテーション（国際金融論の意義、グローバル化） 第2回：外国為替市場に関する基礎知識（顧客市場と銀行間市場） 第3回：為替レートに関する基礎知識（ピッドレートとオファーレート、裁定取引） 第4回：様々な外国為替取引（スポットとフォワード） 第5回：国際金融市场に関する基礎知識（ユーロ市場、LIBOR）</p> <p>(2) 為替レートの理論 第6回：金利と為替レートの関係（1）（カバー付き金利平価とその検証） 第7回：金利と為替レートの関係（2）（カバー無し金利平価とフォワード・プレミアム・パズル） 第8回：金利と為替レートの関係（3）（資本移動の自由、リスク、情報） 第9回：物価と為替レートの関係（購買力平価とバラツキ＝サミュエルソン効果） 第10回：購買力平価の実証分析（短期と長期、経済成長と物価水準） 第11回：為替レートと経常収支の関係（マーシャル・ラーナー条件、Jカーブ効果）</p> <p>(3) 国際マクロ経済学の基礎 第12回：国際収支（貿易収支・経常収支・金融収支、国際収支の不均衡、日本の国際収支） 第13回：小国開放経済の一般均衡モデル（1）（小国開放経済の定義、モデルの設定） 第14回：小国開放経済の一般均衡モデル（2）（生産と経常収支） 第15回：通貨危機と国際機関（通貨危機のモデル、リスクと流動性、IMF）</p> <p>【授業方法】 主に講義を行う。演習問題を解いたり、kibacoを通じて集めた質問について解答するなど、双方向授業の要素も取り入れる予定。</p>			
授業外学習	事前に講義ノートを配布するので予習を行うこと。 また、kibacoで課題を出すので、それを提出すること。			
テキスト・参考書等	<p>テキストは定めない。進度に応じて講義ノートを配布し、それに基づいて講義を進める。</p> <p>【参考書】</p> <p>購入の必要はないが、適宜参照すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小口幸伸『見る・読む・深く・わかる 入門 外国為替のしくみ』、日本実業出版社、2013年。 2. 藤井英次『コア・テキスト国際金融論』、第2版、新世社、2014年。 3. 永易淳ほか『はじめて学ぶ国際金融論』、有斐閣、2015年。 4. 東短リサーチ（編）『東京マネー・マーケット』、有斐閣、第8版、2019年。 5. 高木信二『入門国際金融』、第4版、日本評論社、2011年。 6. 加野忠・村井睦男『国際金融と外国為替』、第3版、大学教育出版、2010年。 7. クルーグマン・オブストフェルド・メリッツ、『クルーグマン国際経済学 理論と政策』（原書第10版）下：金融編、丸善出版、2017年。 8. Melvin, M. and S. C. Norrbom『International Money and Finance』, 9 th edition, Academic Press, Elsevier, 2017. 9. Pilbeam, K.『International Finance』, 4 th edition, Palgrave Macmillan, 2013. <p>その他、授業中に適宜紹介する。</p>			
成績評価方法	数回課される宿題（40%）と、期末に提出するレポート（60%）で評価する。 詳細は初回授業で説明する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	2020年度後期のオフィスアワーは水曜4限です。 受講者は気軽に荒戸研究室（3号館403室）にお越し下さい。			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>「基礎数学1」「基礎数学2」「ミクロ経済学1」「ミクロ経済学2」「マクロ経済学1」「統計学I」「統計学II」「計量経済学1」「計量経済学2」「ゲーム理論1」「ゲーム理論2」の知識を前提とする。</p> <p>本授業の開始までに各科目の内容について自習しておくことを強く勧める。</p> <p>前提知識や自習方法に不安がある者は早めに遠慮なく h-arato@tmu.ac.jp まで連絡すること。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	労働経済学	H0245	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	労働経済学	H245	経営B 経済B	2 単位
担当教員	宮本 弘暁	後期	水曜日	2 時限
授業方針・テーマ	労働、つまり働くことは我々の人生においてきわめて重要です。労働経済学は「働くこと」に関する諸問題を経済学の手法で分析するもので、その分析対象は多岐にわたります。ワークライフバランスをどのようにとるかという個人の問題から、失業といった社会全体の問題まで、働くことに関するあらゆる問題を取り扱います。また、働くことをその分析対象とすることから、労働経済学が扱う対象は人々の生活に深くかかってきます。それゆえ、労働経済学はきわめて政策的な色合いが強い学問でもあります。本講義では労働に関する諸問題に関心がある学生に労働経済学のエッセンスをわかりやすく解説することです。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現在、日本の労働市場はいくつもの大きな課題に直面しています。少子高齢化による労働力の減少、長時間労働問題、正社員と非正社員の格差問題、ワークライフバランス問題など枚挙にいとまがありません。これらの課題について学生の皆さんのが自ら、問題意識をもって、分析、解決策を考えられるようにすることがこの授業の目標です。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画】</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 労働市場を観察する 第3回 日本的雇用慣行 第4回 労働市場の需給分析 第5回 労働供給 第6回 労働需要 第7回 失業 第8回 中間試験 第9回 サーチ・マッチングモデル 第10回 労働力フロー分析、雇用創出と消失 第12回 景気変動と労働市場 第13回 人的資本 第14回 制度・政策、日本の労働市場の課題 第15回 期末試験</p> <p>【授業方法】</p> <p>授業はスライドを用いた講義形式で行います。スライドは指定されたホームページで配布されています。</p>			
授業外学習	講義では、労働経済学の理論や実証分析の概略を伝えると同時に、現実問題についての解説をします。理論の詳細等は、自らがテキストと参考書を読み理解することが必要となります。			
テキスト・参考書等	テキスト：宮本弘暁 『労働経済学』 新世社、2018年。 参考書等は講義の際、必要に応じてお伝えします。			
成績評価方法	中間試験（40%）、期末試験（60%）の結果による。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーの時間は第1回の授業時に発表します。			
特記事項（他の授業との関連性）	Rによる実証作業を行うので、PC(学校貸与PC・自身のノートPCなど)を持参する必要がある。			

備考：講義のスライド、その他資料、講義に関する連絡は、指定のホームページ上にアップロードします。

2018年度以降入学生	経営科学概論	H0423	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	経営科学概論	H423	経営A 経済B	2 単位
担当教員	山下 英明	後期	水曜日	2 時限
授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、経営科学の手法のうち、数理計画問題を中心に学習する。数理計画問題は、ある制約のもとで目的関数を最大または最小にする問題で、目的関数と制約式がすべて線形で表現される線形計画問題、変数が整数に限定された組合せ最適化問題などがある。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理計画問題とその解法について本質的に理解する。経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法を身に着ける。 論理的思考力、総合的問題思考力、コミュニケーション能力を育成する。			
授業計画・内容 授業方法	<p>第1回～第11回 講義中心の授業 授業時間内では、教員が数理計画問題やネットワーク計画問題のモデル化や理論的解法について説明し、講義内容に関する課題について、グループで検討し、解答を導く。授業時間外では、授業で学習した方法についての演習問題を解き、次の授業において解答を確認し、理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. オペレーションズ・リサーチの概要 2. 線形計画法のモデル化 3. 線形計画問題の幾何学的解法 4. 単体法 5. 2段階単体法 6. 双対問題と双対定理 7. 相補性の定理 8. ナップサック問題と分枝限定法 9. 数理計画問題のモデル化と実例（輸送計画問題、ナーススケジューリング問題） 10. 最短距離問題とダイクストラ法 11. 最大流問題とラベリング法 <p>第12回～第14回 グループワーク中心の授業 グループで身近な問題を数理計画モデル化に表し、Excelのソルバーを行って最適解を導き、結果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 12. 実際の問題のモデル化 13. Excelソルバーによる最適化問題の求解 14. グループ発表 15. 試験とその解説 			
授業外学習	毎回、授業で学習した解法についての演習問題を課す。このうち、2週間に1度程度提出を義務づける。 グループワークにおいても、シミュレーションの実行、発表の準備等、授業外で行うことがある。			
テキスト・参考書等	テキストは使用しない。 参考書：森雅夫、森戸晋他 『オペレーションズ・リサーチ I』 朝倉書店 (1991) 福島雅夫 『数理計画入門』 朝倉書店 (1996) 森雅夫、松井知己 『オペレーションズ・リサーチ』 朝倉書店 (2004)			
成績評価方法	提出する演習問題等 (30%)、筆記試験 (50%) によりオペレーションズ・リサーチの知識、グループワーク (20%) により総合的問題思考力、コミュニケーション能力を評価する。 筆記試験は、期末に1回行う。筆記試験では、基本的に演習問題と類似の問題を出題するが、解法について本質的に理解しているかどうかを問う問題も出題し、論理的思考力を評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は隨時受け付ける。質問がある場合は、前日までに必ずメールで予約した上で研究室(3-413)に来ること。メールで直接質問しても構わない。メールアドレスは、授業中に周知する。			
特記事項（他の授業との関連性）	基礎数学1を履修済であることが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	2年次専門セミナー（会計学）	H0502	経済B 経営B	2単位
2013～2017年度入学生	—	—	—	—
担当教員	浅野 敬志、細海 昌一郎、 野口 昌良	後期	水曜日	2 時限
授業方針・テーマ	2年次専門セミナー（会計学）では、1年次で学修した会計学関連の専門教育科目では十分に検討されなかったテーマを取り上げ、それに関連する論点や課題を深く掘り下げる講義を実施します。具体的には、財務諸表上で開示される財務データの多様な活用方法について理解を深めると同時に、実際の企業の財務諸表を利用して、修得した分析方法を実践してみることにより、財務諸表の機能と構造に関するより実際的な知識を修得することを目指します。少人数（30名以内）の限られた学生のみがこうした課題に取り組み、より専門的な教育内容に早い段階から触れることができます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1. 企業財務情報を分析し、活用することができる。 2. 財務諸表の機能と構造に関する実際的な知識を修得することができる。 3. 企業価値評価に関する専門的な知識を修得することができる。			
授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 1. ガイダンス1 2. 財務諸表分析の方法 3. ケース・スタディ 4. グループワーク1 5. プрезентーション1 6. ガイダンス2 7. 企業価値評価の方法 8. ケース・スタディ 9. グループワーク2 10. プрезентーション2 11. CVP分析等の方法 12. ケース・スタディ 13. グループワーク3 14. プрезентーション3 15. 試験と解説 【授業方法】 全体を3クールに分け、各クールを1人の教員が担当する。各クールにおいては、1.教員による分析手法の説明、2.教員による具体的なケースの分析、3.参加学生によるグループワークを通じたケース分析、4.グループワークに基づく参加学生によるプレゼンテーションというサイクルで講義が展開される。学生で組織されるグループは参加学生の人数にもよるが、5グループ程度を予定している。			
授業外学習	【授業外学習】 e-learningシステムkibacoを通じて適宜ホームワークを実施する予定である。ホームワークの内容は、参加学生によるグループワークとプレゼンテーションに関する追加的調査とする予定である。			
テキスト・参考書等	【テキスト】 教科書は指定しないが、e-learningシステムkibacoを通じて講義資料を配布するので、事前に学習しておくこと。 【参考書等】 桜井久勝『財務諸表分析』（中央経済社）			
成績評価方法	基本的に参加学生によるグループワークとプレゼンテーションのクオリティに準拠して評価するが、適宜実施するホームワークのスコアも加算する。 評価のウェイトはグループワークとプレゼンテーションのクオリティのスコアを70%、ホームワークのスコアを30%とする予定である。			
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。			
特記事項（他の授業との関連性）	【他の授業科目との関連性】 「会計学入門」「財務会計論」および「管理会計論」で学習した内容を前提に講義を実施するため、これらの科目を履修済であること。（この前提科目履修は必須要件） 履修条件を確認の上、希望者は履修登録時にmynoguchi@tmu.ac.jpまでメールで連絡すること。必須要件を満たしていない学生には履修を許可しない。			

備考：「2年次専門セミナー」は、経済経営学部2年次生のみが履修できる科目です。様々な分野にわたって「2年次専門セミナー」が複数開講されますが、履修できるのは1つの科目のみです。Webによる先着順登録で、各科目毎に定員30名になります。Web登録の際、先着順メニューから登録を行ってください。定員（30名）を超えるとエラーが出て登録できなくなりますが、期間中は一度登録した学生が履修を取りやめると、その分定員に対する空きが復活し、また定員になるまで登録できます。履修登録の時期は、2020年9月18日（金）～9月30日（水）を予定しています。通常の履修登録期間と異なり、後期開始前（9月末）になります。詳細は必ず掲示を確認して下さい。

2018年度以降入学生	財務諸表論	H0227	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	財務諸表論	H227	経営B 経済B	2 単位
担当教員	浅野 敬志	後期	水曜日	3 時限
授業方針・テーマ	スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年2月、改訂版2017年5月）、伊藤レポート（経済産業省、2014年8月）、伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年10月）、コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年3月、改訂版2018年6月）が公表され、わが国のガバナンス改革が加速し、資本コストを意識した経営、投資家によるエンゲージメント（目的を持った対話）、社外取締役によるモニタリングなど、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制が構築されようとしている。ROA、ROE、資本コストは、近年の経営分析や企業価値評価で中心的に扱われる指標（KPI）である。本講義では、ROA、ROE、資本コストなどの会計指標（KPI）を企業価値の視点から再確認するとともに、これらを意識した経営やガバナンス体制が企業価値の向上や日本経済の再生にとって望ましいのかどうかを検討する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	アベノミクスの三大ガバナンス改革であるスチュワードシップ・コード、伊藤レポート（2.0を含む）、コーポレートガバナンス・コードについて企業価値の視点から理解を深めるとともに、企業外部者の論理が反映されやすい経営やガバナンス体制の是非について自ら仮説を立て、検証できるようになること。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（日本経済再生と企業価値向上） 2. 財務諸表の概要と企業開示制度 3. 会計指標（KPI）と企業価値評価 4. 企業価値評価の実践 5. 企業ガバナンス改革と企業価値 6. 伊藤レポートと企業価値 7. 中間試験 8. 現金保有と企業価値 9. 資本構成と企業価値 10. 株主還元策と企業価値 11. インセンティブと企業価値 12. エンゲージメント（企業と投資家の対話）と企業価値 13. ESG（環境、社会、ガバナンス）と企業価値 14. まとめ 15. 期末試験と解説 <p>【授業方法】 レジュメに沿って授業を進める。</p>			
授業外学習	毎回の授業後、kibaco上に次回授業のレジュメを提示する。必ず事前に予習を行い内容を把握した上で授業に望むこと。			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 講義資料は事前にkibacoにアップする。ダウンロードし、授業に臨むこと。</p> <p>【参考文献】 伊藤レポート（経済産業省、20014年8月） 伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年10月） スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年2月、改訂版2017年5月） コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年3月、改訂版2018年6月） その他、企業価値評価やガバナンスに関する書籍・論文 </p>			
成績評価方法	中間試験（30%）、期末試験（50%）、課題（20%）の成績によって評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として水曜2時限目をオフィスアワーとする。質問等があれば研究室（3-314）に来るのこと。また、メールによる質問も隨時受け付ける。 【連絡先】takasano@tmu.ac.jp			
特記事項（他の授業との関連性）	特になし。			

備考：

2018年度以降入学生	マーケティング・コミュニケーション	H0273	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	マーケティング・コミュニケーション	H273	経営B 経済B	2 単位
担当教員	水越 康介	後期	水曜日	3 時限
授業方針・テーマ	マーケティングは、企業にとって欠かすことのできない対市場活動です。この活動のためには、顧客を理解する必要があります。本授業では、消費者を中心とする顧客の行動に焦点を当て、企業と市場のコミュニケーションの理解を目指します。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本授業では、消費者行動、マーケティング・コミュニケーションの基礎を学ぶことができます。			
授業計画・内容 授業方法	1回 買うこと・所有すること・生きること 2回 知覚 3回 学習と記憶 4回 動機づけとグローバルな価値観 5回 自己 6回 パーソナリティとサイコグラフィクス 7回 態度と説得 8回 意思決定 9回 購入と処分 10回 組織・家庭における意思決定 11回 集団とソーシャルメディア 12回 社会階級とライフスタイル 13回 サブカルチャー 14回 文化 15回 試験と解説			
授業外学習	予習、復習、レポート作成			
テキスト・参考書等	西川英彦・松井剛編『1からの消費者行動 第2版』碩学舎、2020。 ※本授業では、電子書籍（VarsityWeb eBooks：生協）を利用します。書籍購入に際しては、初回オリエンテーション後にすること。 M.R.ソロモン『ソロモン 消費者行動論』丸善出版、2015。			
成績評価方法	授業課題および試験。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは、水曜日、12:00 - 13:00です。事前に授業中に提示するメールアドレスまでご一報ください			
特記事項（他の授業との関連性）	マーケティング・マネジメントを受講していることが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	経営科学概論	H0424	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	経営科学概論	H424	経営A 経済B	2 単位
担当教員	森口 聰子	後期	水曜日	3 時限
授業方針・テーマ	経営科学は、経営活動において生じる種々の問題に対する合理的な意思決定をするために科学的方法を提供する学問領域である。この講義では、経営科学の手法のうち、数理計画問題を中心学習する。数理計画問題は、ある制約のもとで目的関数を最大または最小にする問題で、目的関数と制約式がすべて線形で表現される線形計画問題、変数が整数に限定された組合せ最適化問題などがある。この講義では、応用分野の文脈に触れながら、基本的な諸概念と計算法を概説する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	数理計画問題とその解法について本質的に理解する。 経営戦略を科学的に決定することの理解を深め、実際の問題を数理モデルにモデル化し、求解する能力、オペレーションズ・リサーチの手法を身に着けることができる。 論理的思考力、総合的問題思考力、グループワークを通じてのコミュニケーション能力を育成することができる。 数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。			
授業計画・内容	【授業計画・内容】 1. オペレーションズ・リサーチの概要 2. 線形計画法のモデル化 3. 線形計画問題の幾何学的解法 4. 単体法 5. 2段階単体法 6. 双対問題と双対定理 7. 相補性の定理 8. Excelソルバーによる最適化問題の求解、グループワークによるモデル化と最適化 9. 組合せ最適化、ナップサック問題 10. 分枝限定法 11. ネットワーク計画法 12. 最短距離問題とダイクストラ法 13. 最大流問題とラベリング法 14. 数理計画問題のモデル化と実例 15. 試験・解説			
授業方法	【授業方法】 プロジェクトを用いた講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。講義の要点はWEBに資料の形で用意する。また、解答を付した演習問題をWEB上に用意し、自主的な学習の手助けとする。 グループワークによる演習も行う。			
授業外学習	WEB上に用意された資料を講義の前に目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に再度、資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。各自で自主的に、WEB上に用意された演習問題に取り組み、解答を参考にしながら理解を確実なものとする。授業の内容に関連して出題される課題に取り組み、レポートを提出する（5回程度）。			
テキスト・参考書等	【テキスト】 テキストは使用しない。WEB上に資料を用意する。 【参考書】 森雅夫、森戸晋他：『オペレーションズ・リサーチ I』、朝倉書店（1991） 福島雅夫：『数理計画入門』、朝倉書店（1996） 森雅夫、松井知己：『オペレーションズ・リサーチ』、朝倉書店（2004） 藤澤克樹、後藤順哉、安井雄一郎：『Excelで学ぶOR』、オーム社（2011）			
成績評価方法	提出する演習問題30%、グループワーク20%、筆記試験50%により評価する。 筆記試験は、期末に1回行う。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は隨時受け付ける。質問がある場合は、前日までに必ずメールで予約した上で研究室に来ること。 メールで直接質問しても構わない。メールアドレスは、授業中に周知する。			
特記事項（他の授業との関連性）	【前提知識】 基礎数学1、基礎数学2を履修済、あるいは履修中であることが望ましい。			

備考：

2018年度以降入学生	金融経済学	H0201	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	金融経済学	H201	経営B 経済B	2 単位
担当教員	田中 敬一	後期	水曜日	4 時限
授業方針・テーマ	金融資本市場の意義や各種金融取引などについて経済学の観点から考察する。また、受講生が株式ポートフォリオを仮想的に構築しそのリスクとリターンの特性について考察する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>理論的な計算や実際の株式収益率等のデータなどに基づく分析を通して、現代社会における金融取引に対するリテラシーを養う。</p> <p>株式・債券・外国為替取引の基礎的な知識を習得し、一物一価や裁定取引の概念を通して先渡取引やオプション取引を理解する。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>1 異時点間取引 2 金融・資本市場の意義 3 債券、金利の期間構造 4 外国為替レート、先渡取引 5 確率変数・期待値・分散 6 危険回避度・リスクプレミアム・保険 7 株式の価格と収益率 8~10 株式ポートフォリオと効率的フロンティア 11~13 オプション取引、リスク中立確率、仕組み債 14 資産の証券化 15まとめと試験</p> <p>内容は、一物一価のアイデアによる価格付けと不確実性下の意思決定の方法論である。 モデル計算等を通して以下の問題などを考える。そのため、ミクロ経済学1、国際金融論、ファイナンスと密接な関連がある。</p> <p>個人は所得を消費と貯蓄にどのように配分するのか 金融市场の存在意義は何か 中央銀行の金利操作によって景気刺激がなぜ可能なのか 企業の資金調達や投資における外国為替レートの変動リスクをいかに回避するか 危険回避的な行動とは何か 個人が保険に加入する目的と保険料の決定 株式ポートフォリオのリターンとリスクのトレードオフ 実際の株式収益率の平均・標準偏差の計算と株式ポートフォリオの構築 資産の証券化商品とは何か 用いる数学はほとんど四則演算であるが、一部、微分、確率・期待値の計算、ラグランジュ法による条件付き最適化問題を扱うので、統計学Iおよび基礎数学1を履修済みであることが望ましい。</p> <p>【授業形式】 講義形式</p>			
授業外学習	<p>計算問題を含む宿題を2回程度課す。</p> <p>株式ポートフォリオの構築ではデータ収集方法やExcelを用いた計算方法を授業時間中に解説するが、作業は自宅で行うこととなる。</p> <p>講義に用いるスライドで予習・復習をする以外に、新聞やインターネットで金融市场・株式市場に関する記事や情報を確認すること。</p>			
テキスト・参考書等	<p>テキストなし 参考書 小林孝雄・芹田敏夫『新・証券投資論 理論編』日本経済新聞出版社 深尾光洋『国際金融論講義』日本経済新聞出版社</p>			
成績評価方法	試験70%、宿題（2回程度）30%			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワー：月曜12:00-13:00			
特記事項（他の授業との関連性）	履修を勧める科目：ミクロ経済学1、国際金融論、ファイナンス			

備考：

2018年度以降入学生	基礎数学 2	H0414	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	基礎数学 2	H414	経営B 経済B	2 単位
担当教員	山下 英明、森口 聰子	後期	水曜日	4 時限
授業方針・テーマ	経済学・経営学を学ぶうえで必要な数学手法のうち、積分と確率を中心に学ぶ。確率・統計や不確実性を扱う際に重要な諸概念を面積や積分と関連づけて講義する。講義の合間に適時問題演習を行い、論理的思考や数学の概念の理解と実践的な計算能力の向上を図る。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済学・経営学関連の大学講義に必要な数学の概念を理解し、計算方法を習得する。特に、確率に付随する諸概念を理解することと、確率分布の期待値計算のための積分の計算に重点を置く。			
授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微分の復習（積の微分、合成関数の微分、テーラー展開） 2. 定積分、不定積分 3. 部分積分 4. 置換積分 5. 演習 1 6. 基本事象、事象、確率、条件付き確率 7. ベイズの公式、事象の独立性 8. 確率変数、分布関数、確率関数、密度関数 9. 期待値、平均、分散、共分散 10. 確率変数の独立性、積率母関数 11. ベルヌーイ分布、二項分布、ポワソン分布 12. 一様分布、正規分布 13. 正規分布、指數分布 14. 演習 2 15. まとめと試験 <p>【授業方法】 教員の説明を中心に授業を行うが、隨時演習を行う時間が設ける。</p>			
授業外学習	計算問題を含む宿題を 8 回程度課す。 予習の他、理解を深めるために講義ノート内の練習問題等で復習をすること。			
テキスト・参考書等	<p>テキスト なし 講義ノート 初回に配布する。kibacoでもダウンロード可能。 参考書 水野勝之「テキスト経済数学」中央経済社</p>			
成績評価方法	試験70%、宿題30%			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は随时受け付ける。質問がある場合は、前日までに必ずメールで予約した上で研究室に来ること。 メールで直接質問しても構わない。メールアドレスは、授業中に周知する。			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>【他の授業との関連性】 基礎数学 1（特に関数の積の微分と合成関数の微分）を履修済みであることを前提とする。 基礎数学 2 は統計学IIの内容を確率の観点から補完する。</p>			

備考：この科目は、経済経営学部、人文社会学部、法学部、都市環境学部都市政策科学科、都市教養学部経営学系、人文・社会系、法学系、都市政策コース所属の学生のみが履修できる。

2018年度以降入学生	財務情報分析論	H0447	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	財務情報分析論	H447	経営B 経済B	2 単位
担当教員	細海 昌一郎	後期	水曜日	4 時限
授業方針・テーマ	<p>財務情報分析は、貸借対照表（B/S）、損益計算書（P/L）、キャッシュフロー計算書（C/F）等の財務諸表、その他、企業が作成・収集した経営資料ないし企業経営に関する統計情報等を分析して、企業経営の現状や問題点などを把握することであり、これにより、企業の経営管理に役立てることを目的としています。</p> <p>本講義では、管理会計の応用的分野である財務情報分析について、理論的内容の講義を行ったのち、受講生の理解を深めるため、PCによる演習を取り入れます。</p>			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>企業経営の現状や問題点あるいは企業価値などについて、企業の財務データ等を用いた客観的な手法にもとづいて把握、分析する基本的能力を身に付けること。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>①本講義の概要（イントロダクション） ②財務情報分析の基礎（1）－財務情報分析の視点、基本財務分析 ③財務情報分析の基礎（2）－キャッシュフロー関連指標、株価関連指標 ④財務情報分析の基礎（3）－財務レバレッジ効果、成長性分析のバリエーション ⑤財務情報分析の基礎（4）－生産性分析（付加価値分析） ⑥財務情報分析の基礎（5）－損益分岐点分析（CVP分析の基礎） ⑦財務情報分析の基礎（6）－損益分岐点分析（原価分解） ⑧財務情報分析の応用（1）－経営戦略などの視点からの分析（PPMほか） ⑨財務情報分析の応用（2）－売上予測のための時系列分析 ⑩財務情報分析の応用（3）－倒産予測モデルⅠ（Zスコア・モデル） ⑪財務情報分析の応用（4）－倒産予測モデルⅡ（ロジット・モデル） ⑫財務情報分析の応用（5）－企業価値評価法Ⅰ（DCFモデル） ⑬財務情報分析の応用（6）－企業価値評価法Ⅱ（EVAモデル、超過利益モデル） ⑭財務情報分析の応用（7）－財務指標の総合化（レーダーチャート法、主成分分析法ほか） ⑯期末試験（まとめを含む）</p> <p>※講義の内容・順序を一部変更することがあります。 ※kibacoを利用した演習課題を取り入れます。</p>			
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の講義内容と演習課題について、よく復習しておいてください。 			
テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に、レジュメを配布して行う予定です。 参考書等は、必要に応じて指示します。 			
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 期末試験（50%）、提出物（50%）、出席等（+α）により総合的に評価します。 			
質問受付方法（オフィスアワー）	<ul style="list-style-type: none"> オフィスアワー：原則として木曜日 5 時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください。（事前に下記の連絡先に連絡をもらえれば幸いです。） 連絡先：hosomi@tmu.ac.jp 			
特記事項（他の授業との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> 財務情報分析は管理会計の応用的分野といえるので、管理会計あるいは会計学の基礎的知識を前提に講義を行ないます。 財務情報分析の実践的な理解を深めるため、講義内容について、PCを用いた演習課題を取り入れます（演習課題の内容については丁寧に説明します）。 			

備考：

2018年度以降入学生	経営組織論	H0074	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	経営組織論	H074	経営A 経済B	2 単位
担当教員	高尾 義明	後期	木曜日	1 時限
授業方針・テーマ	企業組織を主要な対象として、組織についてのマクロ理論（マクロ組織論）及びミクロ理論（ミクロ組織論）を併せて学習することを通じて、経営と組織の関係についての考察を深めていく。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	「組織の時代」である現代において、本講義で修得できる知識は、企業をはじめとした組織体のマネジメントに携わるための教養的知識といえる。具体的には、マクロ理論（マクロ組織論）を学習し、組織の構造や個人に還元できない組織の創発的側面についての理解を深めることによって、組織の有効性に影響を与える要因を分析するための知識が得られる。また、ミクロ理論（ミクロ組織論）の学習を通じて、組織のメンバーとしてどのように組織とかかわり、ふるまうべきかを内省する手がかりとなる知識を獲得できる。また、授業中に実施するグループワークを通じて、他者とのコミュニケーション能力を高めることもできる。			
授業計画・内容	01回 なぜ経営組織論について学ぶのか／ガイダンス 02回 経営組織の定義と成立条件 03回 組織の目的と貢献意欲 04回 組織構造①：コミュニケーションと調整の基本メカニズム 05回 組織構造②：組織形態と公式構造の問題 06回 組織構造③：非公式構造としての社会的ネットワーク／組織文化 07回 組織プロセス①：影響力としてのリーダーシップ 08回 組織プロセス②：変化する貢献意欲 09回 組織のダイナミズム①：事業環境と組織間関係 10回 組織のダイナミズム②：戦略と組織学習 11回 組織のダイナミズム③：イノベーションの創出 12回 組織のダイナミズム④：組織の変化と成立条件 13回 ケースを用いた総合ディスカッション① 14回 ケースを用いた総合ディスカッション②／まとめ 15回 試験及び解説			
授業方法	【授業方法】：講義が中心であるが、適宜質問を投げかけ、受講生に回答を求める。また、半数以上の授業において講義中にグループワークを実施する。			
授業外学習	毎回の授業（及びkibaco）で提示する次回の授業内容に関連した問い合わせに対する回答を準備して授業に臨むこと。また、授業の復習を行う際に受講生に解説を求めるので、授業の復習を行うこと。			
テキスト・参考書等	テキスト：高尾義明『はじめての経営組織論』（有斐閣、2019年）定価2,090円 参考書：他にも授業中に指示し、配布可能なものについてkibacoを通じて配布する。			
成績評価方法	期末試験の点数を基礎（約80%）にしながら、グループワークなどを通じた講義への積極的貢献（約20%）を加味して成績評価を行う。			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、授業期間中の毎週水曜日14：00 – 15：00をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前々日までに必ずメール（ytakao@tmu.ac.jp）で予約をした上で研究室（3号館224号室）まで来てください。			
特記事項（他の授業との関連性）	【他の科目との関連性】 経営学入門を履修済みであることを前提として授業を行う。			

備考：

2018年度以降入学生	現代日本経済史	H0208	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	現代日本経済史	H208	経営B 経済B	2 単位
担当教員	小林 延人	後期	木曜日	1 時限
授業方針・テーマ	戦間期から現在に至るまでの日本経済の歴史について講義形式で授業を行う。戦間期の日本においてはすでに高度な資本主義経済が発達していたことに留意しながら、太平洋戦争前後の時期における経済活動の連続性と断絶性を考察する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本経済の歴史について、基礎的な知識を習得するとともに、現在の社会に関心を広げる。 ・政府財政、産業、流通、金融、貿易など各分野の分析を通じて、経済現象が相互に関連していることを正しく理解する。 ・図表を見て、一つ一つの数字や波形が持つ意味を、歴史的背景と関連付けて論理的に説明する能力を身につけることができる。 			
授業計画・内容	第1回 戦間期の日本経済 第2回 政党内閣の展開と金解禁 第3回 昭和恐慌と高橋財政 第4回 1930年代における重化学工業化 第5回 日中戦争・太平洋戦争の概観 第6回 戦時経済、小テスト 第7回 敗戦と戦後改革 第8回 経済復興 第9回 高度経済成長 第10回 エネルギー革命と石油危機 第11回 安定成長、小テスト 第12回 債権国・経済大国への道 第13回 バブル崩壊と不況の長期化 第14回 リーマンショックと現代日本経済 第15回 まとめ、期末試験 (※期末試験の日程は第14回目の授業内に変更することがある)			
授業方法	【授業方法】：レジュメ、パワーポイントを併用し、各回でリアクションペーパーを配布する。			
授業外学習	各回の配布レジュメをよく復習すること。 また、各回で提示する参考文献を読むこと。			
テキスト・参考書等	テキストは使用しない。授業でレジュメを配布して講義を行う。			
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト 2回〔30%〕、期末試験〔70%〕の割合で評価する。 ・授業への参加度（リアクションペーパー）に応じて、加点を行う。 ・正当な理由がなく 4回以上授業を欠席した場合は、原則として成績評価の対象としない。 ・試験は論述問題を含み、主に講義内容の基本的理解ができているかを確認する。年代の暗記を求める問題は出題しないが、物事を論理立てて説明する能力を要求する。 			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーを原則として毎週木曜 2限に設定する。メールで事前に連絡すること。			
特記事項（他の授業との関連性）	「日本経済史概論」（後期）は日本経済史の入門的な位置付けであり、あわせて履修することが望ましい。本授業ではより発展的な内容を扱い、「日本経済史」（前期）から続く時代を対象とする。			

備考：

2018年度以降入学生	ファイナンス	H0211	経済A 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	—	—	—	—
担当教員	内山 朋規	後期	木曜日	2 時限
授業方針・テーマ		金融の仕組み、キャッシュフローの評価、投資の評価方法、企業の資金調達方法、リスクとリスクプレミアム、などを学び、ファイナンスの基礎的知識を習得する。		
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標		ファイナンスに関する基礎的な知識の習得を目標とする。特に、金融の仕組みやキャッシュフローの評価方法を学び、日常生活にも役立つ問題をファイナンスの立場から考える。また、投資の評価方法や企業の資金調達方法、リスクとリスクプレミアムの関係など、社会人として必要なファイナンスの基礎的知識を習得する。		
授業計画・内容		【授業計画・内容】 第1回：イントロダクション 第2回：金融の仕組み 金融とは、負債と株式、間接金融、証券市場、など 第3回～第6回：貨幣の時間価値とキャッシュフローの評価 キャッシュフローとは、割引債価格と利回り、割引現在価値、投資の評価(NPV法)、など 第7回：まとめ・中間試験 第8回～第11回：コーポレートファイナンス 企業の投資意思決定、資金調達の理論(MM理論)、証券の価値とレバレッジ、など 第12回～第14回：リスクとリスクプレミアム リスクとは、ボラティリティ、リスクプレミアムとは、など 第15回：期末試験と解説		
授業方法		【授業方法】 テキストに沿った講義を行う。講義ノートをkibacoにアップするので、事前にダウンロードして持参のこと。また、問題の演習とその解説も行い、理解を深める。理論が体系的なため、毎回の講義を理解して知識を積み上げる必要がある。		
授業外学習		数学のレベルは初步的であるが、苦手なものはテキストの付録でしっかり自習すること。 加えて、テキスト章末問題による復習を行うこと。また、社会においてファイナンスがどのような役割を果たしているのかを新聞報道などで確認すること。		
テキスト・参考書等		木島正明・鈴木輝好・後藤允『ファイナンス理論入門』朝倉書店、2012年。(第1章から第4章まで) 電卓、テキストを持参のこと。		
成績評価方法		中間試験と期末試験の総合評価		
質問受付方法（オフィスアワー）		設定しないため、質問やアポイント等は講義終了後またはメール(uchiyama@tmu.ac.jp)にて。		
特記事項（他の授業との関連性）		【他の授業科目との関連性】 特別な予備知識を必要としないファイナンス・金融工学の入門講座。		

備考：

2018年度以降入学生	外国書講読（英）	H0265	経済B 経営B	2 単位
2013～2017年度入学生	外国書講読（英）	H265	経営B 経済B	2 単位
担当教員	脇田 成	後期	木曜日	2 時限
授業方針・テーマ	マクロ経済変動の分析 英文論文の読解			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標				
授業計画・内容 授業方法	この授業では一步進んだマクロ経済に関する英文の論文を輪読しながら講義を行う。テキストは英語の単行本かAERやJEP等の解説論文等など最新のものを考えているので、授業開始後に指定する。多少の数式を厭わないもの、大量の英語にめげないもの、マクロ経済学に興味を持つものの受講を歓迎する。毎回出席を取り、一度でも無断欠席をしたものは単位を与えない。なおテキストはPDF等にて筆者のホームページで用意するか、あるいは購入して貰う予定。			
授業外学習	授業外学習 テキストをよく読むこと			
テキスト・参考書等	授業中に指示			
成績評価方法	授業中に指示			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限 メールでアポイントを取ること			
特記事項（他の授業との関連性）	前提科目 ミクロ経済学1&2 マクロ経済学1&2 テキストの準備の都合上、受講希望者は第1回の授業前にwakita@tmu.ac.jpまでメールすること			

備考：

2018年度以降入学生	国際経済学	H0442	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	国際経済学	H442	経営B 経済B	2 単位
担当教員	小森谷 徳純（*）	後期	木曜日	2 時限
授業方針・テーマ	この講義では国際経済学の中でも主に国際貿易を扱います。なおミクロ経済学の基本的な知識が講義内容の理解に役立ちます。 講義内容の水準は指定したテキストの内容の一段上を考えています。（なおテキストに含まれない内容は板書やレジュメ等の配布で対応します。）			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済学を用いて現実の国際経済に関する様々な問題点を考えていくためには、まず必要な基礎を身につけることから始めなければなりません。本講義の目的はその基礎を身につけることです。 主要な貿易理論の基礎を理解すること、代表的な貿易政策の効果を理解することが最大の目標です。また国際貿易に関する重要なトピックを理解しておくことも大切な目標です。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 ガイダンスおよびイントロダクション：国際経済学で学ぶこと 第2回 比較優位、リカード・モデル（1）：比較優位と分業の利益 第3回 比較優位、リカード・モデル（2）：比較優位と国際貿易 第4回 部分均衡分析（1）：貿易利益 第5回 部分均衡分析（2）：比較優位の決定要因 第6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル：生産要素賦存と比較優位、貿易利益と所得分配 第7回 産業内貿易と規模の経済：産業間貿易と産業内貿易 第8回 貿易政策（0）：関税について 第9回 貿易政策（1）：関税・輸入割当の効果 第10回 貿易政策（2）：保護貿易を擁護する主張 第11回 國際貿易のルールと貿易交渉：ガット（GATT）と世界貿易機関（WTO）の歴史、現状および制度 第12回 地域貿易協定：地域貿易協定の現状と制度、通貨統合 第13回 國際要素移動：多国籍企業と直接投資、労働の国際移動と外国人の受け入れ問題 第14回 國際収支統計と為替レート：国際収支、為替相場制度、為替レートと経常収支 第15回 國際通貨制度と日本の円：国際通貨制度の変遷、国際通貨基金（IMF）と世界銀行、為替レートと日本経済</p> <p>定期試験</p> <p>【授業方法】 講義を行います。適宜小テストを行い、授業内容の再確認と理解度の確認をしていきます。</p> <p>テキストの該当箇所および事前配布資料を講義前に読んでくるように努めて下さい。これは講義を「ゼロから教えてもらう場」ではなく「理解を高める場」にするためです。 講義後は問題演習で自らの理解を再確認するように努めて下さい。また日頃から国際貿易、直接投資や多国籍企業いうキーワードを頭において、積極的にニュースを見聞きするよう心掛けて下さい。</p> <p>【テキスト】 石川城太・菊地徹・棕寛『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013年（ISBN：978-4-641-17719-2）</p> <p>【参考書】 阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』有斐閣、2012年（ISBN：978-4-641-12480-6） 多和田眞『コンパクト国際経済学』新世社、2010年（ISBN：978-4-883-84153-0）</p>			
成績評価方法	授業中の小テスト20%、期末試験80%の割合で評価します。ただし小テストを一度も受験していない学生の成績は、原則として期末試験の成績に関わらず「不可」とします。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは授業終了後とします。その他の時間に質問・連絡等がある場合は初回配付資料にあるアドレスにメールを送ってください。			
特記事項（他の授業との関連性）	国際経済学は国際貿易論と国際金融論から構成されますので、国際金融論も併せて受講すると効果的です。			

備考：

2018年度以降入学生	2年次専門セミナー（経済学）	H0503	経済B 経営B	2単位
2013～2017年度入学生	—	—	—	—
担当教員	芝田 隆志、森 治憲、 荒戸 寛樹	後期	木曜日	2時間
授業方針・テーマ				
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済学を専門とする教員3名による2年次生を対象とした少人数の講義と演習である。講義期間を3つに分け、経済学の3つのトピックスーアイナンス（芝田）、統計学（森）、マクロ経済学（荒戸）について1名ずつの教員が各期間を担当し、選ばれたテーマに対して、深い知識と能動的に考える能力を身につける。 3・4年次の演習（ゼミ）に対するプレゼンとしての役割も担っている。			
授業計画・内容 授業方法	ファイナンス、統計学、マクロ経済学の各トピックから選ばれた1つのテーマに対する深い知識と能動的に考える力を身につけることを目標とする。 活発なディスカッション、グループによる作業、プレゼンテーションや質疑応答を通じて、さまざまなジェネリックスキル（コミュニケーションスキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）を身につけることも、もう1つの目標である。 第1回 ガイダンス（担当：芝田、森、荒戸） 第2回～第5回 ファイナンス（担当：芝田） テーマ：金融商品の理論価格と実際の取引価格を比較する 第2回：時間価値、ローンの計算、数値積分、乱数とシミュレーション 第3回：大数の法則、中心極限定理、二項モデル（1期間、多期間） 第4回：ブラック・ショールズ価格式 第5回：グループ発表 第6回～第9回 統計学（担当：森） テーマ：推測統計学における分析結果をどのように理解すればいいのか 第6回：標本調査と実験データの分析 第7回：分析結果の解釈 第8回：仮説検定と二種類の誤り 第9回：グループ発表 第10回～第14回 マクロ経済学と応用経済学（担当：荒戸） テーマ：なぜ世界には「豊かな国」と「貧しい国」があるのか～経済成長について考える～ 第10回：データでみる国際間の経済格差 第11回：生産関数とソロー・モデル 第12回：ソロー・モデルの実証 第13回：人的資本とソロー・モデル 第14回：グループ発表 第15回：まとめ 講義に加えて、ディスカッションやグループワークなどを行うので、それに対する積極的な参加が求められる。			
授業外学習	テーマに対して自分で調べたり、考えをまとめたりするための学習時間が必要である。 さらに、授業外にグループでの発表準備がある。 このため、グループメンバーで時間を合わせ、作業や学習をするなどの時間を確保する必要がある。			
テキスト・参考書等	講義中に指定する。			
成績評価方法	各担当教員が、演習の成果などから評価を行い、それを合計し成績評価とする。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問受付方法（オフィスアワー等） 芝田：月曜12:00～13:00 森：月曜4限 荒戸：水曜4限			
特記事項（他の授業との関連性）	ミクロ経済学1、マクロ経済学1、統計学I、統計学II、計量経済学1、基礎数学1、ファイナンス入門を履修していることが望ましい。 本授業では、Excel演習を取り入れるため、Excelの基本操作を各自で学習しておくこと。			

備考：「2年次専門セミナー」は、経済経営学部2年次生のみが履修できる科目です。様々な分野にわたって「2年次専門セミナー」が複数開講されますが、履修できるのは1つの科目のみです。Webによる先着順登録で、各科目毎に定員30名になります。登録ができなくなります。

Web登録の際、先着順メニューから登録を行ってください。定員（30名）を超えるとエラーが出て登録できなくなりますが、期間中は一度登録した学生が履修を取りやめると、その分定員に対する空きが復活し、また定員になるまで登録できます。

履修登録の時期は、2020年9月18日（金）～9月30日（水）を予定しています。通常の履修登録期間と異なり、後期開始前（9月末）になります。詳細は必ず掲示を確認して下さい。

2018年度以降入学生	2年次専門セミナー（経営学）	H0504	経済B 経営B	2単位
2013～2017年度入学生	—	—	—	—
担当教員	松尾 隆	後期	木曜日	2時間
授業方針・テーマ				
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標				
<p>経営学の関する専門科目や演習を受講するにあたって有用なスキルを身につけ、主体的なキャリア形成につなげる。</p> <p>基本的な能力として、論理的思考、仮説構築の方法、ディスカッションへの参加態度を身につける。また、経営学では社会調査のための情報の収集、分析が欠かせない。そこで、社会調査に必要な情報収集の方法（インタビュー、アンケート、フィールドワーク、文書情報）や分析の技術を習得する。</p> <p>本講義では、実際に社会調査を行いながら、上記の方法や技術を学んでいきます。これらの方法・技術を用いて、自立的に経営学を学んでいけるようになることが到達目標です。</p>				
授業計画・内容				
授業方法				
<p>【授業計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・調査テーマについて考える ・論理的思考 ・仮説構築 ・グループ・ディスカッション ・社会調査の方法と計画 ・文献情報の獲得と整理 ・インタビューの方法・実践・記録 ・フィールドワークの方法・実践・記録 ・アンケートによる情報の収集と分析 ・情報分析と仮説評価、理論構築 ・レポートの作成と発表 ・レポートの構成 ・文章構成 ・プレゼンテーションの仕方 <p>【授業方法】</p> <p>各回の授業は、担当教員による解説と参加者の実習からなる。実習では、その回のテーマに関するワークを個人またはグループで行う。また、授業外でワークをやってきてもらい、授業中に発表することもある。</p>				
授業外学習				
テキスト・参考書等				
成績評価方法				
質問受付方法（オフィスアワー）				
特記事項（他の授業との関連性）				
経営学に関する科目（特に3年次からの演習）。				

備考：「2年次専門セミナー」は、経済経営学部2年次生のみが履修できる科目です。様々な分野にわたって「2年次専門セミナー」が複数開講されますが、履修できるのは1つの科目のみです。Webによる先着順登録で、各科目毎に定員30名になり次第、登録ができなくなります。

Web登録の際、先着順メニューから登録を行ってください。定員（30名）を超えるとエラーが出て登録できなくなりますが、期間中は一度登録した学生が履修を取りやめると、その分定員に対する空きが復活し、また定員になるまで登録できます。

履修登録の時期は、2020年9月18日（金）～9月30日（水）を予定しています。通常の履修登録期間と異なり、後期開始前（9月末）になります。詳細は必ず掲示を確認して下さい。

2018年度以降入学生	経営数理	H0403	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経営数理	H403	経営B 経済B	2 単位
担当教員	室田 一雄	後期	木曜日	3 時限
授業方針・テーマ	線形代数は、微分積分学と並んで、あらゆる数学的手法に利用される基本的な道具であり、経営学においても、オペレーションズ・リサーチ、データ分析、ネットワーク解析などに利用される。線形代数は、現実の問題を数学的に表現するためのモデル化の道具であると同時に、解を求めるための計算手段を与える。この講義では、応用分野の文脈に触れながら、線形代数の基本的な諸概念と計算法を概説する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	線形代数の基本的な諸概念の意味を理解し、その計算法を習得する。これによって、将来、さまざまな文脈で線形代数を使う機会に出会ったときに、必要に応じて、さらに高度な内容に進むことができる。さらに、階数、固有値、正定値性などの数学の概念が、オペレーションズ・リサーチ、データ分析、ネットワーク解析などにおいてどのように役立つかを理解する。これによって、数学・数理が実際の社会と繋がっていて有用なものであるという一般的な理解と感覚を身につけることができる。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行列とその演算 2. 基本変形と掃き出し 3. 行列式 4. 連立1次方程式の解法：消去法 5. 既約階段形と階数標準形 6. 線形独立性と階数 7. 方程式の解の存在と一意性 8. 連立1次方程式の解法：反復法 9. 対称行列 10. 正定値行列 11. 固有値と固有ベクトル 12. 対称行列の対角化 13. 固有値の最大最小定理 14. 最小2乗法 15. 試験・解説 <p>【授業方法】</p> <p>板書による講義形式を基本とするが、講義の間に簡単な例題や課題を示し、学生の理解を確認しながら講義を進める。講義の要点はWEBに資料の形で用意する。また、解答を付した演習問題をWEB上に用意し、自主的な学習の手助けとする。</p>			
授業外学習	WEB上に用意された資料を講義の前に目を通してテーマを把握する（予習）。講義の直後に再度、資料を読んで講義内容を確実に理解する（復習）。各自で自主的に、WEB上に用意された演習問題に取り組み、解答を参考にしながら理解を確実なものとする。授業の内容に関連して出題される課題に取り組み、レポートを提出する（2回程度）。			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 テキストは使用しない。WEB上に講義資料を用意する。</p> <p>【主要参考書】 室田一雄、杉原正顯：『線形代数I』丸善出版（2015）</p> <p>【参考書】 皆本晃弥：『スッキリわかる線形代数』近代科学社（2011） 篠 三郎：『工科系 線形代数 [新訂版]』数理工学社（2014） 斎藤正彦：『線型代数学』東京図書（2014） 室田一雄、杉原正顯：『線形代数II』丸善出版（2013）</p>			
成績評価方法	レポート課題 40% と 筆記試験 60% により評価する。筆記試験は、期末に1回行う。			
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>【前提知識】 「基礎数学1」「基礎数学2」を履修済であることが望ましい。 「経営科学概論」を履修済、あるいは履修中であることが望ましい。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	日本経済論 2	H0426	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	日本経済論 2	H426	経営B 経済B	2 単位
担当教員	村田 啓子	後期	木曜日	3 時限
授業方針・テーマ	本講義では、基礎的なマクロ経済学の概念や分析手法を用いて、現実の日本経済の動向を理解するとともに、実施された政策や問題点についても解説することにより、一人一人の学生が、実体経済について自らの問題意識を持ちつつ主体的に考えていく能力を養うことを目指します。経済を見る上で不可欠の経済指標についても適宜解説していきます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現代日本経済の現状や問題点及びそれに関する基本データを理解し批判的に検討・分析するために有用な基礎力を身につける。			
授業計画・内容 授業方法	<p>(下記の内容は現時点で予定しているもので、これらのうち幾つかに重点を置いたり、新たな論点を取り上げることも考えています。)</p> <p>第1回 概論 第2~3回 設備投資と企業行動の変化 第4~5回 物価とデフレーション 第6~7回 金融システム 第8~9回 金融政策運営の特徴と変化 第10~11回 財政の仕組み 第12回 財政政策運営の特徴と変化 第13回 少子高齢化と社会保障 第14回 まとめ 第15回 試験</p>			
授業外学習	レジュメ、講義内容、参考書をもとに予習・復習を行いましょう。 学習が進んだら、レジュメに掲載されている練習問題を解き、講義内容を理解できているか確認しましょう。			
テキスト・参考書等	レジュメを配布するほか、参考文献は必要に応じ紹介します。内容は以下の参考書と連携している部分が多いので自習に役立ててください。 【参考書】小峰隆夫・村田啓子「最新 日本経済入門（第6版）」2020年、日本評論社			
成績評価方法	期末試験による。			
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】木18:00~19:00(事前にメールで連絡すること)			
特記事項（他の授業との関連性）	ミクロ経済学及びマクロ経済学を既に修得していることが望ましい。			

備考 :

2018年度以降入学生	マクロ経済学1	H0432	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	マクロ経済学1	H432	経営B 経済A	2 単位
担当教員	脇田 成	後期	木曜日	3 時限
授業方針・テーマ	マクロ経済学の理解修得			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	マクロ経済学の基礎			
授業計画・内容 授業方法	<p>この授業ではマクロ経済学の標準的知識について、講義を行う。新古典派マクロ経済学、ケインズ的IS-LM分析をバランスよく講義する。また現実の実体経済との関連を重視し、幾つかのトピックスを取り上げて紹介する。なおミクロ経済学との連関を重視するので、必ずミクロ経済学を履修あるいは並行履修すること。</p> <p>I マクロ経済学の課題 経済主体（家計・企業・政府）間の取引（財・サービス・貨幣）と経済成長と景気変動を中心に</p> <p>II 経済データと国民経済計算 物価変動（消費者物価指数、企業物価指数、インフレ・デフレ）と失業等の雇用・労働問題を中心に</p> <p>III 新古典派のマクロ経済体系</p> <p>IV IS-LM分析：ケインズ的なマクロ体系</p> <p>IIIとIVでは以下のトピックスを中心に扱う 金融（金融市场、証券市場、金融政策） 政府・中央銀行の役割（景気変動の調整、所得再分配、物価の安定） 財政・租税（有効需要政策、財政政策における財源の調達と配分） 社会保障制度（医療・年金等）</p>			
授業外学習	テキストをよく読むこと			
テキスト・参考書等	脇田成『マクロ経済学のナビゲーター第3版』 日本評論社			
成績評価方法	期末試験			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限 メールでアポイントを取ること			
特記事項（他の授業との関連性）	ミクロ経済学1を履修あるいは平行履修することが望ましい			

備考：

2018年度以降入学生	経済経営特別講義 (Business Cycle Theory)	H0263	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経済学コース特別講義 (Business Cycle Theory)	H263	経営C 経済B	2 単位
担当教員	高 準亨 (*)	後期	金曜日	1 時限
授業方針・テーマ	This course covers the theory and practice of macroeconomics, and provides an overview of the basic macroeconomic concepts: output, consumption, investment, net export, interest rate, money and inflation. In this semester, we focus on the short-run phenomenon.			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	The aim of the course is that students understand the basic concepts of macroeconomics and use macroeconomic theory to shed light on the real-world data and events. Students understand newspaper and magazine articles on current macroeconomic issues.			
授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Guidance 2. Introduction to Economic Fluctuations 3. The Keynesian Cross 4. IS-LM Model 5. The Great Depression 6. Short Test I 7. The Small Open Economy under Floating Exchange Rates 8. The Small Open Economy under Fixed Exchange Rates 9. The Impossible Trilemma 10. From the Short Run to the Long Run: the Mundell-Flemming Model with a Changing Price Level 11. Short Test II 12. The Large Open Economy 13. The Mother of All Models 14. Ricardian Equivalence in an Open Economy 15. Short Test III 			
授業外学習	Before class, access to the class web site and download the class materials in advance. After class, review to assure you understand the materials.			
テキスト・参考書等	N. Gregory Mankiw, Macroeconomics, 10th edition, Worth Publishers			
成績評価方法	Grades are determined 100% by Short Tests. The dates are announced in advance.			
質問受付方法（オフィスアワー）	If you have a question, feel free to contact me via e-mail.			
特記事項（他の授業との関連性）				

備考 :

2018年度以降入学生	現代アジア経済史	H0454	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	現代アジア経済史	H454	経営B 経済B	2 単位
担当教員	竹内 祐介	後期	金曜日	1 時限
授業方針・テーマ	本講義は、前期の「アジア経済史」とあわせ、現代アジア経済を理解するための一つのアプローチとして、アジア経済の「成長」の軌跡を約400年間の長いスパンの中で捉えることを狙いとする。後半部に当たる本講義は、冷戦体制を基軸とする戦後の国際経済秩序の枠組みの中で達成されたアジア経済の「成長」の構造を中心に扱う。但し、戦前期、および冷戦体制「崩壊」後の現代アジア経済との連続性を留意しつつ、各国史ではない、地域横断的な「アジア」経済史像を講義する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代アジア経済の理解、あるいはアジアの人々との交流に資する歴史知識の習得 ・1980年代以降に登場したアジア間貿易論・帝国論・グローバルヒストリーといった新しい歴史研究の潮流の把握 ・上記研究と日本経済史・中国経済史など伝統的な各国経済史研究を総合し「アジア経済史」の意義を自ら考えること 			
授業計画・内容	<p>【授業計画・内容】</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回 両大戦間期のアジア経済・概観 第3回 「大東亜共栄圏」とアジア経済 第4回 アジアにおける脱植民地化過程 第5回 戦後の国際秩序とアジアの経済成長 第6回 アジア太平洋経済圏の興隆 第7回 日本の高度経済成長 第8回 第二次交通革命 第9回 キャッチャップ型工業化論 第10回 開発主義 第11回 冷戦体制とアジア経済成長 第12回 冷戦体制の動搖と中国の経済成長 第13回 新しいアジアの分業構造 第14回 現代アジア経済論 第15回 期末試験と解説</p>			
授業方法	<p>【授業方法】 配布資料にもとづいて講義する。</p>			
授業外学習	事前に配布資料をkibacoにアップロードするので、目を通すこと。			
テキスト・参考書等	教科書は指定しない。参考書：末廣昭（2000）『キャッチャップ型工業化論』名古屋大学出版会、杉原薫（2003）『アジア太平洋経済圏の興隆』大阪大学出版会。その他、授業中に適宜紹介する。			
成績評価方法	期末試験 70% 別途課題への取り組み（＊授業中に指示する） 30%			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で研究室（3-316）まで。			
特記事項（他の授業との関連性）	前期の「アジア経済史」を履修後に受講することを強く推奨する。（前期「アジア経済史」の内容を前提として講義することを理解の上、受講すること。）			

備考：

2018年度以降入学生	経済経営特別講義 (International Macroeconomics)	H0264	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	経済学コース特別講義 (International Macroeconomics)	H264	経営C 経済B	2 単位
担当教員	高 準亨 (*)	後期	金曜日	2 時限
授業方針・テーマ	This course covers the theory and practice of macroeconomics, and provides an overview of the basic macroeconomic concepts: output, consumption, investment, net export, interest rate, money and inflation. In this semester, we focus on the long-run phenomenon.			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	The aim of the course is that students understand the basic concepts of macroeconomics and use macroeconomic theory to shed light on the real-world data and events. Students understand newspaper and magazine articles on current macroeconomic issues.			
授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Guidance 2. The Science of Macroeconomics 3. The Data of Macroeconomics 4. National Income I: The Supply Side 5. National Income II: The Demand Side 6. Review and Short Test I 7. Economic Growth 8. The Monetary System: What It Is and How It Works 9. Inflation: Its Causes, Effects, and Social Costs 10. Review and Short Test II 11. The Open Economy: Trade Balance 12. Lucas Paradox 13. The Open Economy: Real Exchange Rate 14. Balassa Samuelson Effect 15. Review and Short Test III 			
授業外学習	Before class, access to the class web site and download the class materials in advance. After class, review to assure you understand the materials.			
テキスト・参考書等	N. Gregory Mankiw, Macroeconomics, 10th edition, Worth Publishers			
成績評価方法	Grades are determined 100% by Quizzes and Short Tests. The dates are announced in advance.			
質問受付方法（オフィスアワー）	If you have a question, feel free to contact me via e-mail.			
特記事項（他の授業との関連性）				

備考 :

2018年度以降入学生	経営学コース特別講義 (ファッショントラックの現在)		H0276	経済C 経営B	2 単位		
2013~2017年度入学生	経営学コース特別講義 (ファッショントラックの現在)		H276	経営B 経済C	2 単位		
担当教員	松尾 隆	後期	金曜日	2 時限			
授業方針・テーマ	日本のファッショントラックの特徴、直面する課題、今後の発展について、経営者等の講演から理解を深める。高度化する消費社会において、感性型ビジネスの典型であるファッショントラックは、経済社会全体にとって重要な意味を持つ。特に近年では、ファッショントラックへの情報技術の適用、服飾以外の製品・サービスのファッショントラック化、ブランド化が進展している。そこで、本講義では、広い意味でのファッショントラックにかかる多様な企業から経営者等をお招きし、その現状や今後の展望をお話しいただく。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ファッショントラックに関する基本的理解、小売り・製造・ファッショントラック周辺産業等のマネジメントの特徴の理解を通じて、今後重要性を増すと考えられる感性型ビジネスの展開を幅広く分析できるようになる。						
授業計画・内容	【授業計画】 おおよそ以下の項目からなる。ただし、多忙な企業人を外部講師として招くという本講義の性質上、講義内容の詳細およびスケジュールは講義初回に説明する。 (1) ファッショントラックの特徴と課題 (2) 小売業の戦略（セレクトショップ、デパート等） (3) アパレル（服飾）・メーカーの戦略 (4) アパレル以外の企業のファッショントラック化 (5) ファッショントラックにおける情報技術の活用 (6) ファッショントラックとメディア						
授業方法	【授業方法】 基本的には講義形式となるが、担当講師によって詳細は異なる。例えば、受講生への質問の投げかけによって講義が進行するような場合もありえる。また、毎回、講師が変わることで、極力授業中にQ&Aの時間を設けるので、積極的な質問を望む。 ・事前学習として対象企業のウェブページ等から企業概要を理解したうえで、講義に参加することを求める。 ・事後学習として、講義で取り上げられた内容を発展させるような事例を調査してもらうこともある。						
授業外学習	特に用いない。必要があれば、講義中に指示する。						
テキスト・参考書等							
成績評価方法	毎回の感想文（10%）および学期末の試験（90%）による。感想文については、講義内容の理解度および講師への建設的なフィードバックになっているかどうかを評価する。学期末試験については、現在の日本のファッショントラックが抱える課題、その課題に対してどのような対策を取ろうとしているのかを理解しているかを問う。評価に当たっては、上記の課題および対策の理解度および論述の構成や論理性を重視する。						
質問受付方法（オフィスアワー）	・オフィスアワー：各回の講師に対しては、授業のQ&Aの時間中または講義後に質問されたい。講義全般については、特にオフィスアワーは設けないが、事前にメールでアポイントをとってくれれば、随時対応する。 ・連絡先：tmatsu@tmu.ac.jp						
特記事項（他の授業との関連性）	・本講義は財団法人ファッショントラック人材育成機構による寄付講義である。						

備考：

2018年度以降入学生	日本経済史概論	H0436	経済A 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	日本経済史概論	H436	経営B 経済A	2 単位
担当教員	竹内 祐介、小林 延人	後期	金曜日	2 時限
授業方針・テーマ	<p>アジアにおいて最も早く近代的経済成長を開始した日本経済を素材にしながら、歴史的 重要事項を解説します。</p> <p>歴史の流れの詳細については「日本経済史」「現代日本経済史」で扱うので、この講義 では近代から現代にいたるまでをおおよそ10年単位で区分し、各時期の重要な歴史的事 件・事象を取り上げる各論形式で進めます。重要なトピックを先に知っておくことで、 本格的に日本経済史を学び、理解する準備とします。</p>			
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本経済の理解に資する歴史知識の習得 ・経済的事象のみならず、その背景にある政治的事情も含めて、現代日本社会を歴史的 に観察する視点を養うこと ・国際交流に不可欠な、日本と世界とのかかわりについての理解を歴史的・経済的側面 から深めること 			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 * 第1回～第8回までを小林、第9回～第15回までを竹内が担当します。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 開港の意義 第3回 維新の税制改革 第4回 明治十四年の政変 第5回 産業化の光と陰 第6回 大正デモクラシーと米騒動 第7回 金解禁と昭和恐慌 第8回 中間試験と解説 第9回 ニ・二六事件 第10回 アメリカの対日占領政策 第11回 高度成長期の日本経済 第12回 ドルショックと石油危機 第13回 安定成長期の日本経済 第14回 不良債権と金融危機 第15回 期末試験と解説</p> <p>【授業方法】 プリントを配布して講義します。図表など補足的な説明はパワーポイントを用いる場合 もあります。 (竹内) 事前に資料をkibacoにアップロードするので、目を通してください。</p>			
授業外学習	<p>重要語句について説明できるようにしてください。また講義の前後にテキストの該当箇所を読み、予習・復習すること。</p>			
テキスト・参考書等	<p>教科書：武田晴人 [2009]『新版 日本経済の事件簿』日本経済評論社 (3000円+税)</p>			
成績評価方法	<p>小林担当分50%、竹内担当分50%として、それぞれで評価します。 評価方法は、以下の通りです。 【小林】中間試験により評価します。 【竹内】期末試験により評価します。</p>			
質問受付方法（オフィス アワー）	<p>【小林】原則として、毎週木曜日 2限に設定します。メールで事前に連絡してください。 【竹内】原則として、毎週水曜日 3限に設定します。前日までにメールで予約をした上 で研究室（3-316）まで来てください。</p>			
特記事項（他の授業との 関連性）	<p>この講義は、アジア経済史、現代アジア経済史、日本経済史、現代日本経済史、経営史 などの専門講義科目を受講するに当たっての基礎的な科目になります。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	経済経営特別講義 (Global Economic History)	H0460	経済B 経営B	2 単位			
2013~2017年度入学生	経済学コース特別講義 (Global Economic History)	H460	経営C 経済B	2 単位			
担当教員	岩間 俊彦	後期	金曜日	2 時限			
授業方針・テーマ		<p>【Course Aims】 This course explores the modern global economic history from c. 1500 to c. 2000. It shows the rise of West, the Industrial Revolution, industrialisation and modernization in the worlds, and so on. We will clarify the historical backgrounds of our global economy and society.</p>					
習得できる知識・能力や 授業の目的・到達目標	<p>【Course Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the following:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Recognize and recall major terms and concepts in global economic history. - Describe a process of industrialisation in Britain and other areas. - Evaluate the economic and social system with the historical contexts. 						
授業計画・内容 授業方法	<p>【Course Plan】 This course will be taught in English, and the most of the course texts will be in English. At lectures, the lecturer will often ask students questions and discussions.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Introduction 2 The Great Divergence, then and now 3 The pre-Industrial Revolution 4 The rise of the West 5 Why the Industrial Revolution was British 6 The Industrial Revolution: the condition of England 7 The Industrial Revolution: a survey 8 The Industrial Revolution: reform and democracy 9 The ascent of the rich 10 The great empires 11 The Americas 12 Africa 13 The standard model and late industrialisation 14 Big push industrialisation 15 Examination and feedback 						
授業外学習	<p>Reading the text books before the lecture; Summarizing the points of the lecture; Considering the topics at the lecture with reference books and other materials which the lecture introduced.</p>						
テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> · Texts: R.C. Allen, Very Short Introductions: Global Economic History (2011); R.C. Allen, Very Short Introductions: The Industrial Revolution (2017). · The list of reference book will be provided at kibaco. 						
成績評価方法	<p>Class participation (question cards, worksheets etc.) (40%) and Final examination (60%).</p>						
質問受付方法（オフィス アワー）	<p>Office hour will be showed at the first lecture.</p>						
特記事項（他の授業との 関連性）	<p>At the first lecture, the lecturer will show the guideline of this class (latecomer, whispering, intolerance to checking e-mail, netsurfing, making fake friends online, and doing something else).</p>						

備考 :

2018年度以降入学生	テクノロジー・マネジメント	H0233	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	テクノロジー・マネジメント	H233	経営B 経済B	2 単位
担当教員	松尾 隆	後期	金曜日	3 時限
授業方針・テーマ	技術は企業行動に大きく影響を与えています。一方で、現代社会において新たな技術の源泉は主に企業になっていますから、企業が技術体系に影響を与えています。本講義では、特に、具体的な事例をもとに、こうした企業と技術の複合的な関係を理解することを目指します。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	技術と企業行動の関係に関する知識を得て、ある技術変化が企業や社会にどのような影響を及ぼすのかを判断できるようになる。			
授業計画・内容	<p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の全体像の提示 <ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーションとは ・イノベーションと社会変化 (2) 技術は社会・企業にどのような影響を及ぼすのか <ul style="list-style-type: none"> (1) イノベーションの社会への普及 (2) イノベーションと経済性 (3) イノベーションと競争 (3) イノベーションは、どのように生み出されるのか <ul style="list-style-type: none"> (4) 線形モデルとユーザー・イノベーション (5) オープン・イノベーション (6) 技術パラダイム (4) ビジネス・エコシステムの理解 <ul style="list-style-type: none"> (7) ネットワーク外部性 (8) 製品アーキテクチャ (9) プラットフォーム (10) ビジネス・エコシステム (5) その他の話題 <ul style="list-style-type: none"> (11) 生産システム (12) 製品開発 (13) ソーシャル・イノベーション (6) 試験と解説 <ul style="list-style-type: none"> (14) 試験と解説 (15) 試験と解説 			
授業方法	<p>【授業方法】</p> <p>事前に課題文献を読んでくることを前提に、講義では事例を通じた議論を行う</p>			
授業外学習	事前配布資料を読む。講義内容に即した事例を探索する。			
テキスト・参考書等	関係する文献を配布する。			
成績評価方法	期末試験により評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：特にオフィスアワーは設けないが、事前にメールでアポイントをとってくれれば、随時対応する。 ・連絡先：tmatsuo@tmu.ac.jp 			
特記事項（他の授業との関連性）	特になし			

備考：

2018年度以降入学生	ミクロ経済学1	H0405	経済A 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	ミクロ経済学1	H405	経営A 経済A	2 単位
担当教員	飯村 卓也	後期	金曜日	3 時限
授業方針・テーマ	初級から中級レベルのミクロ経済学について講義を行い、家計や企業がどのように消費や生産活動を行い、市場ではどのように価格や資源配分が決まるのかを学びます。また、さらに進んだトピックとして市場の効率性や市場の失敗について概観し、市場の働きや政府の役割についても理解を深めます。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	消費者や生産者の行動、市場均衡について理解を深め、授業で学んだ手法（特に、図や数式）を用いてそれらを分析できるようになることが目標です。			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <p>1回 イントロダクション 2回 消費者行動：選好と効用 3回 消費者行動：予算制約、最適消費の決定 4回 消費者行動：所得の変化と需要 5回 消費者行動：価格の変化と需要 6回 消費者行動：代替効果と所得効果 7回 生産者行動：生産技術 8回 生産者行動：利潤最大化、費用最小化 9回 生産者行動：費用関数 10回 生産者行動：供給関数の導出 11回 市場均衡：市場需要と市場供給、与件の変化 12回 市場均衡：均衡への調整過程、一般均衡分析 13回 市場均衡：一般均衡分析 14回 さらに進んだトピック：市場の効率性、市場の失敗（独占・寡占、外部性、公共財、情報の非対称性） 15回 試験と解説</p> <p>【授業方法】 講義を中心に授業を行います。</p> <p>【授業外学習】 講義内容の復習を行い、テキストの練習問題や宿題に取り組むこと。</p> <p>授業外学習 毎回プリントを配ります。kibacoからもダウンロードできますので、予習と復習に活用してください。</p> <p>テキスト・参考書等 テキスト：塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』新世社、 2010年</p> <p>成績評価方法 期末試験（90%）と宿題（10%）により評価します。</p> <p>質問受付方法（オフィスアワー） オフィスアワーを毎週金曜 4限の時間帯に設定しています。質問のある方はご自由にどうぞ。</p> <p>特記事項（他の授業との関連性） 「入門ミクロ経済学」と「基礎数学1」（微分や最適化問題に関する数学）の知識があることが望ましいです。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	競争戦略論	H0015	経済B 経営B	2 単位
2013~2017年度入学生	競争戦略論	H015	経営B 経済B	2 単位
担当教員	姜 理恵（*）	後期	金曜日	4 時限
授業方針・テーマ 習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>本講義では実践の場で「使える戦略論」の知識取得を目指します。よって、各回「理論と実務（事例）」を結び付けながら講義を進めます。</p> <p>本講義の到達目標は以下の3つです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 企業が戦略策定するうえで必要な概念フレームワークを理解し、その活用方法についての知識を深める。 企業の成長段階に応じて取るべき戦略の違いを理解し、実践の場における応用力を身につける。 新聞・ニュース等で配信される企業活動がどのような戦略に基づくものなのか分析・理解し、更に、自分ならどのような戦略をとるか議論できるようにする。 			
授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション－経営戦略の基本 成長戦略①－成長ペクトル 成長戦略②－多角化と製品ポートフォリオ・マネジメント 成長戦略③－成長戦略の展開【グローバル戦略】 成長戦略④－成長戦略の展開【オープン・イノベーション戦略】 成長戦略⑤－成長戦略の展開【企業間関係の戦略】 競争戦略①－業界の構造分析 競争戦略②－競争の基本戦略 競争戦略③－バリューチェーン分析 競争戦略④－新たな展開【資源ベース論】 競争戦略⑤－新たな展開【ダイナミック・ケイパビリティ論】 企業の成長段階に応じた戦略を考える－スタートアップ・ベンチャー企業のケース 企業の成長段階に応じた戦略を考える－大企業のケース 地域企業の戦略を考える－中小企業のケース 期末テスト（最終レポート提出と成果発表） 			
授業外学習	授業中に適宜指示します。			
テキスト・参考書等	<p>パワーポイント資料を各回配布します。</p> <p>参考書①：『D.J. ティース ダイナミック・ケイパビリティの企業理論』 D.J. ティース（著）菊澤研宗・橋本倫明・姜理恵（訳）中央経済社、2019年</p> <p>参考書②：『ダイナミック・ケイパビリティの戦略経営論』菊澤研宗編著（姜理恵第5章執筆分担）中央経済社、2018年</p> <p>参考書③：『経営戦略入門』井上善海・大杉奉代・森宗一、中央経済社、2015年</p> <p>その他参考書は講義中に適宜指示します。</p>			
成績評価方法	試験結果（最終レポート）及び出席を含む講義への貢献度（議論への積極的な参加度）を総合的に評価します。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は講義終了後もしくはメールにて随時受け付けます。			
特記事項（他の授業との関連性）	「経営戦略論」「財務戦略論」「ビジネスイノベーション」との関連性を意識しながら受講して下さい。			

備考：

2018年度以降入学生	財務会計論	H0047	経済B 経営A	2 単位
2013~2017年度入学生	財務会計論	H047	経営A 経済B	2 単位
担当教員	野口 昌良	後期	金曜日	4 時限
授業方針・テーマ	組織が公表する財務書類上の会計言語はビジネスの基本言語であり、その運用能力は現代社会において求められる常識的なスキルとして広く認知されている。会計言語を通じたメッセージは「財務諸表」と総称されるコミュニケーションツールを通じて伝達される。会計メッセージの送り手と受け手との効果的なコミュニケーションを確保するためには、両者が同一のコード（言語規約）を有していなければならない。会計メッセージに関する言語活動、したがって財務諸表の作成活動は「会計基準」によって記号化される。この講義では、会計基準に関する基礎的知識の修得を通じて、会計言語の記号化過程を理解することを目標とする。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 財務諸表の機能と構造に関する総合的知識を修得することができる（専門知識の修得を通じた総合的問題思考力の養成）。 2. 会計基準を通じた会計メッセージの記号化過程と論理構造に関する知識を修得することができる（専門知識の修得を通じた論理的思考力の養成）。 			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 棚卸資産（移動平均法・総平均法と低価基準） 3. 固定資産（200%定率法） 4. 固定資産（減損会計） 5. 固定資産（ファイナンス・リース） 6. 無形資産（ソフトウェアとのれん） 7. 外貨建取引（外貨換算） 8. 中間試験 9. 金融商品（償却原価法と貸倒引当金） 10. 金融商品（有価証券の評価基準） 11. 貸借対照表（資産の分類） 12. 貸借対照表（純資産の構成） 13. 損益計算書（段階別損益計算） 14. 包括利益計算書（包括利益） 15. 試験と解説 <p>【授業方法】</p> <p>講義を中心とした授業を実施するが、下記【授業外学習】に記載のとおり、適宜（5～6回程度）ミニテストあるいはホームワーク（一部グループワークの形式を取り入れる予定）を実施する予定である。これによって、学生の理解度を確認しながら、目標到達に必要な知識の修得に努める。授業内の講義は、学修項目に対応した事例分析を行った後、関連する概念について説明し、その定着をはかるために演習問題を解く、というかたちで展開する。期央に中間試験を実施する。</p>			
授業外学習	<p>【授業外学習】</p> <p>e-learningシステムkibacoを通じてミニテストあるいはホームワークを実施する。説明した概念や計算方法に関する出題が中心となる。ミニテストあるいはホームワークは、授業計画で示された各項目に関する個別的な（総合問題とは異なる）計算・記述問題とする予定である。</p>			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 教科書は指定しないが、e-learningシステムkibacoを通じて講義資料を配布するので、事前に学習しておくこと。</p> <p>【参考書等】 桜井久勝『財務会計講義』（中央経済社）</p>			
成績評価方法	<p>基本的に定期試験のスコアに準拠して評価するが、適宜実施するミニテストあるいはホームワークのスコアも加算する。</p> <p>評価のウェイトは定期試験のスコアを70%、ミニテストおよびホームワークのスコアを30%とする予定である。</p> <p>定期試験は、到達目標に照らして、財務諸表と会計基準に関する知識を通じて、財務諸表の機能と構造に関する知識を修得できているか否かを確認するために実施する。具体的には、財務諸表の作成に必要な諸概念について説明を求める記述問題と、財務諸表の作成に必要な情報を収集・分析・加工することを求める総合計算問題が中心となる。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>【オフィスアワー】 水曜日の4時限目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>			
特記事項（他の授業との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 「会計学入門」で学習した内容を前提に講義を実施するため、「会計学入門」を履修済であること。</p>			

備考：

2018年度以降入学生	2年次専門セミナー（経済史）	H0505	経済B 経営B	2単位			
2013～2017年度入学生	—	—	—	—			
担当教員	高見 典和	後期	金曜日	4 時限			
授業方針・テーマ		経済史・経済学史分野の文献を輪読しながら、レポートの作成を指導します。本演習では、歴史と経済学の関係について考えます。つまり、経済学はどのように現実の出来事の説明に役立つか、あるいは過去の出来事がどのように経済学の形成につながったかについて議論します。					
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標		過去の経済現象を詳細に論じた文献を読解し、その内容を自分の言葉で表現し直すことによって、経済理論と現実社会の双方向の関係性について柔軟な理解を得ることができます。					
授業計画・内容 授業方法		<p>*受講生の数によって、授業の進め方が変わる可能性があります。 高度成長や世界恐慌のようないくつかのテーマに沿って文献を指定し、輪読します。 授業の最後にレポート課題を設定し、そのレビューをします。</p> <p>1 オリエンテーション 2-4 文献1の輪読 5 レポート作成に関する指導 6-8 文献2の読解、レポートのレビュー 9-11 文献3の読解、レポートのレビュー 12-14 文献4の読解、レポートのレビュー 15 まとめ</p>					
授業外学習	テキストの読解、発表の準備、レポートの作成						
テキスト・参考書等	適宜、輪読する文献を指定します。						
成績評価方法	授業への貢献60%、レポート40%						
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。						
特記事項（他の授業との関連性）	本授業で扱った内容をさらに深めて考えていきたいという人は、3年次に西洋経済史・日本経済史・アジア経済史・経済学説史のゼミに進んでいくことをお勧めします。						

備考：「2年次専門セミナー」は、経済経営学部2年次生のみが履修できる科目です。様々な分野にわたって「2年次専門セミナー」が複数開講されますが、履修できるのは1つの科目のみです。Webによる先着順登録で、各科目毎に定員30名になり次第、登録ができなくなります。

Web登録の際、先着順メニューから登録を行ってください。定員(30名)を超えるとエラーが出て登録できなくなりますが、期間中は一度登録した学生が履修を取りやめると、その分定員に対する空きが復活し、また定員になるまで登録できます。

履修登録の時期は、2020年9月18日（金）～9月30日（水）を予定しています。通常の履修登録期間と異なり、後期開始前（9月末）になります。詳細は必ず掲示を確認して下さい。

2018年度以降入学生	経済経営特別講義 (Advanced Financial Accounting)		H0469	経済B 経営B	2 単位		
2013~2017年度入学生	経営学コース特別講義 (Advanced Financial Accounting)		H469	経営B 経済C	2 単位		
担当教員	グスタボ タナカ (*)	冬季集中	※	※			
授業方針・テーマ	<p>With the growing business complexity, it has become essential that everyone who aspires to a position of responsibility should have some knowledge of the fundamentals and principles of accounting. This course aims at presenting the basic concepts and principles underlying the preparation and use of financial statements. This course has two parts. In the first one, this course aims to provide a broad insight into the current accounting standards and, while in the second one, an integral analysis of the financial statements of Japanese corporations will be reviewed. Students will analyze financial statements of Japanese and foreign companies from different perspectives (investors, creditors and managers)</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. The student would also be able to reinforce her/his accounting knowledge. 2. The student would also be able to know how to use and analyze overall business information systematically. 						
授業計画・内容 授業方法	<p>Session 1: Introduction Session 2: Accounting System and Conceptual Framework Sessions 3 - 4: Review of Basic Accounting concepts Session 5: Statement of Financial Position (Balance Sheet) and Notes to the Financial Statements. Session 6: The Income Statement – Comprehensive Income - Statement of Stockholders' Equity - Statement of Cash Flows. Session 7: Analysis of Financial Statements: Sources of Information Session 8: Objectives of analysis for diverse stakeholders (investors, managers, creditors, etc.) - A Guide to Earnings and Financial Reporting Quality Sessions 9 - 10: Analysis of Financial Statements: New approach to analyze Balance Sheet and Income Statement Session 11: Analysis of Financial Statements: Cash Flow Statement Analysis Sessions 12 – 13: Cases' presentations Session s14 – 15: Final Projects' presentations</p>						
授業外学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. Read all the materials before class 						
テキスト・参考書等	Palepu, K., Healy, P. and Peek, E. (2019). Business Analysis and Valuation: IFRS Edition, 5 th Edition Weygandt, P., Kimmel, P. and Kieso, D. (2018). Financial Accounting with International Financial Reporting Standards, 4 th Edition. John Wiley and Sons Incorporation						
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. Case submission and presentation: 35% 2. Contributions to the class including class discussions, participation: 15% 3. Final Projects' presentations: 50% 						
質問受付方法（オフィスアワー）	By appointment only						
特記事項（他の授業との関連性）	<ol style="list-style-type: none"> 1. Inform me in advance by email if you fail to attend the class. Only valid reasons will be taken into consideration. 2. Turn off your mobile phones and any other audio or video devices that may detract class attention. 3. Do not send or read text messages during class. In case of emergency, go outside to make calls taking permission from the instructor. 4. All the students are expected to uphold a high standard of professional work ethic. Cases of plagiarism will result in a failing grade for that course 						

備考：※冬季集中授業の日程・教室は掲示で周知する。

※冬季集中授業は後期履修申請期間中にWeb履修申請すること。

2018年度以降入学生	演習（田中）	※	経済B 経営B	各2単位
2013~2017年度入学生	演習（田中）	※	経営B 経済B	各2単位
担当教員	田中 敬一	前期・後期	月曜日	3時間・4時間
授業方針・テーマ	金融商品の仕組みを中心としたファイナンス全般の知識を得ること、オプション価格の導出などファイナンスに必要な数学を学ぶこと、論理的な思考力を養うことを目的として輪読・講義・演習を行う。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>確率過程に関するテキストの輪読を通して、数学・確率の考え方を習得し、論理的な思考力を養う</p> <p>プログラミングによる各種の計算により理論的な概念を数値として確認する。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>金融商品の仕組みを中心としたファイナンス全般の知識を得ることと、論理的な思考力を養うことを目的として輪読・演習を行う。ファイナンスの勉学に不可避な不確実性下の意思決定を確率論を用いて考える。したがって数学に関心を持っていることが参加要件である。</p> <p>下記のいずれかのテキストに基づいて輪読・講義を行う。(2018年度はBを用いた)</p> <p>演習の時間帯以外にも学生のみのサブゼミの開催を推奨する。</p> <p>輪読を基本とするが、難しい部分については教員が基礎から説明をする。不明な点については時間をかけて積極的な質問や議論をするなど、数学を楽しむ気分を味わってほしい。ただし予習・復習を通して体系的に理解するよう努力することが求められる。</p> <p>更に、仮想的な証券ポートフォリオの構築など金融商品・証券について考える機会を設ける。</p> <p>4年生は卒業論文を執筆する。</p> <p>[授業方法]演習形式を中心とするが、必要に応じて講義形式を取ることもある。</p>			
授業外学習	発表準備と問題演習への解答作成が必要となる。			
テキスト・参考書等	<p>A) 津野義道 ファイナンスの数理入門 共立出版</p> <p>B) 大村敬一 ファイナンス論 有斐閣</p> <p>C) 松原望 入門確率過程 東京図書</p> <p>D) 木島正明・田中敬一 資産の価格付けと測度変換 朝倉書店</p> <p>E) 平岡和幸・堀玄 プログラミングのための確率統計 オーム社</p>			
成績評価方法	討論への参加や課題への対応など総合的に評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワー：月曜12:00-13:00			
特記事項（他の授業科目との関連性）				

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（山下）	※	経済B 経営B	各2単位
2013～2017年度入学生	演習（山下）	※	経営B 経済B	各2単位
担当教員	山下 英明	前期・後期	月曜日	4時間・5時間
授業方針・テーマ	① 経営科学に関するテキストや論文を理解し、発表する。基礎的な内容からはじめ、実際のシステムに適用した事例も学習する。個人で発表する機会と、グループで協力して発表する機会を設ける。 ② 各自が考えた問題に対して、コンピュータを用いて経営科学の手法を適用し、結果について議論する（必要に応じてプログラム言語も習得する）。 ③ ②のうち特に興味のある問題について掘り下げ、卒業論文を作成する（必須）。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	1. 経営戦略等に対して、科学的思考に基づいた意思決定能力を養う。 2. コンピュータによる最適化、シミュレーション等の経営科学の技術を身につける。 3. コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力、総合的問題思考力、能動的学習姿勢を育成する。			
授業計画・内容 授業方法	【授業計画・内容】 経営科学は、種々の問題に対する合理的な意思決定をするための科学的方法を提供する学問である。 2020年度は、主に以下の手法を学習する。 ①システム・シミュレーション 偶発的な現象が生じるシステムをモデル化し、数値実験によってシステムの挙動を解析する手法を、モンテカルロ・シミュレーションという。この演習では、待ち行列システムの設計や最適停止問題についてExcelマクロやプログラム言語Pythonを用いてシミュレーションを行い、システムのモデル化、シミュレーションの実行方法、システムの最適化手法を理解する。 ②数理計画法 輸送問題、割り当て問題、スケジューリング問題、施設配置問題など現実に現れる様々な問題が数理計画問題として定式化できる。この演習では、定式化とアルゴリズムに重点をおき学習し、Excelのソルバーやpythonのライブラリを用いて、数理計画問題のモデル化および最適解の求解、政策議論を行う。 ③その他 AHP(階層化意思決定法)、DEA(包絡分析法)、機械学習など 【授業方法】 授業前に経営科学に関するテキストを予習し、授業は学生からの質問に答える形式で進める（反転授業）。 グループ学習として、経営科学の手法を実際の問題に適用した事例研究論文を理解し、授業で発表する。 実際の問題に経営科学の手法を適用するために、プログラム言語（Excelマクロ、python等）を習得する。			
授業外学習	質問や発表ができるように、テキスト・論文の予習を課す。 プログラムの課題等を課す。			
テキスト・参考書等	授業時間中に指示する			
成績評価方法	授業中の発表・質疑応答、コンピュータ演習の課題によって、意思決定能力、経営科学の技術、コミュニケーション能力、情報活用能力、論理的思考力、総合的問題思考力、能動的学習姿勢を総合的に評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は隨時受け付ける。質問がある場合は、前日までに必ずメールで予約した上で研究室（3-413）に来ること。メールで直接質問しても構わない。メールアドレスは、授業中に周知する。			
特記事項（他の授業科目との関連性）	経営科学概論および経営科学1を履修していない者は、履修すること。			

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（高橋）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（高橋）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	高橋 勅徳	前期・後期	月曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	<p>この講義では、主としてベンチャー・ビジネスを対象に、経営組織論・経営戦略論の知見に基づいた分析を行っていく。このために、①ベンチャー・ビジネスに関する古典的研究から最新の研究に至るまでの、必読文献の輪読を実施するだけでなく、②具体的なベンチャー企業を対象とした事例分析を行っていく。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>この講義の到達目標は、ベンチャー・ビジネスについて、先端的な研究成果に基づいた、ロジカルな分析能力を身につけることにある。それゆえ、「ベンチャー・ビジネス成功の秘訣」のような、経営ノウハウ的な知識を求めている学生の受講はご遠慮いただきたい。本演習に求められるのは、「この会社は何故、上手くいっているのか?」、「何故、このようなサービスを提供する会社が出てきたのだろうか?」といった問題意識の下で、データに基づいて「考える」姿勢である。新製品・新サービスが現れたとき、とりあえず手にとって見てみる、という学生に参加していただきたい。あえて、特に講義を通じて得られる知識・能力を上げれば、以下の通りとなるが、これらの知識・能力を身につけられるか否かは、学生諸君の努力次第である。</p> <p>①ベンチャー・ビジネスを理解するに当たって必要な、企業家研究の理論的系譜。 ②ベンチャー・ビジネスに求められる、事業機会の認知や資源動員先の探索に関するロジカルな考え方。 ③卒業論文の作成プロセスを通じて得られる、プレゼンテーションおよび対話能力。</p>						
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業内容】 具体的な講義については、①ベンチャー・ビジネスに関する必読文献の輪読、および②卒業論文の作成に向けた調査および分析である。前期は文献の輪読を中心、各受講生が卒業論文の対象として取り上げる企業を探索し、後期からは、卒業論文の作成に向けた調査と分析を行っていく。各ゼミ生は、一ヶ月に一回程度の報告が義務となる。</p> <p>【授業計画】 第一回 ゼミガイダンス 第二回 3年生による卒業論文テーマ報告 第四回～第八回 4年生による研究進捗報告 第九回～第十五回 3年生による研究進捗報告 前期15回</p> <p>夏休み</p> <p>第十四回～第十八回 4年生による研究進捗報告 第十九回～第二十三回 3年生による研究進捗報告 第二十四回～第三十回 4年生による研究進捗報告 後期15回</p> <p>【授業方法】 卒業論文の作成に向けた進捗報告および、ディスカッションを中心に行う。</p>						
授業外学習	<p>受講生は、自宅学習として月二回の報告に備えた報告資料の作成を自宅で行うこと。 また、報告後は他ゼミ生および教員より得られたコメントをもとに、次回報告に向けた報告資料の作成を行うこと。</p>						
テキスト・参考書等	<p>とくに指定しない。卒業論文の作成に必要な資料などについては、その都度指定する。</p>						
成績評価方法	<p>卒業論文の作成（3年生は中間レポートの作成）を、単位取得の前提条件とする。具体的な成績評価については、出席およびディスカッションへの参加を踏まえた上での総合評価とする。</p>						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>メール（misanori@tmu.ac.jp）にて受付を行い、日程調整を行う形で適宜、面会・相談を受け付ける。</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 経営学入門、ビジネスイノベーションを受講済みであることが望ましい。</p>						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経営経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（飯星）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（飯星）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	飯星 博邦	前期・後期	月曜日	4時限・5時限			
授業方針・テーマ	令和2年度の飯星ゼミでは、『データサイエンスとPythonプログラミング』をテーマとします。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本演習では、Pythonによる構造プログラミングの習得と、これを使った機械学習・データ分析の学習に時間を充てていきます。ネットによる学習も容易になってきているので、独学も可能ですが、演習を通して勉強していきたいと思います。						
授業計画・内容 授業方法	<p>近年、Pythonは「機械学習」ならびに「データサイエンス」に用いるプログラミング言語として、中心的かつ枢要的な地位を築きつつあります。さて、機械学習やデータサイエンスは何を意味するのかは、Googleで検索してみてください。</p> <p>演習の中心は、各自が持参したラップトップPCによるプログラミングとデータ分析です。この一連の作業は学生によって向き不向きがあります。興味・関心がある学生にとってはすごく楽しく感じる一方で、興味が沸かない学生には苦痛しか感じません。したがいまして、自分がどちらに属するかどうか判断して演習の申請をしてください</p> <p>【授業方法】</p> <p>毎回の演習では、テキストの輪読とエクセルデータを用いたパソコン実習の2つの形式を並行して行う。輪読では、演習参加者による報告と議論が中心になります。またパソコン実習では、実際の経済データを用いて応用法や応用例を学習する。</p>						
授業外学習	毎回の演習前に、参加者は、報告予定のテキストの予習や報告資料の作成が義務付けられます。また、実習用のエクセルデータをkibaco上に提示します。また、課題については、kibacoから1～2回程度を出題します。この課題は、演習中に学習した計量の手法を用いて、実習問題としてエクセルを使って推定や検定を行ってもらう形式です。						
テキスト・参考書等	中室牧子著『教育の経済学』、中室・津川著『原因と結果の経済学』ダイヤモンド社、伊藤公一郎著『データ分析の力』光文社新書、『Rによるデータマイニング入門』など						
成績評価方法	演習の出席、報告、課題提出による。						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>【質問受付方法】</p> <p>オフィスアワーについて、週に1回を予定している。詳しい日時と場所については講義開始時に「kibaco」などで公開します。また、オフィスアワーの時間があわない人はその都度、質問を講師宛にメールしてもらえば、オフィスアワー以外でも質問に答えます。</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）							

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（芝田）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（芝田）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	芝田 隆志	前期・後期	月曜日	5 時限・6 時限			
授業方針・テーマ	本演習では、ファイナンス分野のテキスト用いて、企業経済学やコーポレートファイナンスについて学習する。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本演習の目的は、企業経済学、コーポレートファイナンスを題材として、経済学やファイナンス理論の考え方について学ぶことにある。						
授業計画・内容 授業方法	本演習では、受講者が持ち回りでテキスト内容を解説し参加者全員で議論する。また、EXCELあるいはMatlabを用いたデータ分析や数値解析方法についても学習する。 第1～15回 受講者が持ち回りでテキスト内容を解説し参加者全員で議論する。						
授業外学習	テキストを事前に読んでレジメを作成すること。						
テキスト・参考書等	参加者と相談の上で決定する						
成績評価方法	平常点						
質問受付方法（オフィスアワー）	月曜12：00～13：00（事前にメールにてアポイントをとること）						
特記事項（他の授業科目との関連性）							

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（高見）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（高見）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	高見 典和	前期・後期	月曜日	5時限・6時限			
授業方針・テーマ	<p>主要な経済社会思想の古典を読解し、議論します。また、副次的な活動として、フィナンシャル・タイムズなどの海外新聞の記事を読みます。これらによって、日常言語で表現豊かに書かれた、政治・経済・社会にかんする議論に触れる機会を提供します。（専門分野の知識・理解、論理的思考力）</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>現代および過去の経済や社会に対する直感的で柔軟な理解を獲得することを目指します。（専門分野の知識・理解、論理的思考力）</p>						
授業計画・内容 授業方法	<p>先行知識がなくても読解の容易な経済社会思想の古典を輪読することを計画しています。例えば、以下のような文献を想定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アダム・スミス『道徳感情論』 ・デイビッド・ヒューム『政治論集』 ・アレクシ・ド・トクヴィル『アメリカのデモクラシー』 <p>さらに副次的活動として、演習の終わりに、あらかじめ指定した英文記事を要約し、報告してもらいます。</p>						
授業外学習	毎回の演習での報告準備						
テキスト・参考書等	適宜、教員から指定						
成績評価方法	演習への貢献（専門分野の知識・理解、論理的思考力）						
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週木曜2限をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前日17時までに必ずメールで予約をした上で研究室（3号館419室）まで来てください。						
特記事項（他の授業科目との関連性）							

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（松田）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（松田）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	松田 千恵子	前期・後期	火曜日	4 時限			
授業方針・テーマ	日本企業を巡る環境は大きく変化し、海外展開も見据えた成長戦略の策定や新規事業の育成、事業内容の再構築などが喫緊の課題となってきています。戦略策定の知識はもちろんのこと、M&A・アライアンスマネジメントや企業分析、資本市場への対応など、幅広い知識や経験が求められるようになってきています。こうした問題意識に基づき、理論的基礎と実践的知識をバランスよく採り入れた演習を行っていきます。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>以下の三点の目標を達成できるように進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ロジカルシンキング＆ライティングの知識を身に付けたうえで、経営戦略や財務戦略の知識を活用し、企業に関する総合的な評価、提言ができるようになること。 ② 新規事業の創造や事業戦略の立案にあたっての考え方を身に付け、必要なビジネスプランニングができるようになること。 ③ 財務分析などの知識を活用し、企業の将来像を表すモデリングができるようになること。また、その内容を的確に説明できること。 						
授業計画・内容 授業方法	<p>前期においては、有名企業の経営戦略をじっくり分析し、その特性を明らかにすることを重視します。</p> <p>後期においては、新規事業を創造・立案し、財務モデリングも含めたビジネスプランニングを完成させることを重視します。</p> <p>授業方法は、主としてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションと質疑応答を軸として進めます。</p> <p>実際の企業を訪問、見学し、事業戦略を議論して新たな提言を行うことや、経営層や有識者、専門家などのゲストの話を聞きディスカッションする機会も設ける予定です。</p>						
授業外学習	<p>グループワークが多いので、期日までに授業外での時間をどう使うかも含めたプロジェクトマネジメントを上手にこなせるようになることも目標のひとつです。</p> <p>また、授業外学習として、志望者によるチームを結成し、外部のコンクールに出場して他大学の学生と企業評価の腕を競います。</p>						
テキスト・参考書等	演習時に適宜指示します。						
成績評価方法	演習への出席や発表内容など、毎回の活動状況に基づき総合的に評価します。						
質問受付方法（オフィスアワー）	演習時間及びその前後に受け付けます。その他の時間についても、メールで事前にアポイントメントを取って頂ければ面談を受け付けます。						
特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>経営戦略論、競争戦略論、財務戦略論のいずれかを履修していることが望ましいです。</p> <p>質問や連絡がある場合には、cmatsuda@tmu.ac.jpまでいつでもメールしてください。</p> <p>本演習は、金融機関等の実務経験、及び戦略コンサルファームでの戦略立案・実行経験等を持つ教員による演習科目です。</p>						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（飯村）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（飯村）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	飯村 卓也	前期・後期	火曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	ミクロ経済学とその応用に関連したテキストを輪読し、ミクロ経済学の理論や応用について理解を深めます。4年次生はまた、卒業論文の作成を目標にします。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	学部3・4年生レベルのミクロ経済理論に精通することと、その応用に必要となる様々な分析手法を身に着けることが目標です。						
授業計画・内容 授業方法	最初の時間にテキストを決め、3年次生には毎週順番に、レジュメを作成・報告してもらいます。4年次生には各自の興味に沿ったテーマで研究を進めてもらい、こちらも、時々報告してもらいます。テキストは、標準的な教科書のほか、産業組織論やゲーム理論の教科書・専門書から選びます。						
授業外学習	テキストを事前に読む予習と、課題を行う復習を行ってください。						
テキスト・参考書等	隔年でミクロ経済学とゲーム理論のテキストを素材にしています。						
成績評価方法	発表などの活動状況から総合的に評価します。						
質問受付方法（オフィスアワー）	毎週金曜4限の時間帯をオフィスアワーとします。						
特記事項（他の授業科目との関連性）	ミクロ経済学1・2が履修済みであることを前提とします。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（長瀬）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（長瀬）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	長瀬 勝彦	前期・後期	火曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	人間の意思決定プロセスや意思決定のバイアスおよびヒューリスティックについて、行動意思決定論のアプローチにより研究する。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	①研究書や論文を深く批判的に読み込むこと、②学術上の問題について論理的に議論すること、③心理実験を計画し、実行し、結果を分析し、考察すること、④学術論文を執筆することを通じて、人間の意思決定に関する深い知識と洞察力、論理的思考力、表現力、および実証主義の精神を培う。						
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 文献講読と実験を両輪として進める。</p> <p>【授業方法】 文献講読では事前にログを作成して授業で提出し、ディスカッションをおこなう。実験は個人またはグループで計画、実行し、考察を加えて報告書を作成する。</p>						
授業外学習	原則として毎回の授業に事前課題が設定される。グループ実験の場合は授業時間外のミーティング等も必要となる。必要と興味に応じて参考文献を読むことが推奨される。						
テキスト・参考書等	隨時指示する。						
成績評価方法	ログやディスカッション、実験計画や実験結果の分析などの平常点で評価する。期末試験はおこなわない。						
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として火曜6限をオフィスアワーに設定する。ただしメールもしくは授業前後の直接の申し出による予約制とする。メールでの質問も受け付ける。 【連絡先】 nagase@tmu.ac.jp						
特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 意思決定論を履修済みであることが望ましい。未履修の場合は必ず3年次に履修すること。4年生は卒業論文の提出が義務づけられている。</p>						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（中山）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（中山）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	中山 厚穂	前期・後期	火曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	本演習では、マーケティング・サイエンスと消費者行動の関係性についての理解を深めるとともに、企業でのマーケティング活動のための実践的なアプローチを学ぶ。そして、市場におけるマーケティング現象を理解するための代表的なモデルと、マーケティング意思決定に利用される方法論について学び、効果的な意思決定を行うための方法を身につける。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	演習では、文献輪読、グループによる課題研究、マーケティングデータの分析実習などを行う予定である。これらを通じて、マーケティング・サイエンスに関する知識を獲得するとともに、課題解決に必要な数理モデルの概念、活用方法を身につけることを目標とする。また、グループワークや実習などを通して、論理的思考、プレゼンテーションやディスカッションの方法、統計的データ分析法などの能力の養成を目指す。						
授業計画・内容 授業方法	文献輪読、グループによる課題研究、マーケティングデータの分析実習などを行う。そして、各自で研究・調査テーマを設定してその成果を発表する。						
授業外学習	輪読のための準備やグループ課題、実習課題を、適宜、自宅学習の課題として設定する予定である。 必要に応じてサブゼミを企画したり、他ゼミや他大学とのインターンゼミを実施したりする予定である。 授業時間中に相談の上指示する。						
テキスト・参考書等	照井伸彦・佐藤忠彦「現代マーケティング・リサーチ - 市場を読み解くデータ分析」有斐閣、2013。						
成績評価方法	授業への出席、授業中の発表・質疑応答、課題の提出状況で評価する。						
質問受付方法（オフィスアワー）	毎週火曜日12:00～13:00をオフィスアワーに設定するので、質問等があれば事前にメールでアポイントメントをとるようにして下さい。これ以外の時間帯に担当教員に会いたい場合も同様に事前にメールでアポイントメントをとって下さい。またメールによる質問も隨時受け付けます。 連絡先：atsuho@tmu.ac.jp						
特記事項（他の授業科目との関連性）							

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（松岡）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（松岡）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	松岡 多利思	前期・後期	火曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	松岡ゼミのテーマは「マクロ経済学+金融」です。マクロ経済学の基礎を身につけ、貨幣の役割や存在意義、インフレーションの効果、金融政策の役割を扱うマネタリー・エコノミックス（Monetary Economics, 貨幣経済学）と呼ばれる分野を学ぶことを主目的とします。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経済学の基礎を身につけ、経済学的思考を身につける事が本ゼミの主目的です。また英語で専門書を読むきっかけを作る。						
授業計画・内容 授業方法	<p>■2020年度前期 前期のゼミではマクロ経済学の主要なテーマである経済成長を学びます。ゼミの進行は受講者が毎週それぞれの割り当てられた箇所を、発表スライドを用いて発表して貰います。テキストは以下を使用する予定です。 「経済成長（第2版）」（デイヴィッド・N・ワイル（著））（ピアソン）2010年11月発売、定価 4,000円+税 学部向けの充実した経済成長のテキストですが、現在絶版になっているので、参加者数によってはテキスト変更の可能性もあります。</p> <p>■2020年度後期 後期のゼミは、英語のテキストを用いて前期と同様、輪読・スライド発表スタイルで進めて行きます。使用するテキストは以下です。 「Modeling Monetary Economies 4 th Edition」(by Bruce Champ, Scott Freeman, Joseph Haslag)Cambridge University Press; 4 Edition (May 9, 2016) 約6000円 学部生向けに書かれた世界的に定評のあるマネタリー・エコノミックスのテキストです。マネタリー・エコノミックスを学ぶとともに、英語の専門書を読む経験はきっと将来役に立つことと思います。洋書を使用するとのことで少し戸惑うかも知れませんが、サポートしますので安心して下さい。（実は私が学部3年生の時に、この初版本をゼミで輪読しました。経済学者を目指すきっかけとなった、とても思い入れの深いテキストです！）</p> <p>■2020年度 就活と卒業論文に専念する予定です。4年次の課題については後々相談して決めます。</p>						
授業外学習	発表担当者は教科書担当パートを事前に良く読み理解し、プレゼンテーションの準備すること。 参加者は事前にテキストを読み、疑問点をゼミ内で解消できるように準備すること。						
テキスト・参考書等	<p>■前期「経済成長（第2版）」（デイヴィッド・N・ワイル（著））（ピアソン）2010年11月発売、定価 4,000円+税</p> <p>■後期 「Modeling Monetary Economies 4 th Edition」(by Bruce Champ, Scott Freeman, Joseph Haslag)Cambridge University Press; 4 Edition (May 9, 2016) 約6000円</p>						
成績評価方法	ゼミ内での質疑応答やプレゼンテーション等によって総合的に判断する。						
質問受付方法（オフィスアワー）	木曜日 3限						
特記事項（他の授業科目との関連性）	ゼミではマクロ経済学を勉強・研究を行います。よって経済学・数学の基礎は前提知識とします。具体的には、入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学、基礎数学の単位が取れていることを前提条件とします。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（竹田）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013~2017年度入学生	演習（竹田）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	竹田 陽子	前期・後期	火曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	この演習では、企業が直面する問題を解決し、潜在的な付加価値を見いだし、実現するために必要なものの見方とプロセスを身につけることを目指す。経営戦略を中心に学ぶが、経営組織、イノベーション創出に関する理論や実践にも触れる。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>この演習では、日頃から企業の直面する諸課題に関して、常に強い問題意識を持ち、現実の問題からリサーチクエスチョンを立て、関連する学術文献を体系的に学び、過去の知見を自らのものとして、新しい仮説や問題解決、付加価値創出の方法を提案し、現実と照らし合わせて検証する研究方法を身につけることを目標とする。（論理的思考力、総合的問題思考力、情報活用能力）</p> <p>また、グループワークにとりくむ機会を数多くもうけ、自分とは異なる考え方・感じ方を持つ他者とやりとりを通じて世界を認識し、チームとして問題を解決し、新しい価値を生み出す力につける。（コミュニケーション能力）</p>						
授業計画・内容	【授業計画】 演習の流れは次の通り。各フェーズは重なり合い、反復しながら進む。 フェーズI 企業の直面する問題と潜在的な付加価値を認識する 資料を探索し、リサーチクエスチョンを導き出す。 フェーズII リサーチクエスチョンに関する過去の知見を学ぶ 学術文献を読み、体験しながら自らのものとする。 フェーズIII 問題解決、付加価値創出のための仮説やフレームワークを構築する フェーズI & IIの上に立って、自らのものさしを提示する。 フェーズIV 自らの仮説やフレームワークを現実に照らし合わせて検証する 質的、量的方法を用いて、自らの仮説やフレームワークが現実に合っているかを検証する。 フェーズV コンテキストを共有していない人にもわかるように表現する 自分（達）のやっていること、考えていることを他者に表現し、様々な手段を使ってコミュニケーションする（プレゼンテーション、ストーリーテリング、スケッチ、映像、レポート、論文など）機会が頻繁にある。						
授業方法	【授業方法】 上記の演習を個人とグループでおこなう。受け身で知識を覚えて、決まった作業をおこなうのではなく、参加者の能動的で創造的な活動が求められる。						
授業外学習	授業時間以外にも、アイディア創出、文献精査、資料収集、フィールド調査、プレゼンテーションやマルチメディアによる創作準備、レポートや論文の執筆などグループと個人に数多くのワークが課される。						
テキスト・参考書等	演習中に隨時指示、紹介する。						
成績評価方法	演習への参加・貢献（情報活用能力・コミュニケーション能力）、発表内容（論理的思考力、総合的問題思考力、情報活用能力・コミュニケーション能力）、課外活動・自己学習の積極性（情報活用能力・コミュニケーション能力）により評価する。						
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは特に設定しないが、質問等がある場合は事前にメールでアポイントメントをとれば対応する。メールアドレスは初回授業で告知する。						
特記事項（他の授業科目との関連性）							

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（室町）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（室町）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	室町 幸雄	前期・後期	火曜日	5 時限			
授業方針・テーマ	<p>金融工学に関する基礎知識を習得し、その集大成として首尾一貫した卒業論文をまとめ上げる。</p> <p>3年生のゼミでは金融工学に関する基礎的なテキストを輪読し、基礎知識の習得に努める。4年生のゼミでは各自が自分の興味のあるテーマについて報告し、全員で検討する。これを繰り返すことにより、その成果を卒業論文としてまとめる。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>金融工学の基礎知識を習得するだけでなく、報告のしかた、問題解決へのアプローチ、首尾一貫した書類の作成などを経験により学ぶ。</p> <p>3年生の目標は、年度末までにBlack-Scholesモデルによるオプション価格式を理解することを想定しているが、変更もありうる。4年生はゼミでの報告・検討を通して発表技術や問題解決へのアプローチ方法などを学び、その成果を卒業論文としてまとめて首尾一貫した書類の作成を体験する。</p> <p>これらの知識や経験は、論理的思考力、総合的問題思考力、情報活用能力の向上につながると考えている。</p>						
授業計画・内容 授業方法	<p>3年生は金融工学に関する基礎的なテキストを輪読する。テキストは今のところ未定であるが、希望があれば洋書も選択する。ちなみに、最近は『金融工学入門 ポートフォリオ選択とオプション価格評価の基礎』、木村俊一著、実教出版『金融工学入門 第2版』、デービッド・G・ルーエンバーガー著、今野ら訳、日本経済新聞社を使用した。演習受講者は順番にテキストの内容について解説し、全員からの質問・議論に応じる。数式はただ追うだけでなく、常に式の意味を考えながら眺めるように心掛けほしい。</p> <p>なお、背景として必要な数学的知識の習得には、『経済と金融工学の基礎数学』、木島正明・岩城秀樹著、朝倉書店を薦める。</p> <p>4年生は各自が選択したテーマに関する発表と議論が中心になる。当然であるが、関連する論文の紹介も含まれる。選択するテーマによっては、講義や3年時のゼミでは扱っていない分野の知識・技術の習得が必要になることもあるが、その場合は教員のサポートを受けながら各自が自分の努力で習得し、研究の深化に生かす。4年時の後半は卒業論文作成が中心になる。</p>						
授業外学習	毎回、準備が必要である。特に、発表担当者は入念な準備が必要になる。						
テキスト・参考書等	3年生のテキストは未定。年度初にゼミ生と相談して決定する。 4年生のテキストは特にない。各自の必要に応じてテキストや論文を読み進める。						
成績評価方法	ゼミへの参加状況（単なる出席率のことではない）をみて評価する。						
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワー：特に設定しない。メール（muromachi-yukio@tmu.ac.jp）でアポイントメントをとること。						
特記事項（他の授業科目との関連性）	履修前提科目：基礎数学1,2、統計学Ⅰ,Ⅱ、ファイナンス、金融工学。 さらに、金融経済学、金融リスク論の履修も薦める。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（荒戸）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（荒戸）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	荒戸 寛樹	前期・後期	水曜日	2時間・3時間			
授業方針・テーマ	<p>2020年度は以下の3点を柱として学んでいきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 計量経済学の学習 2. 学生の研究発表 3. 調査・研究の方法 <p>4年生は、3年生で勉強した内容を活かして卒業論文を書いてもらいます。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>1. 初級の授業とは大きく異なる（ように見える）学部上級から大学院初級程度の経済学へのステップとなる。</p> <p>2. コンピュータによるデータ分析を通じて、現実経済と理論の繋がりを理解できる。</p> <p>3. 教員との議論をつうじて論理的思考、数理的思考を身につける。</p>						
授業計画・内容 授業方法	<p>☆ 3年生は、ゼミ生と相談をしながら以下のテーマを通じて、経済分析の方法を学ぶことを予定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証分析の方法を学ぶ（中室・津川, 2017; 山本, 2015; 田中, 2015など） ・プログラミングの基本を習得（Pythonを使用する予定） ・個人研究もしくはグループワークによって論文を作成する。テーマはマクロ経済学に限らない。 <p>他にゼミ生から希望があれば、これ以外のテーマにする可能性もあります。</p> <p>☆ 4年生は、3年生のときに得た知識や技術を活かして卒業論文を作成します。</p> <p>☆ 他に、自分の好きな本を紹介しあうゲーム『ビブリオバトル』をします。楽しみながら読書の習慣をつけたり、人前でのプレゼンテーションに慣れることができます。</p> <p>☆ ゼミ生の希望に応じて、ゼミ合宿、インターベンチャーナー、日本銀行や東京証券取引所の見学なども予定しています。</p> <p>【授業方法】 ゼミナールですので、担当者が事前に報告を準備し、その報告を聞いて参加者で質問・議論を行う形で進めていきます。</p>						
授業外学習	<p>毎回テキストの内容を予習して、プレゼンテーションの準備すること。</p> <p>各自の興味に応じて課題図書を提示しますので、それについて勉強してもらい、卒業論文の準備を行います。</p> <p>その他、進捗に応じて適宜指示します。</p>						
テキスト・参考書等	<p>ゼミ受講者の相談の上決定します。</p>						
成績評価方法	<p>出席、課題の提出状況、演習での発言等に基づいて評価します。</p>						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>オフィスアワーは水曜4限です。 気軽に荒戸研究室（3号館403室）にお越しください。</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・「基礎数学1」、「ミクロ経済学1」、「マクロ経済学1」、「統計学I」、「統計学II」の各科目の知識を前提とします。 ・「ミクロ経済学2」、「計量経済学1」、「計量経済学2」の履修を強く推奨します。 						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（竹内）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（竹内）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	竹内 祐介	前期・後期	水曜日	3時間・4時間			
授業方針・テーマ	アジア経済史・現代アジア経済をテーマとする。アジアの各国史というよりも、アジア内諸地域の経済的結びつきの変化や、他地域との比較を通じた成長の共通点/相違点などに着目し、マクロな視点でアジア経済を捉えることに重きをおく。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア経済史・現代アジア経済に対する基礎的知識の習得 ・文献を批判的に読み解く能力 ・上記を身に付けた上で、自由な課題設定に基づくグループ研究・個人研究の成果発表 						
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容および授業方法】 前期は、アジア経済史、現代アジア経済に関する文献の輪読を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。 後期は、グループ研究・個人研究に重きを置いて進行する。演習内での議論および成果発表だけではなく、演習外でも発表する機会を設け、それを目標に研究を進めていってもらう。</p>						
授業外学習	輪読では、毎回発表者を決め、テキストの要約・論点を作成してきてもらう。論点はテキストに対する批判が中心となるので、論点を作成するにあたってはテキスト以外の文献を参照することが必要になる。その他、グループ研究・個人研究の準備をしてもらう。						
テキスト・参考書等	参考書：水島司ほか編 [2015]『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会。輪読で使用する文献については、初回授業で決定する。						
成績評価方法	発表 (50%)、議論への参加度・発言 (50%)						
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、毎週水曜日3限。前日までにメールで予約をした上で研究室（3-316）まで。						
特記事項（他の授業科目との関連性）	「アジア経済史」、「現代アジア経済史」を受講していることが望ましい。また演習は前期、後期ともに履修することを前提として運営する。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（渡辺）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（渡辺）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	渡辺 隆裕	前期・後期	水曜日	4 時限・5 時限			
授業方針・テーマ	ゲーム理論をゼミ形式で学びます。講義で習った先の発展的内容（繰り返しゲーム、不完備情報ゲーム戦略形、不完備情報ゲーム展開形、製品差別化モデル、協力ゲームなど）を学びます。またテキストを読み、問題を解くだけではなく、自ら数理モデルを作成して、分析する力をつけます。自ら決めたテーマで、個人や班で研究を進め、その成果を発表します。相手の発表内容を聞いて質問や意見を出し、より深い理解に到達します。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>(1) ゲーム理論をより深く学び、ゲーム理論に関する知識を習得します。</p> <p>(2) ゲーム理論を中心とした数理モデルを作成し、分析する力を身につけます。</p> <p>(3) 論理的に人にわかりやすく話す技術を身につけます。パワーポイントを使って発表し、分かりやすいレジメを作成することなどを通して、プレゼンテーション能力の向上も目指します。</p> <p>(4) テーマを決めて資料や情報を収集し、論文を仕上げる力を身につけます。</p> <p>(5) 目的や結論と、それを導く論理構成がしっかりとした文章を書く力を身につけます。</p>						
授業計画・内容 授業方法	<p>前期は、毎回、テキストの決められた範囲が課題として出され、その部分を予習しておきます。ゼミの前には学生だけの自主ゼミを行い、分からぬところを解決しておきます。ゼミの時間は、私が課題に関する演習問題を出し、みんなでそれを考えて解きます。次の週には班を作り、課題の部分の理論を応用した「モデル」を作成し発表します。これを繰り返してゆきます。</p> <p>6月と9月（ゼミ合宿）時に研究発表会を行います。研究発表会では、個人もしくは班で課題を決めてモデルを作成し、資料とスライドを作成してその内容を発表します。</p> <p>後期は4年生の卒業論文制作がゼミの中心で、3年生は4年生の卒論のディスカッションに参加して、ゲーム理論やミクロ経済学の理解を深めます。</p>						
授業外学習	<p>テキストの決められた範囲を読み、演習問題を解いておくことが予習として求められます。ゼミの最中に出された演習問題について、不明な点を復習して解決しておく必要があります。</p> <p>研究発表会における資料の収集・分析、レジメの作成、スライドの作成は、自宅学習やグループ学習などゼミ時間以外に作業しなければなりません。</p>						
テキスト・参考書等	テキスト：渡辺隆裕著「ゼミナール ゲーム理論入門」（日本経済新聞社） 宿題などは、この中から出題されますので購入してください。						
成績評価方法	ゼミにおける課題の解答、発表の内容、参加態度などで評価します。						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>火曜3限をオフィスアワーとします。</p> <p>メールでアポイントメントを取り、もし空いている時間があれば、他の曜日・時間でも質問を受けつけることが可能です。</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）	本演習は、「ゲーム理論1」と「ゲーム理論2」を履修していることが前提条件です。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（浅野）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013~2017年度入学生	演習（浅野）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	浅野 敬志	前期・後期	水曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	<p>ゼミのテーマは「会計情報と企業価値評価」である。会計情報の作り方よりもむしろ会計情報の読み方を中心に学習する。また、会計情報に込められた経営者の想いや、会計情報が利用者の意思決定（投資家の投資意思決定など）に役立つかどうかについても検討する。会計情報を作成するのも利用するのも人（ヒト）なので、人の行動原理を理解する必要がある。CFA協会が主催するイベント（IRC）や合同ゼミなどを通じて、社会人や他大学生との交流も行う。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>会計学を中心に、ファイナンスや経営学など社会科学の幅広い分野にわたる知識を習得する。また、ゼミの活動を通じて学問に対する好奇心、問題を感知する感受性、自分の意見をもつクセ、自分の意見を売り込むための表現力などの習得を心がける。</p>						
授業計画・内容 授業方法	<p>【文献の輪読】 前期は、以下のテキストの輪読を通じて「会計情報と企業価値評価」に関する知識を習得する。 津田博史・吉野貴晶著『株式の計量分析入門：バリュエーションとファクターモデル』（朝倉書店、2017年） 【IRC】 後期は、複数のプロジェクトを行う。IRC（Investment Research Challenge）のチームはアナリストレポートを作成する。そのために、CFA協会が主催する企業分析講習会やデータ分析講習会などに参加し、またセルサイドまたはバイサイドのアナリストによる個別の分析講習を受ける。 【合同ゼミ】 合同ゼミのチームは、他大学との合同ゼミに向けて調査レポートを作成する。 【それ以外】 夏合宿、東京証券取引所の見学、ビール工場の見学、OBOG会などを行う。</p>						
授業外学習	リーディング・アサインメントを事前に読み授業に臨むこと。						
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 津田博史・吉野貴晶『株式の計量分析入門：バリュエーションとファクターモデル』（朝倉書店、2017年） 【参考文献】 浅野敬志『会計情報と資本市場：変容の分析と影響』、中央経済社、2018年 伊藤邦雄『新・企業価値評価』、日本経済新聞、2014年 伊藤レポート（経済産業省、20014年8月） 伊藤レポート2.0（経済産業省、2017年10月） スチュワードシップ・コード（金融庁、2014年2月、改訂版2017年5月） コーポレートガバナンス・コード（東京証券取引所、2015年3月、改訂版2018年6月1日） その他、企業価値評価やガバナンスに関する書籍・論文</p>						
成績評価方法	出席状況、演習での発言等をもとに総合的に評価する。						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>原則として水曜2時間目をオフィスアワーとする。質問等があれば研究室（3-314）に来ること。また、メールによる質問も隨時受け付ける。</p> <p>【連絡先】 takasano@tmu.ac.jp</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）	会計学入門、財務会計論、財務諸表論を履修することが望ましい。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（水越）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（水越）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	水越 康介	前期・後期	水曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	<p>マーケティングは、企業にとって欠かすことのできない対市場活動です。技術的に優れている製品というだけでは、市場には受け入れられません。綿密な市場調査、ニーズに基づく製品開発、広告メディアを中心としたプロモーション活動、適切な販路の開拓、長期的な関係性の構築と優れたブランドの育成など、さまざまなマーケティング活動が必要になります。本演習では、そうしたマーケティングのフレームワークを理解するとともに、企業の全社的な戦略としても位置づけられるマーケティング戦略について学びます。</p> <p>マーケティングについて、理論的かつ実践的な能力の獲得を目的とします。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標							
授業計画・内容	書籍、ケースを通じたマーケティングの批判的理解。実践的なマーケティングプログラムの立案。卒業論文の作成。						
授業方法							
授業外学習	予習、復習、グループワーク課題など						
テキスト・参考書等	授業内に適宜指示						
成績評価方法	授業課題						
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは、水曜日、12:00～13:00です。事前に授業中に提示するメールアドレスまでご一報ください						
特記事項（他の授業科目との関連性）	グループワークではグループで随時活動することが求められます						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（森本）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013~2017年度入学生	演習（森本）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	森本 優平	前期・後期	水曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	本演習のテーマは、ミクロ経済学やゲーム理論についての理解を深め、それらの応用について学習することです。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	ミクロ経済学やゲーム理論についての理解を深めること、そしてそれらの応用について学ぶことを通じて、物事を論理的に考える力を身につけることを目標としています。また、ゼミでの報告や討論、そしてレポートや論文の作成などを通じて、自ら問題を見つけ解決していく力や自分の意見をまとめそれを分かりやすく伝える力を身につけることも目標としています。						
授業計画・内容 授業方法	3年生は主にミクロ経済学やゲーム理論関連のテキストの輪読を行います。報告者を決め報告してもらいます。テキストは、受講者の興味や前提知識に合わせ、相談の上決めたいと思います。 4年生は卒業論文の作成を行います。各自研究テーマを設定し、その研究に専念する。定期的にその進捗状況を報告してもらいます。						
授業外学習	3年生は毎回テキストの該当箇所を事前に読み内容を予習する。4年生は各自の研究テーマの研究を進める。また、報告者は報告資料を事前に準備すること。						
テキスト・参考書等	受講者と相談の上決定します。						
成績評価方法	授業に取り組む姿勢、討論への参加状況、授業での報告、レポートなどにより評価します。						
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】水曜3限						
特記事項（他の授業科目との関連性）	「入門ミクロ経済学」、「ミクロ経済学1、2」、および「ゲーム理論1、2」の知識を前提とします。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（宮本）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（宮本）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	宮本 弘暁	前期・後期	水曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	<p>現在、日本・世界は様々な課題に直面しています。本演習では、日本や世界の最新の状況を知り、理解し、その課題について経済学をもとに個人やグループで深い考察を行います。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>変化が激しい社会で活躍するために必要な知識や教養を身につけ、グローバルに活躍できる人材になることを目指します。</p>						
授業計画・内容	<p>Policy Issues</p>						
授業方法	<p>日本・世界が直面する課題を考察、その解決策を模索します。ゼミで扱うテーマについてグループごとに調査、分析をしてもらいます。隔週でそれぞれのグループは進捗状況を本ゼミでアップデートします。期末にそのテーマに関する「政策討論会」を行います。また、各自、ショートレポートを提出してもらいます。課題を考察する際には経済理論、統計・計量分析を活用してもらいます。各自またはサブゼミにおいて、ゼミ生にはマクロ経済学およびデータ分析の手法を学んでもらいます。</p>						
	<p>Updating Ourselves to World</p>						
	<p>毎週、1～2人のゼミ生に日本・世界経済の最新状況についてアップデートしてもらいます。担当者は新聞・雑誌、ネット等から興味がある記事を選び、本ゼミで解説をします。本演習では参加者はクリエーター（creator）であり、また同時に、ユーザー（user）もあります。発表者はクリエーターとして他のゼミ生（ユーザー）の立場に立って発表することを心がけてください。ビジネスの現場（特に国際的な場）では限られた時間において自分の考え、意見を簡潔かつ印象的に伝える必要があります。ゼミではその練習もしていただきます。</p>						
	<p>How to work?</p>						
	<p>皆さんは卒業後、どのような仕事をするのでしょうか？また、どのように働くのでしょうか？隔週、「仕事・働き方」についてゼミ員で議論をしていきたいと考えています。目標は各自が理想の働き方を見つけることです。まずは、世の中にどのような仕事があるのか、また、それはどのような報酬をもたらすのかをゼミ員で考察します。また、AI、オートメーションなどの技術進歩や長寿化がどのように私たちの働き方に影響するのか？また、日本の労働市場はどうあるべきなのかを世界の大きな動きの中で考えることにします。</p>						
	<p>アクションプログラム</p>						
	<p>本演習の特徴はアクションプログラムです。政策討論会、ディベート大会（冬）、夏合宿、インゼミ、現場体験、ネットワーキングなどを企画したいと思います。第1回の演習で詳しい話をしていただきます。</p>						
授業外学習	<p>グループごとに授業時間外のサブゼミやミーティング等が必要になります。また、参加学生は授業時間外に多くの課題をこなすことが期待されます。</p>						
テキスト・参考書等	<p>随時指示します。</p>						
成績評価方法	<p>ディスカッション、研究報告、レポートなどの平常点で評価をします。期末試験は行いません。</p>						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>原則として週に1時間オフィスアワーの時間を設けます。時間は第1回の授業時に発表します。</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）							

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（細海）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（細海）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	細海 昌一郎	前期・後期	水曜日	5 時限・6 時限			
授業方針・テーマ	本演習のテーマは、基礎的なデータ分析方法を習得して、管理会計や財務情報分析に関する研究テーマについて主体的に研究を行うことです。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	管理会計や財務情報分析に関する研究テーマについて、データ分析の方法を用いて分析・評価を行うための基礎的な知識・能力を身に付けること。						
授業計画・内容 授業方法	<p>本演習では、学生が主体的に研究を実践できるように、以下のような進め方で演習を行います。</p> <p>(1) データ分析方法</p> <p>各自の研究テーマの分析に必要な基礎的能力を身に付けるため、企業等のデータの基本的な整理・要約からはじめて、重要なデータ分析方法について検討します（主に、前期）。</p> <p>以上については、教員が主体となって丁寧に指導を行いますが、学生は復習を十分行い、データ分析方法の基礎を身に付けてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が主体となって丁寧に指導 ・データ分析の基礎を身に付ける <p>(2) 研究の実践</p> <p>学生が主体となって具体的な研究テーマを設定し、研究を進めます（主に、後期）。</p> <p>すなわち、(1)をベースに、各自が設定した研究テーマについて、研究の視点（何を明らかにしたいのか）、研究に用いた分析方法、データの収集、分析結果の考察等の内容について、主にグループで研究を行ってもらいます。具体的な研究テーマは、管理会計や財務情報分析に関する研究テーマのほか、学際的な研究テーマなど広く許容します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が設定した研究テーマ ・グループ研究 ・学際的な研究テーマも可 <p>(3) 研究発表（プレゼンテーション）</p> <p>グループで研究した内容について研究発表（プレゼンテーション）を行います（年度末）。</p> <p>また、実践的な研究発表の場として、他大学とのインゼミも予定しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学（法政大学など）とのインゼミ 						
授業外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・主に前期で学ぶデータ分析方法の基礎について、よく復習しておいてください。 						
テキスト・参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、レジュメを配布して行う予定です。 ・参考書については、必要に応じて指示します。 						
成績評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ参加度（貢献度）、研究発表の内容等により総合的に評価します。 						
質問受付方法（オフィスアワー）	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィスアワー：原則として木曜日5時限目としますので、質問等があれば研究室（3-233）に来てください（事前に下記の連絡先に連絡をもらえれば幸いです）。 ・連絡先：hosomi@tmu.ac.jp 						
特記事項（他の授業科目との関連性）	<ul style="list-style-type: none"> ・データ分析による研究というと難しいイメージを持たれるかも知れませんが、できるだけ分かり易く丁寧に指導します。 ・他大学とのインゼミを行っていますので、プレゼン力も付きます。 ・本演習の内容は、就職活動や就職後にも役立つと思います。 ・公認会計士試験や公務員試験等の受験を考えている学生については、十分配慮します。 ・9月後半に、2泊3日程度のゼミ合宿を予定しています。 ・管理会計論や財務情報分析論の履修は、ゼミ応募の条件ではありません。 						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（室田）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（室田）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	室田 一雄	前期・後期	木曜日	2 時限			
授業方針・テーマ 習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>経営科学における数理的手法の基礎を学ぶ。オペレーションズ・リサーチや最適化に関するテキストや論文を少人数で輪読することを通じて、最適化の理論と応用、モデリングとアルゴリズムについて学習する。</p> <p>テキストの内容を紹介する作業を通じて、最適化技術のもつ様々な側面を深く理解することを目指す。最適化には、「理論」、「モデリング」、「アルゴリズム」という三つの柱があるが、それぞれの内容を最近の進展まで含めて理解する。さらに、最適化において三つの柱がどのような関係にあり、どのような相互作用によって最適化技術が発展してきたかを理解する。本演習は、最適化を題材しながらさらにより一般的な立場から、論理的な思考力と表現力を磨くことにも重点をおき、正確で客観的な推論とプレゼンテーションができるように訓練する。</p>						
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・授業方法】 オペレーションズ・リサーチや最適化に関するテキストや論文を少人数で輪読する。毎週、担当者を決めて、テキストに書かれている内容を紹介するとともに、その手法が適用できる状況を探したり、あるいは、その手法の一般化が可能であるかなどの考察を行う。授業における発表においては、背景知識の調査を含めて、発表の資料を準備する作業を課し、それによって、授業を主体的にリードすることを期待する。</p>						
授業外学習	<p>発表の準備としては、テキストに書かれていることを理解して整理するだけなく、そのテキストでは当然の知識として仮定されている予備知識や背景などについて、自主的に調査することが必要である。また、担当のときには授業外において発表の練習を行ってから授業に臨む必要がある。さらに、授業における討論や疑問点を踏まえて、次週までに理解すべき論点を明示して宿題の形で提示するので、その課題に取り組む必要がある。</p>						
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 授業の際に適宜指定する。</p> <p>【最適化・ORに関する参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島雅夫：非線形最適化の基礎、朝倉書店、2001。 ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・塞野善博、土谷隆：最適化と変分法、丸善出版、2014。 ・藤澤 克樹、後藤 順哉、安井 雄一郎：Excelで学ぶOR、オーム社、2011。 <p>【線形代数に関する参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室田一雄、杉原正顯：線形代数I、II、丸善出版、2015、2013。 						
成績評価方法	<p>授業への出席状況、課題の準備状況、発表の内容、および、発表に対する討論への参加状況によって評価する。</p>						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>【オフィスアワー】 原則として木曜5限（メールでアポイントメントをとることが望ましい）。</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【履修前提科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「経営数理」を履修済みであること。 ・「経営科学概論」を履修していることが望ましい。 ・「経営科学2」を履修済みであるか、あるいは2020年度に履修することが望ましい。 						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（森口）	※	経済B 経営B	各2単位
2013～2017年度入学生	演習（森口）	※	経営B 経済B	各2単位
担当教員	森口 聰子	前期・後期	木曜日	2時間・3時間
授業方針・テーマ	数理モデル・最適化理論による意思決定をテーマとする。経営活動において生じる種々の問題に合理的な意思決定を科学的に提供する経営科学において、最適化理論は代表的な役割を担っている。現実問題に最適化理論を適用するためには、適切な数理モデル化が肝要である。 本演習では、最適化理論を用いた経営上の問題の解決、意思決定を取り上げ、最適化理論が適用できるようにする数理モデル化について検討していく。特に興味のある問題について掘り下げ、卒業論文を作成する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	以下を習得することを目的とする。 1. 最適化理論を用いた経営上の問題の解決法、意思決定能力 2. 最適化理論適用のための数理モデル化の技術 3. 計算機（コンピュータ）を用いた最適化技術			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 現実問題に最適化理論を適用するためには、適切な数理モデル化が重要である。「現実問題」の範囲は経営活動における意思決定から、公益・公共性の高い事業まで、多岐にわたる。ある現実問題を解決しようとしたとき、どんなモデルが優れているのかは、何を最優先させるかに依存して違ってくる。「良いモデル」を採用できるようになるためには、最適化理論を熟知している必要がある。また、最適化理論の応用や、機械学習やシミュレーション技術等、数理モデルに関わる分野に精通することで、現実問題の解決能力が高まる。</p> <p>各種最適化問題とそれを解くアルゴリズムについて学習し、状況に応じて、コンピュータプログラミングや最適化アルゴリズムを実装したソフトウェア（ソルバー）、シミュレーションツールを学習し、活用していく。</p> <p>【授業方法】 以下の通り、学習を進めていく。 ・経営科学、オペレーションズリサーチ、最適化理論に関するテキストや論文の輪読 ・各自のテーマについて考えたモデル化と求解方法のゼミ内プレゼンテーション、議論 ・プログラミング、ソフトウェアの演習</p>			
授業外学習	テキスト・論文の発表担当者は、本質的な内容を理解し、わかりやすく説明できる（講義ができる）ように準備をしてくること。 計算機演習、プログラミングの課題を提示する。			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】授業の際に受講生の研究テーマに応じて適宜指定する。</p> <p>【最適化・ORに関する参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島雅夫：非線形最適化の基礎、朝倉書店、2001。 ・田村明久、村松正和：最適化法、共立出版、2002。 ・藤澤 克樹、後藤 順哉、安井 雄一郎：Excelで学ぶOR、オーム社、2011。 			
成績評価方法	講義中の発表・質疑応答、レポートによって評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	質問は隨時受け付ける。メールでの質問も受け付ける。 【オフィスアワー】 原則として、木曜12:10-13:00(メールでアポイントメントをとること)。			
特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【関連科目】 「経営科学概論」、「経営科学2」を履修していない者は、履修すること。</p>			

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（高尾）	※	経済B 経営B	各2単位
2013~2017年度入学生	演習（高尾）	※	経営B 経済B	各2単位
担当教員	高尾 義明	前期・後期	木曜日	2時間・3時間
授業方針・テーマ	経営組織論に関する基本文献を丁寧に講読し、経営組織論の基本的な問い合わせおよびそれに対するさまざまなアプローチを学習する。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	経営組織論の基本的な問い合わせおよびそれに対するさまざまなアプローチを学習することを通じて、経営現象、さらには社会や人間に対する洞察力を高めることができる。また、ディスカッションやグループワークを通じてコミュニケーション能力を高めることができる。			
授業計画・内容 授業方法	経営組織論の基本文献を輪読することで組織を理論的に分析・把握する能力を養成するとともに、ケーススタディやさまざまなエクササイズに取り組むことを通じて理論を実践に適用していくトレーニングも行う。 4年生は組織や経営に関する問い合わせを自ら立てて、卒論に取り組む。 【授業方法】 文献講読を通じたディスカッションが中心であるが、エクササイズの実施やケーススタディの検討なども行う。			
授業外学習	毎回の授業に向けて文献講読、データの分析、プレゼンテーションの準備などを行う必要がある。言うまでもないが、卒論の執筆は授業外に行う。			
テキスト・参考書等	演習開始時に指示する。なお、英語の論文を読むこともある。			
成績評価方法	発表、ディスカッションへの貢献度などから総合的に評価する。			
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として、授業期間中の毎週水曜日14:00-15:00をオフィスアワーに設定します。質問がある場合は、前々日までに必ずメール(ytakao@tmu.ac.jp)で予約をした上で研究室（3号館224号室）まで来てください。			
特記事項（他の授業科目との関連性）	【他の授業科目との関連性】経営組織論を履修済みであることを前提としている。			

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（桑田）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（桑田）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	桑田 耕太郎	前期・後期	木曜日	5時限・6時限			
授業方針・テーマ	<p>桑田ゼミの目標は、仲間達とともに、経営学の理論を、現実の企業が直面する問題と照らしあわせながら学習することを通じて、本質を見抜く考え方や能力を身につけることにあります。具体的には経営戦略論や組織理論の諸問題を、ケースを交えながら取り上げていきます。</p> <p>私はゼミナールを、大学教育においてもっとも重要なプログラムとして考えています。ゼミ生と私との関係はもちろん、ゼミ生同士の横のつながりや先輩・後輩との縦のつながりを大切にしています。そのためにゼミは、正規の時間の本ゼミの他に、週1回のサブゼミ（火曜5時限）、卒業論文の作成、年数回のゼミ合宿等によって運営されます。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>経営戦略論や経営組織論を応用したマネジメント能力の養成 経営戦略論や経営組織論の研究者になるための基礎素養</p>						
授業計画・内容 授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 本ゼミでは、例えば以下のような文献を教材とし、レポーターの報告、質問・解説、討議によって進められ、積極的に議論に参加することが要求されます。 伊丹敬之、『新 経営戦略の論理』、日本経済新聞社 C. バーナード、『経営者の役割』、ダイヤモンド社 E. Penrose, The Theory of the Growth of the Firm, Oxford. G. Donaldson and J. Lorsch, Decision Making at the Top, Basic Book. サブゼミは、基本的に学生が主体となって行うゼミで、最新の経営トピックスとして重要な文献を取り上げながら討論します。 <p>授業外学習：レポーターには、レジュメ作成のほか、プレゼンテーションの準備・議論すべき課題の提起が求められる。参加者は、現実の企業経営の動向と照らし合わせて、毎回のゼミで発言する準備を求められる。</p>						
授業外学習	テキストを事前によく読み、関連する現実に企業の事例等を考えて参加すること。						
テキスト・参考書等	随時指定する						
成績評価方法	ゼミ活動への貢献、卒業論文などによって評価する。						
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】特に指定しないが、メールにて事前にアポイントメントを取って下さい。質問等がある場合には、kkuwada@tmu.ac.jpにメールして下さい。						
特記事項（他の授業科目との関連性）	経営学、経営戦略論、経営組織論、会計学、ミクロ経済学などを既習もしくは平行履修することが望ましい。また、ある程度の英語の読解力やプレゼンテーション能力が必要です。許可されたもののみ履修できる。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（村田）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（村田）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	村田 啓子	前期・後期	木曜日	5時間・6時間			
授業方針・テーマ	現代日本経済						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	現代日本経済の現状や問題点及びそれに関するデータや論文を理解し批判的に検討・分析する力を身に着ける。併せて、相手の理解度に合わせて（つまり、一般の人にも解りやすく）説明したり、立場の異なる人と議論する力を取得する。						
授業計画・内容 授業方法	<p>前期は、毎回、テキストの決められた範囲が課題として出され、各自その部分を予習しておきます。また発表者を事前に原則として2名ずつ割り当てます。演習では発表者がレジュメを元に内容及び考えた事項について発表を行い、後半は皆で議論をします。</p> <p>希望があれば夏合宿を行います。夏合宿ではあらかじめ決めたテーマを元に皆で文献を読み、発表・議論を行います。</p> <p>後期はさらに応用的な分野のテキスト及び文献について読み議論していきます。4年に卒業論文作成希望者がいる場合は、中間報告及び最終報告の場を設け皆で議論します。</p>						
授業外学習	テキストの決められた範囲を読み、自分の考えをまとめておくことが予習として求められます。発表者として担当する回は、該当部分を熟読し、疑問点は自ら文献や参考資料を調べ、当日質問があった場合に対応できるようにしておきます。後期は皆が議論しやすい関連するテーマも考え、事前に皆に提示・予告し議論をより有意義に企画・立案することが求められます。発表者以外の参加者はそのテーマに関する自分の意見も準備しておきます。						
テキスト・参考書等	演習において適宜紹介・指定する。						
成績評価方法	平常点（出席、演習における発表資料、発表内容及び発言）						
質問受付方法（オフィスアワー）	【オフィスアワー】木18：00～19：00(事前にメールで連絡すること)						
特記事項（他の授業科目との関連性）	ミクロ経済学およびマクロ経済学を履修していることが望ましい。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（脇田）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（脇田）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	脇田 成	前期・後期	木曜日	5 時限・6 時限			
授業方針・テーマ	日本のマクロ経済の学習						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	初步のテキストから、研究書まで輪読予定。簡単な実証分析も行いたい。						
授業計画・内容 授業方法	<p>日本経済は不良債権処理の遅れのもと、「失われた10年」に陥りました。強引な処理のもと、トンネルを抜け出したところで、今度はリーマンショック後の世界的金融危機に直撃されました。</p> <p>人口減少と財政危機のもと閉塞感強まる日本経済に有効な処方箋は何でしょうか。日本の景気循環の特性と、マクロ経済の大まかな数字をもとに、日本経済の今後を世界経済の中で考えていきましょう。</p> <p>今年度のゼミは基礎的なミクロ・マクロ経済学の習得から開始することとしますので、経済学をきちんと学習する気持ちのある人を歓迎します。</p>						
授業外学習	授業外学習 テキストをよく読むこと						
テキスト・参考書等	授業中に指示						
成績評価方法	授業中に指示						
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは木曜4限 メールでアポイントを取ること						
特記事項（他の授業科目との関連性）							

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（野口）	※	経済B 経営B	各2単位
2013~2017年度入学生	演習（野口）	※	経営B 経済B	各2単位
担当教員	野口 昌良	前期・後期	金曜日	2時間・3時間
授業方針・テーマ	日本の企業会計基準（JP GAAP）を取り巻く環境は複雑化してきている。米国財務会計基準（USGAAP）や国際財務報告基準（IFRS）との競合（あるいは共存）もひとつの重要なファクターであろう。とくにIFRSは「單一で高品質の国際基準」を志向しているが、「原則主義」や「公正価値」といった特徴を有しており、これらはエンフォースメント次第によっては「高品質」とは相いれない結果を招来するリスクをはらんでいる。これまでIFRSを中心とした会計基準のコンバージェンス（共通化）が推進されてきたが、当初の目的を本当に達成できているのだろうか？演習という少人数の講義形式を利用して、通説的に語られている会計処理・基準の妥当性を、異なる視点から考察・検討することを目標とする。			
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>1. 企業会計制度の構造とメカニズムに関するアドバンストな理解を修得することができる。 2. 会計ルール運用に関する複眼的視点を確立することができる。 3. 他者との議論を通じた説得的なプレゼンテーションスキルを修得することができる。</p>			
授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】 指定したテキストの構成は次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 現代の企業会計 ③ 企業会計の本質とフレームワーク ④ 会計制度の論理と体系 ⑤ 企業のディスクロージャー ⑥ 損益計算書のパラダイム ⑦ 経営パフォーマンスの測定と表示 ⑧ 貸借対照表のパラダイム ⑨ 資産の会計 ⑩ 持分の会計 ⑪ 金融商品の会計 ⑫ 従業員給付の会計 ⑬ 連結グループの会計 ⑭ 企業結合・事業分離等の会計 ⑮ グローバリゼーションの会計 <p>【授業方法】 指定したテキストの内容に関する、履修学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心とした授業を実施するが、適宜レポート課題（一部グループワークの形式も取り入れる予定）も実施して、学生の理解度を確認しながら、目標到達に必要な知識の修得に努める。</p>			
授業外学習	<p>【授業外学習】 指定したテキストの内容の予習・復習（レポート課題の実施を含む）が必要となる。</p>			
テキスト・参考書等	<p>【テキスト】 伊藤邦雄『新・現代会計入門』（日本経済新聞出版社）を予定しているので、事前に学習しておくこと。 【参考書等】 適宜指示する予定である。</p>			
成績評価方法	<p>プレゼンテーション（60%）とディスカッション（40%）のクオリティに基づいて評価する。レポート課題が提示された場合は、プレゼンテーションに加算するかたちで調整する。 到達目標に照らして、企業会計制度の構造とメカニズムに関する必要十分な知識を修得しているか否かが重要な評価ポイントとなる。</p>			
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>【オフィスアワー】 水曜日の4時間目とするが、メールによる質問も受け付ける。</p>			
特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】 「会計学入門」と「財務会計論」で学習した内容を前提にディスカッションを実施するため、「会計学入門」と「財務会計論」を履修済であることが望ましい。</p>			

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（小方）		※	経済B 経営B	各 2 単位		
2013～2017年度入学生	演習（小方）		※	経営B 経済B	各 2 単位		
担当教員	小方 浩明	前期・後期	金曜日	2 時限・3 時限			
授業方針・テーマ	コンピュータの統計ソフトを用いてデータ解析の手法を学ぶ。取得した知識、技術を用い、自らの興味に応じてデータを取得し、解析・分析を行う						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な統計手法の知識を習得する。 ・コンピューターの統計ソフトの操作方法を習得する。 ・自ら文献検索などが行える。 ・プレゼンテーション能力の向上。 <p>またそれにより、普遍的に有用性を持つ能力としてコミュニケーション能力、情報活用能力、総合的問題思考力、論理的思考力、能動的学習姿勢などが培われると期待される。</p>						
授業計画・内容 授業方法	データ解析に関する本を輪読する。発表者は事前に割り当てられた部分の内容を理解し、教員や学生からの質問に答えられるようにしておくこと。後半では自らデータ解析を行い、それに関する発表を行う。						
授業外学習	自身の担当箇所の予習、発表資料作成、データ解析などはすべて授業外学習である。						
テキスト・参考書等	受講生と相談の上決定する。						
成績評価方法	出席、発表、討論参加などを総合的に判断する。						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>【オフィスアワー】月曜3限（メール等で事前にアポイントメントを取ってください） 【E-mail】hiroakiogata@tmu.ac.jp</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）	ノートPC(学校貸与PC可)をゼミに持参すること。内容的に「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」、「統計学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みであることが望ましい。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（森）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013~2017年度入学生	演習（森）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	森 治憲	前期・後期	金曜日	3時間・4時間			
授業方針・テーマ	近年マーケティングで適用事例の増えているテキストデータ（文書データ）の分析手法について学習します。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	データ分析の手法を理解し、実際に分析する能力と統計用ソフトウェアを使いこなす能力。						
授業計画・内容	学生の発表を中心とした演習形式とする。						
授業方法	3年生は教材の輪読と現実のデータを用いたデータ分析を並行して行います。 4年生は卒業論文を執筆・作成します。						
授業外学習	毎回、発表の準備が必要となります。						
テキスト・参考書等	1回目の授業で指示します。						
成績評価方法	発表内容や議論への参加など、毎回の活動状況に基づいて評価します。						
質問受付方法（オフィスアワー）	金曜日5時間オフィスアワーとする。						
特記事項（他の授業科目との関連性）							

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（岩間）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（岩間）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	岩間 俊彦	前期・後期	金曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	<ul style="list-style-type: none"> イギリスを事例にして、産業革命について学びます。テキストや関連文献を読解し・報告し・討論します。 卒業研究のテーマを設定し、調査や資料・文献の検討を進めつつ、それらの成果について定期的に報告や文書作成を行いながら、卒業論文を作成します。 						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 主にイギリスを事例にして、産業革命に関する歴史的展開、現在の状況、解釈方法を自らの思考として活用できるようにします。年度末には、考察の成果をグループ・プロジェクトとしてまとめ、他大学のゼミと合同で、報告・討論会を開く予定です。 課題準備、時間管理、効果的な報告、記録作成、自らの意見の形成、他者との議論からより高次の見解を導き出す（弁証法）といった能力の向上を目指します。 学生各自の書評を相互に評価して、文献を批判的に読み・記述する力をつけます。 卒業論文作成のために必要な事前調査、実際の調査・分析・考察に必要なスキルを習得します。 						
授業計画・内容 授業方法	<ul style="list-style-type: none"> テキストを基礎にした報告と討論、参加者各自の書評の論評会、そして、年度末の共同研究が演習の中心です。また、学生が、自主的に報告・討論・議事進行・議事の記録を行う演習（サブゼミ）も必要に応じて行います。 卒業論文の作成に際して、定期的な研究指導（チュートリアル）、研究や論文執筆の技法を習得するための課題設定、図書館等を活用するためのセミナー、そして、定期的な学生各自の研究報告を行います。 予定 <ol style="list-style-type: none"> ガイダンス（演習の計画、約束事）、割り当て ～6 産業革命に関する報告・討論 図書館セミナー（文献・資料検索） 産業革命の現場を歩く（フィールドワーク） ～13 産業革命に関する報告・討論 図書館セミナー（電子ジャーナル） 卒業研究に関する報告 						
授業外学習	授業での課題（報告、質疑応答）への準備（テキストの読解と課題発見）、課題提出（テキストの講評）への取り組み、共同研究の準備・作業（課題発見、資料・文献調査、報告資料や論文の作成）が必要です。						
テキスト・参考書等	アレン『世界史のなかの産業革命』名古屋大学出版会 シュワブ『第4次産業革命を生き抜く』日本経済新聞社 その他、参考文献については演習時に指示し、kibacoで公開します。						
成績評価方法	演習への参加や貢献（授業態度、質疑応答、演習中の課題、学生相互の評価、7割）と課題提出（3割）によります。演習への貢献や提出物については、成績評価の基準に関する資料を初回の演習等で配布します。						
質問受付方法（オフィスアワー）	オフィスアワーは初回に説明します。						
特記事項（他の授業科目との関連性）	演習の履修の前提となる科目等については、履修の手引きや初回の授業等で連絡します。						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（松尾）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（松尾）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	松尾 隆	前期・後期	金曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	<p>経営戦略は、経営学の理論の一部であるとともに、企業の実践活動でもあります。もちろん、両者は密接な関係にあり、理論が実践に影響を与えることもあれば、実践から理論が深まることもあります。本演習では、実際の企業行動を観察し、そこから経営戦略の理論を理解しつつ、さらに深めていくことを目指します。</p>						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<p>経営戦略が実践者によって、どのように用いられているのか、それは学問としての経営戦略とどのような関係にあるのかを理解することで、自らが実践者になったときに効果的に理論を活用できるように準備を整えることを目指す。</p>						
授業計画・内容 授業方法	<p>(1) 経営戦略に関する理論の復習 (2) 研究対象に対する事前調査 (3) インタビュー等による情報収集 (4) 獲得した情報の分析検討 (5) レポートの作成 以上の内容を、各項目数回にわたって行う。</p>						
授業外学習	<p>毎回のテーマに応じて、文献の読解、データの収集、プレゼンテーション資料の作成をしてもらう</p>						
テキスト・参考書等	<p>別途指示する。</p>						
成績評価方法	<p>演習中の発言、プレゼンテーションの内容、授業外活動の積極性により評価</p>						
質問受付方法（オフィスアワー）	<p>講義の前後、またはメールでアポイントを取ってください</p>						
特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>特になし</p>						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。

2018年度以降入学生	演習（小林）		※	経済B 経営B	各2単位		
2013～2017年度入学生	演習（小林）		※	経営B 経済B	各2単位		
担当教員	小林 延人	前期・後期	金曜日	4時間・5時間			
授業方針・テーマ	主として、幕末維新期～昭和戦前期（19世紀後半～20世紀前半）の日本経済史を扱う。本演習では、経済史の基礎的な方法論を学ぶことに重点を置く。						
習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究を整理し、通説として受け入れられている歴史的事実を知識として習得するとともに、議論の組み立て方を学ぶ。 史料を読み、その解釈を通じて過去の研究とは異なる論点を析出する。 個人研究報告を行い、批判を受けることで、自己の研究を見直してさらに議論を深める。 						
授業計画・内容 授業方法	<p>①テキストおよびその他論文の輪読、②史料輪読、③個人研究報告、を組み合わせて実施する。</p> <p>前期は、日本経済史に関する文献の輪読を通じて、基礎的知識の習得と文献を批判的に読み解く能力を養う。</p> <p>後期は、史料輪読・個人研究に重きを置いて進行する。研究のテーマは、教員が直接的には提示せず、演習参加者が自身の関心に沿って選択する方法を探る。</p>						
授業外学習	<p>①②の輪読では、毎回報告者を定め、文献の要約・論点をレジュメに作成してきてもらう。報告者以外の演習参加者も事前に文献を講読していることを前提として授業を進める。</p>						
テキスト・参考書等	<p>テキスト：武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019年）定価3,400円+税 参考書：梅村又次ほか編『日本経済史』全8巻（岩波書店、1988-90年）、日本銀行調査局編『日本金融史資料』明治・大正編全25巻（大蔵省印刷局、1955-1961年）</p>						
成績評価方法	発表（50%）、議論への参加度（50%）						
質問受付方法（オフィスアワー）	原則として毎週木曜2限に設定する。メールで事前に連絡すること。						
特記事項（他の授業科目との関連性）	<p>【他の授業科目との関連性】：①「日本経済史概論」、②「日本経済史」「現代日本経済史」「経営史」のいずれか1つ、を履修済であることが望ましい。演習は通年で履修することを前提として運営する。</p>						

備考：担当教員の許可を得た学生のみ履修可能

※演習、卒業論文の授業番号は、本冊子冒頭の「演習・卒業論文 開講科目一覧表」を確認すること。

※「演習」は、前期と後期それぞれ必ずWeb履修申請するよう、注意すること。

※「卒業論文」は、4年次の前期に必ずWeb履修申請するよう注意すること（後期はWeb履修申請できない）。

※演習室は、インフォメーションギャラリーの経済経営学部・経営学系掲示板で4月以降に必ず確認すること。